

# 高等専門学校機関別認証評価に関する 第2サイクルの中間検証結果報告書

平成28年3月

独立行政法人 大学評価・学位授与機構



## はじめに

独立行政法人大学評価・学位授与機構（以下、機構という。）は、文部科学大臣から認証された認証評価機関として、平成 17 年度から高等専門学校の認証評価を開始し、平成 22 年度をもって第 1 サイクルを終了しました。当機構では、認証評価のほかに選択的評価事項を設け、希望する高等専門学校に対して、第三者評価として実施してきました。第 2 サイクルの最初の 3 年間、平成 23 年度から 25 年度までに、延べ 34 校が認証評価を、また、延べ 64 校が選択的評価事項 A、B に係る評価を受けました。

本報告書においては、平成 23 年度から 25 年度までに当機構が実施した高等専門学校機関別認証評価及び選択的評価事項に係る評価について、評価結果を含めてその概要を述べるとともに、評価対象校及び評価担当者に対して毎年度実施してきたアンケート調査の結果の分析及び高等専門学校機関別認証評価の評価結果の分析を行っています。第 2 サイクルの途中までの中間検証結果ではありますが、認証評価の成果・効果と課題を明らかにするとともに、認証評価を通じて見えてきた日本の高等専門学校の現状についても述べています。また、当機構では、平成 30 年度からの第 3 サイクルの高等専門学校機関別認証評価及び選択的評価事項に係る評価の実施にあたり、高等専門学校評価基準の改訂等の見直しの検討を行っており、本中間検証結果を利用しています。

当機構は平成 28 年 4 月 1 日に、独立行政法人 国立大学財務・経営センターと統合し、「独立行政法人大学改革支援・学位授与機構」となります。当機構の実施する評価は、『高等専門学校機関別認証評価 実施大綱』にもあるとおり、「大学等の教育研究水準の維持及び向上を図るとともに、その個性的で多様な発展に資する」ために行うものであり、当機構はこれからも、この目的に向けて評価システムの改善に努めてまいります。皆さまの一層のご理解とご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成 28 年 3 月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

# 目 次

はじめに

I	高等専門学校機関別認証評価（含：選択的評価事項に係る評価）の概要・・・	1
I-1	機関別認証評価・・・	1
I-2	選択的評価事項に係る評価・・・	8
II	アンケート調査による検証・・・	10
II-1	機関別認証評価・・・	10
1.	アンケート調査の実施方法・・・	10
2.	項目別の検証・・・	13
(1)	評価基準及び観点について・・・	13
(2)	説明会・研修会について・・・	17
(3)	自己評価書について・・・	18
(4)	書面調査・訪問調査について・・・	20
(5)	評価結果（評価報告書）について・・・	22
(6)	評価の効果・影響について・・・	25
(7)	評価の作業量、スケジュール等について・・・	31
(8)	前回の認証評価受審との比較について・・・	34
(9)	評価についての全般的な意見・感想について・・・	34
II-2	選択的評価事項に係る評価・・・	35
1.	アンケート調査の実施方法・・・	35
2.	項目別の検証・・・	35
(1)	評価を受けた理由について・・・	35
(2)	選択的評価事項及び観点について・・・	35
(3)	自己評価書について・・・	36
(4)	書面調査・訪問調査について・・・	36
(5)	評価結果（評価報告書）について・・・	37
(6)	評価についての全般的な意見・感想について・・・	37
II-3	まとめ・・・	38
III	高等専門学校評価結果の分析・・・	39
1.	「優れた点」及び「改善を要する点」の概要・・・	39

2. 基準ごとの分析	43
(1) 基準 1 : 高等専門学校の目的	43
(2) 基準 2 : 教育組織 (実施体制)	44
(3) 基準 3 : 教員及び教育支援者	44
(4) 基準 4 : 学生の受入	45
(5) 基準 5 : 教育内容及び方法	46
(6) 基準 6 : 教育の成果	47
(7) 基準 7 : 学生支援等	48
(8) 基準 8 : 施設・設備	48
(9) 基準 9 : 教育の質の向上及び改善のためのシステム	49
(10) 基準 10 : 財務	49
(11) 基準 11 : 管理運営	50
(12) 選択的評価事項 A : 研究活動の状況	50
(13) 選択的評価事項 B : 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	50
3. 教育の国際化に関する対応状況	52
4. まとめ	55
IV 考察—第 3 サイクルに向けて—	56
(1) 学習成果及び教育の内部質保証システムの重視	56
(2) フォローアップの仕組みの導入	56
(3) 評価尺度を用いた評価結果の提示	56
(4) 対象校の負担軽減策	57
(5) 専攻科の取り扱い	57
(6) 教育の国際化の状況の取り扱い	57
おわりに	58
参考文献	59

## 参考資料

1	年度別対象校一覧	62
2	認証評価に関する検証のためのアンケート【対象校】(高等専門学校用)	64
3	認証評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】(高等専門学校用)	88
4	認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答) 【対象校】	105
5	認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答) 【評価担当者】	113
6	選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【対象校】 (高等専門学校用)	118
7	選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】 (高等専門学校用)	120
8	選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 (選択式回答)【対象校】	124
9	選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 (選択式回答)【評価担当者】	126
10	高等専門学校機関別認証評価 基準・観点別の「優れた点」「改善すべき点」数一 覧	128

## I 高等専門学校機関別認証評価（含：選択的評価事項に係る評価）の概要

高等専門学校機関別認証評価の第2サイクルの最初の3年間である平成23年度から平成25年度までに実施した認証評価の状況を分析するに当たって、まず、機構が実施した平成23年度から平成25年度までの高等専門学校の機関別認証評価及び選択的評価事項に係る評価の概要を述べる。なお、平成26年度以降にも平成29年度まではこの期間に行った認証評価と同一の基準で実施することとしている。

### I-1 機関別認証評価

高等専門学校には、その教育研究水準の向上に資するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の総合的な状況に関し、7年以内ごとに、文部科学大臣が認証する評価機関（認証評価機関）の実施する評価を受けることが義務付けられている（学校教育法第109条第2項、同法123条及び学校教育法施行令第40条）。

機構は、この認証評価制度の下で、高等専門学校の認証評価を行う「認証評価機関」として、平成17年7月に文部科学大臣から認証され、平成17年度より認証評価を開始した。

#### 1. 目的

高等専門学校の機関別認証評価は、我が国の高等専門学校の教育研究水準の維持及び向上を図るとともに、その個性的で多様な発展に資するよう、以下のことを目的として行っている〔1〕。

- (1) 機構が定める高等専門学校評価基準に基づいて、高等専門学校を定期的に評価することにより、高等専門学校の教育研究活動等の質を保証する。
- (2) 評価結果を各高等専門学校にフィードバックすることにより、各高等専門学校の教育研究活動等の改善に役立てる。
- (3) 高等専門学校の教育研究活動等の状況を明らかにし、それを社会に示すことにより、公共的な機関として高等専門学校が設置・運営されていることについて、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していく。

## 2. 基本的な方針

上記の目的を達成するため、高等専門学校機関別認証評価は、以下の基本的な方針の下に実施している [1]。

1. 高等専門学校評価基準 [2] に基づく評価
2. 教育活動を中心とした評価
3. 各高等専門学校の個性の伸長に資する評価
4. 自己評価に基づく評価
5. ピア・レビューを中心とした評価
6. 透明性の高い開かれた評価

## 3. 実施体制

平成 23 年度～25 年度の評価を実施するに当たっては、国・公・私立高等専門学校の関係者及び社会、経済、文化等各方面の有識者からなる高等専門学校機関別認証評価委員会（以下「評価委員会」という。）を設置し、その下に、具体的な評価を実施するため、対象高等専門学校の状況に応じた評価部会を編成した。

評価部会には、各高等専門学校の教育分野等を勘案し、対象高等専門学校の学部等の状況に応じた各分野の専門家及び有識者を評価担当者として配置した。



#### 4. 評価の実施方法・プロセス

評価の実施方法及びプロセスの概要は、下記のとおりである。

##### (1) 高等専門学校における自己評価

各高等専門学校は、『自己評価実施要項』[3]に従って自己評価を実施し、自己評価書を作成し、機構に提出した。

##### (2) 機構における評価

機構における評価は、書面調査及び訪問調査により実施した。

- ① 書面調査は、『評価実施手引書』[4]に基づき、対象高等専門学校から提出された自己評価書（高等専門学校の自己評価で根拠として提出された資料・データを含む。）及び機構が独自に調査・収集した資料・データ等に基づいて、対象高等専門学校の状況を調査・分析した。
- ② 訪問調査は、『訪問調査実施要項』[5]に基づき、書面調査では確認できない事項等を中心に調査を実施した。
- ③ 基準ごとに、自己評価の状況を踏まえ、高等専門学校全体として、その基準を満たしているかどうかの判断を行い、理由を明らかにした。  
基準の多くは、いくつかの内容に分けて規定されており、これらを踏まえて基本的な観点が設定されている[2]。基準を満たしているかどうかの判断は、その基本的な観点の分析状況を総合した上で、基準ごとに行った。
- ④ 基準を満たしているもののうち、その取組が優れていると判断される場合や、基準を満たしているが改善の必要が認められる場合等にはその旨の指摘も行った。
- ⑤ 高等専門学校全体として、すべての基準を満たしている場合に、機関としての高等専門学校が機構の高等専門学校評価基準を満たしていると認め、その旨を公表した。（一つでも満たしていない基準がある場合には、高等専門学校全体として高等専門学校評価基準を満たしていないものとして、その旨を公表した。）

表 I-1 に高等専門学校評価基準を示す。

表 I-1 評価基準の構成及び年度別の基本的な観点数の数

基準	第2サイクル (H23-H25)		【参考】第1サイクル(H17-H22)	
	内容	観点数	内容	観点数
基準1	高等専門学校の目的	3	高等専門学校の目的	4
基準2	教育組織(実施体制)	6	教育組織(実施体制)	6
基準3	教員及び教育支援者等	7	教員及び教育支援者	7
基準4	学生の受入	4	学生の受入	4
基準5	教育内容及び方法		教育内容及び方法	
	○準学士課程	7	○準学士課程	8
	○専攻科課程	8	○専攻科課程	8
基準6	教育の成果	5	教育の成果	5
基準7	学生支援等	9	学生支援等	10
基準8	施設・設備	3	施設・設備	3
基準9	教育の質の向上及び 改善のためのシステム	7	教育の質の向上及び 改善のためのシステム	8
基準10	財務	8	財務	7
基準11	管理運営	8	管理運営	6
	計	75	計	76

基本的な観点数の数については、第1サイクルにおいては平成17年度の開始時から平成22年度まで76であった。平成23年度からの第2サイクルにおいては、関係法令改正への対応や中央教育審議会答申の趣旨の反映のために、観点の分割・統合や文章の追加・修正を行ったものの、観点の新設は限定的であり、観点数は75となっている。したがって、評価基準に関しては第1サイクルと大きな差はない。また、「評価実施大綱」、「自己評価実施要項」、「評価実施手引書」、「訪問調査実施要項」においても、継続的な改善は行っているものの、サイクル間での大きな違いはない。

## 5. スケジュール

毎年度、下記のスケジュールで評価を実施した。

### (1) 認証評価説明会、自己評価担当者等に対する研修会

評価実施の前年度の6月に、説明を希望する高等専門学校の関係者に対し、機関別認証評価の仕組み、方法等について説明会を実施するとともに、自己評価担当者等に対し、自己評価書の記載等について説明を行うなどの研修を実施した。(平成23年度は、評価実施の前年度の12月にも自己評価の研修を実施した。)

### (2) 申請の受付

平成23年度実施・・・平成22年8月から9月

平成24年度実施・・・平成23年9月から10月

平成25年度実施・・・平成24年7月から9月

### (3) 評価担当者に対する研修

評価実施年度の6月に、評価担当者が共通理解の下で公正、適切かつ円滑にその職務が遂行できるよう、高等専門学校評価の目的、内容及び方法等について評価担当者に対する研修を実施した。

### (4) 自己評価書の提出

評価実施年度の6月末に、対象校から自己評価書の提出を受けた。

### (5) 評価作業

対象校からの自己評価書提出後の評価作業スケジュールは、次のとおりであった。

7月	書面調査の実施
8月	評価部会、財務専門部会の開催(書面調査による分析結果の整理、訪問調査での確認事項及び訪問調査での役割分担の決定)
10～11月	訪問調査の実施(書面調査では確認できなかった事項等を中心に対象校の状況を調査)
12月	評価部会、財務専門部会の開催(評価結果(原案)の作成)

平成25年度については9月～11月の期間に訪問調査を実施した。

### (6) 「評価結果(案)」の決定

調査結果を踏まえ、評価実施年度の1月に評価委員会で「評価結果(案)」を決定

した。

(7) 評価結果の確定

「評価結果(案)」に対する意見の申立ての機会を設け、評価実施年度の3月の評価委員会での審議を経て最終的な評価結果を確定した。

上記1から5の詳細は、参考文献1～5に示す。

## 6. 評価結果

当機構が評価を実施した高等専門学校の数を表 I-2 に示す。この表に示すように、平成 23 年度から平成 25 年度において、合計 34 校の評価を実施した。評価を受けた高等専門学校を参考資料 1 に示す。

表 I-2 評価を受けた高等専門学校

	国立	公立	私立	計
H23	6	0	0	6
H24	12	1	1	14
H25	14	0	0	14
計	32	1	1	34

平成 23 年度から平成 25 年度に認証評価を実施した高等専門学校 34 校すべてが機構の定める高等専門学校評価基準を満たしているとの評価結果となった。

なお、取り上げられた「優れた点」の総数は 334 件（「主な優れた点」は 142 件）で、1 校あたり平均で 9.8 件（「主な優れた点」は 4.2 件）、「改善を要する点」の総数は 145 件（「主な改善を要する点」は 40 件）で、1 校あたり平均で 4.3 件（「主な改善を要する点」は 1.3 件）であった。

対象校が 60 校であった第 1 サイクルにおいては、取り上げられた「優れた点」の総数は 635 件（「主な優れた点」は 241 件）で、1 校あたり平均で 10.6 件（「主な優れた点」は 4.0 件）、「改善を要する点」の総数は 76 件（「主な改善を要する点」は 10 件）で、1 校あたり平均で 1.3 件（「主な改善を要する点」は 0.2 件）であった。

機構はこの評価結果を毎年 3 月下旬に、各対象機関及び設置者へ通知するとともに、機構のウェブサイトにより公表し、かつ文部科学大臣へ報告した。

## I-2 選択的評価事項に係る評価

### 1. 目的等

機構の実施する認証評価は、高等専門学校の正規課程における教育活動を中心として高等専門学校の教育研究活動等の総合的な状況进行评估するものであるが、高等専門学校にとっての研究活動は、教育活動とともに主要な活動の一つであり、さらに高等専門学校は、社会の一員として、地域社会、産業界と連携・交流を図るなど、教育、研究の両面にわたって知的資産を社会に還元することが求められており、そのような活動が広く行われている。

機構は、高等専門学校評価基準とは異なる側面から高等専門学校の活動を評価するために、「研究活動の状況」（選択的評価事項A）と「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」（選択的評価事項B）の二つの選択的評価事項を設定し、高等専門学校の希望に応じて、これらの事項に関わる活動等について評価を行った。

選択的評価事項は、平成17年度に選択的評価基準として「研究活動の状況」及び「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の評価を開始した。なお、平成18年度実施分より選択的評価基準から選択的評価事項へと名称を改めている。

評価の実施体制等については認証評価と同様である。

基準の評価は、それぞれの観点の判断を総合して実施し、

- ・ 目的の達成状況が非常に優れている
- ・ 目的の達成状況が良好である
- ・ 目的の達成状況がおおむね良好である
- ・ 目的の達成状況が不十分である

の4段階で評価結果を示している。

## 2. 評価結果

評価を受けた高等専門学校の数を表 I - 3 に示す。この表に示すように、選択的評価事項 A、選択的評価事項 B とともに 32 校が評価を受けた。評価を受けた高等専門学校を参考資料 1 に示す。

表 I - 3 選択的評価事項に係る評価を受けた高等専門学校

選択的評価事項 A : 研究活動

	国立	公立	私立	計
H23	6	0	0	6
H24	12	0	0	12
H25	14	0	0	14
計	32	0	0	32

選択的評価事項 B : 教育サービス

	国立	公立	私立	計
H23	6	0	0	6
H24	12	0	0	12
H25	14	0	0	14
計	32	0	0	32

評価結果は、次のとおりであった。

### ○ 選択的評価事項 A

- ・ 目的の達成状況が非常に優れている : 2 校
- ・ 目的の達成状況が良好である : 29 校
- ・ 目的の達成状況がおおむね良好である : 1 校
- ・ 目的の達成状況が不十分である : 0 校

### ○ 選択的評価事項 B

- ・ 目的の達成状況が非常に優れている : 14 校
- ・ 目的の達成状況が良好である : 18 校
- ・ 目的の達成状況がおおむね良好である : 0 校
- ・ 目的の達成状況が不十分である : 0 校

## Ⅱ アンケート調査による検証

当機構においては、毎年度、認証評価及び選択的評価事項に係る評価を受けた高等専門学校（以下、「対象校」という。）及び評価を担当した評価担委員（以下、「評価担当者」という）に対し、選択式回答（5段階・2段階）及び自由記述からなるアンケート調査を実施し、その分析結果を公表〔7～9〕するとともに、その分析結果を評価の改善に反映させてきている。本章では、当機構の大学機関別認証評価に関する第1サイクルの検証結果〔10〕を参考にしつつ、第2サイクルの最初の3年間（平成23年度～平成25年度）におけるアンケート結果を分析し、第1サイクルにおけるアンケート結果とも比較しながら、第2サイクルの認証評価及び選択的評価事項に係る評価における評価基準・評価方法等の有効性及び適切性についての中間検証を行い、平成30年度以降の第3サイクルにおける評価基準・評価方法等の見直し検討のための参考とする。

### Ⅱ-1 機関別認証評価

#### 1. アンケート調査の実施方法

##### (1) アンケート調査項目

アンケート調査項目は、以下の通りである。

[対象校]

1. 評価基準及び観点について
2. 評価の方法及び内容について
  - (1) 自己評価について
  - (2) 訪問調査等について
  - (3) 意見の申立てについて
3. 評価作業量、スケジュール等について
  - (1) 評価に費やした作業量について
  - (2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて
  - (3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて
  - (4) 評価のスケジュールについて
4. 説明会・研修会について
5. 評価結果（評価報告書）について
  - (1) 評価報告書の内容等について
  - (2) 自己評価書及び評価報告書の公表について
  - (3) 評価結果に関するマスメディア等の報道について
6. 評価を受けたことによる効果・影響について
  - (1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について
  - (2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について
7. 評価結果の活用について（記述式回答）



8. 評価の実施体制について（記述式回答）
9. 前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について
10. 前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて
11. その他（感想、意見等）

〔評価担当者〕

1. 評価基準及び観点について
2. 評価の方法及び内容・結果について
  - (1) 自己評価書について
  - (2) 書面調査について
  - (3) 訪問調査について
  - (4) 評価結果について
3. 研修について
4. 評価作業量、スケジュール等について
  - (1) 評価に費やした作業量及び機構の設定した作業期間について
  - (2) 評価作業に費やした労力について
  - (3) 評価作業にかかった時間数について
5. 評価部会等の運営について
6. 評価全般について
7. 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

**（２）実施及び回収状況**

アンケート用紙は、対象校については評価実施年度の3月末（評価結果確定後）に、評価担当者については評価実施年度の12月末に配布している。アンケートの回収状況を表Ⅱ-1に示す。

**表Ⅱ-1 認証評価に関する検証のためのアンケートの回収状況**

	第2サイクル	回答数	回収率	第1サイクル	回答数	回収率
対象校	34 校中	34	100%	60 校中	60	100%
評価担当者	54 人中	47	87%	216 人中	159	74%

**（３）アンケート調査結果の分析**

対象校、評価担当者それぞれに対するアンケート調査の第1サイクルと第2サイクルの選択式回答の集計結果を参考資料4及び参考資料5に示す。これらの集計結果において「平

均」は、5段階の選択肢1～5をそれぞれ1～5の数値に対応させて全回答者についての平均値を算出したものである。また、この平均値に関しては、第1サイクルと第2サイクルの間の差の有意性検定を行っており、有意水準5%以下で有意性が認められた質問項目は平均の数値を赤色にしている。これらの資料を基に、主要な項目を整理・分類し、項目別に分析を行い、第2サイクルにおける認証評価及び選択的評価事項の係る評価の有効性、適切性を検証した。なお、以下の検証においては、必要に応じて参考資料4及び参考資料5の集計結果を参照するが、対象校の集計結果を参照する場合には「機関〇ー〇」、評価担当者の集計結果を参照する場合には「評〇ー〇」と表記する。ここで、〇ー〇は設問番号に対応している。

分析項目は以下の通りである。

- (1) 評価基準及び観点について
- (2) 説明会・研修会について
- (3) 自己評価書について
- (4) 書面調査・訪問調査について
- (5) 評価結果（評価報告書）について
- (6) 評価の効果・影響について
- (7) 評価の作業量について
- (8) 前回の認証評価を受けた効果・影響及び認証評価プロセスの改善について
- (9) 評価についての全般的な意見・感想について

なお、同一サイクル内においても経年変化があることが第1サイクルの分析において分かっているが、本分析では同一サイクル内の経年変化は無視し、経年変化の分析はサイクル間での比較にとどめている。ただし、第2サイクルは最初の3年間のみであり、第1サイクルとは対象校の属性構成が異なっていることに注意が必要である。

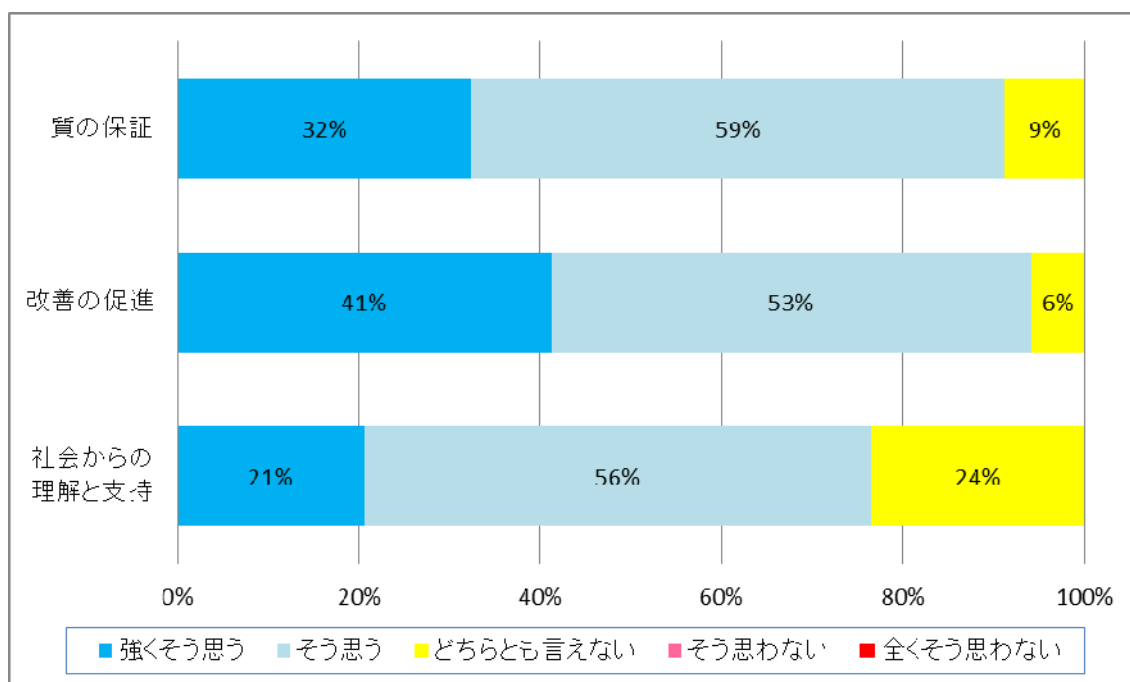
## 2. 項目別の検証

### (1) 評価基準及び観点について

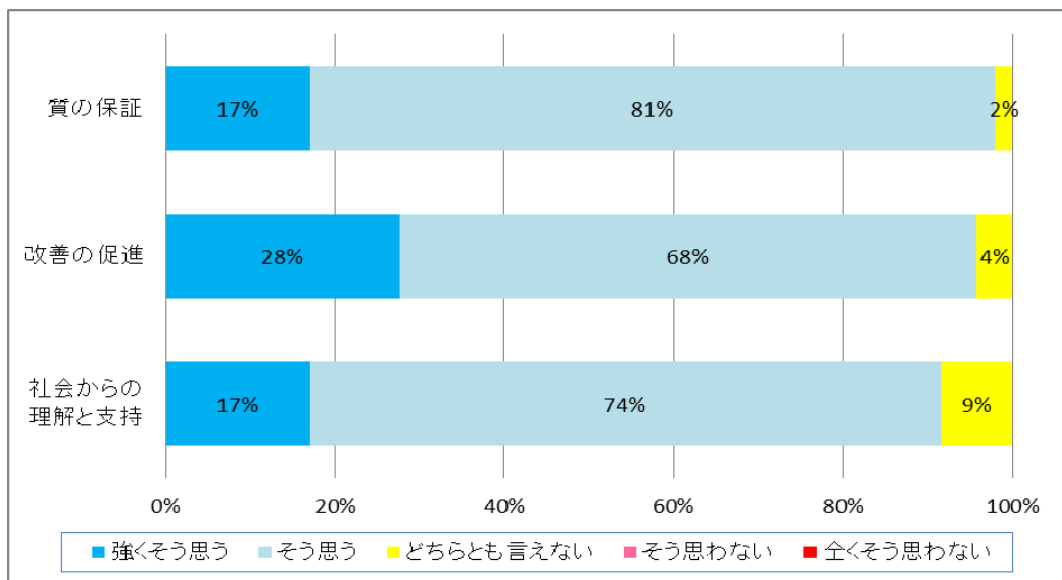
#### 1) 評価の目的に照らしての評価基準・観点の適切性

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査において、評価基準及び観点の構成や内容が「教育研究活動等の質を保証するために適切であった」か（機関1-①、評1-①）、「教育研究活動等の改善を促進するために適切であった」か（機関1-②、評1-②）、「教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった」か（機関1-③、評1-③）について質問した結果を図Ⅱ1-(a)、(b)に示す。

対象校においては、「質の保証」及び「改善の促進」については、図Ⅱ-1(a)に示すように、9割以上が肯定的な回答（「強くそう思う」と「そう思う」の合計、以下同じ）をしているが、「社会からの理解と支持」については、その割合が低くなっている。一方、評価担当者においては、図Ⅱ-1(b)に示すように、3つの項目とも肯定的な回答は9割以上となっている。ただし、いずれの項目も「強くそう思う」の割合は対象校の回答に比べて小さい結果となっている。



図Ⅱ-1(a) 評価の目的に対する評価基準等の構成・内容の適切性  
【対象校】（第2サイクル）

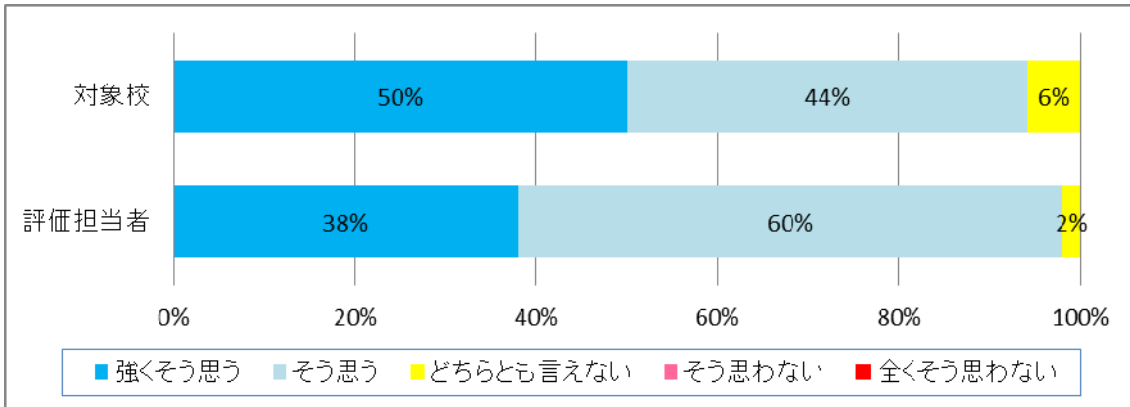


図Ⅱ－１(b) 評価の目的に対する評価基準等の構成・内容の適切性  
【評価担当者】（第２サイクル）

第１サイクルとの比較では、第２サイクルにおいて評価基準・観点を大きく変更していないこともあって、平均値は有意な差が見られないものの、対象校、評価担当者ともに、ほぼすべての項目において増加傾向にある。

## ２）教育活動を中心に評価基準・観点を設定していることの適切性について

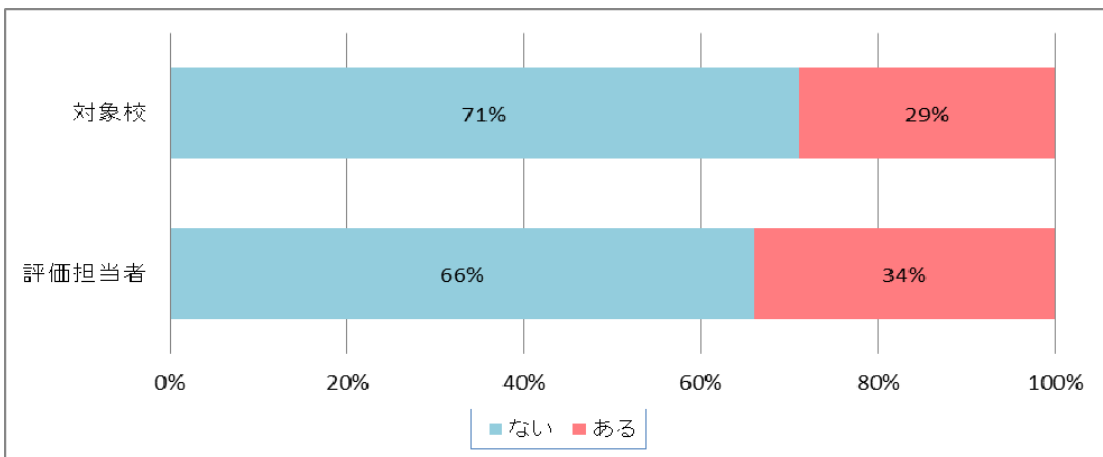
評価基準・観定の構成や内容が、「教育活動を中心に設定していることは適切であった」か（機関１－④、評１－④）については、図Ⅱ－２に示すように、対象校、評価担当者ともに肯定的な回答が多くなっている。なお、第２サイクルと第１サイクルの違いは大きくない。



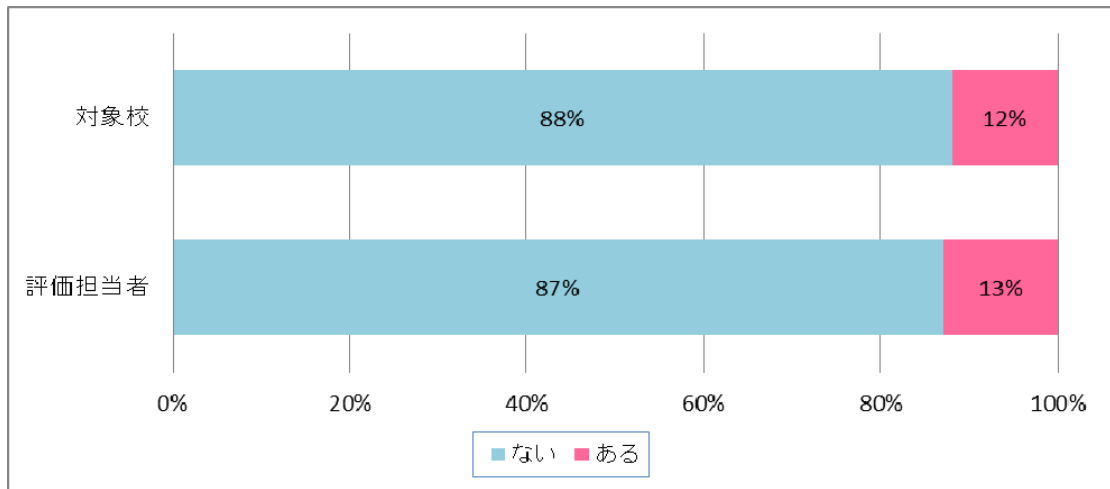
図Ⅱ－２ 評価基準・観点の構成・内容が教育活動を中心としていることの適切性  
【対象校、評価担当者】（第2サイクル）

### 3) 評価基準・観点の評価しにくさ、内容の重複の有無について

「評価しにくい評価基準・観点があつた」か（機関1－⑤、評1－⑤）については、図Ⅱ－3(a)に示すように、対象校、評価担当者ともに、第2サイクルにおいて3割程度が「ある」と回答している。「内容が重複する評価基準・観点があつた」か（機関1－⑥、評1－⑥）については、図Ⅱ－3(b)に示すように、対象校、評価担当者ともに、第2サイクルにおいて1割強が「ある」と回答している。第1サイクルと比較すると、いずれの項目ともに「ある」とする割合は減少傾向にある（機関1－⑤・⑥、評1－⑤・⑥参照）。これは、説明会や研修会での説明の仕方を工夫していることの効果の表れであると考えられるが、評価のしにくさや矛盾を感じていることを無視できない回答者が「ある」と回答していると言えることから、基準・観点の見直し・整理統合は第3サイクルに向けての検討課題である。



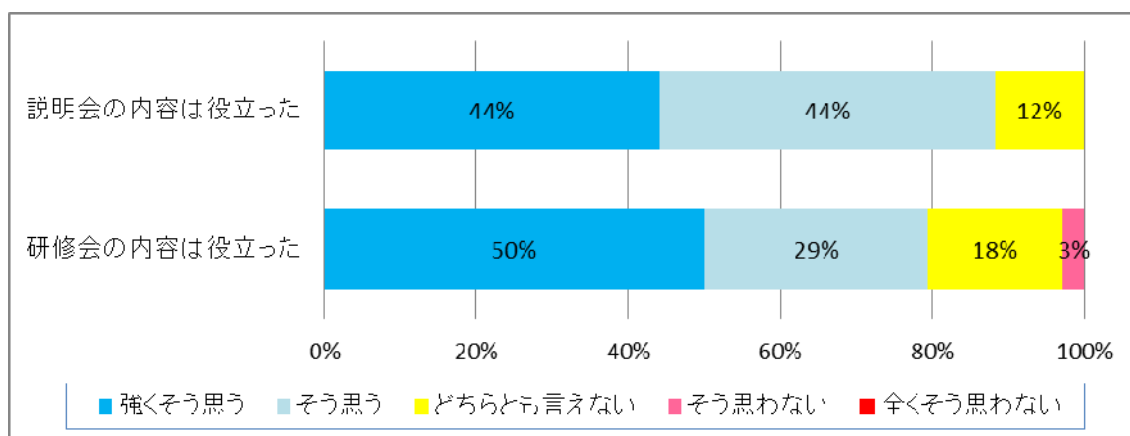
図Ⅱ－3(a) 評価しにくい評価基準・観点の有無  
【対象校、評価担当者】（第2サイクル）



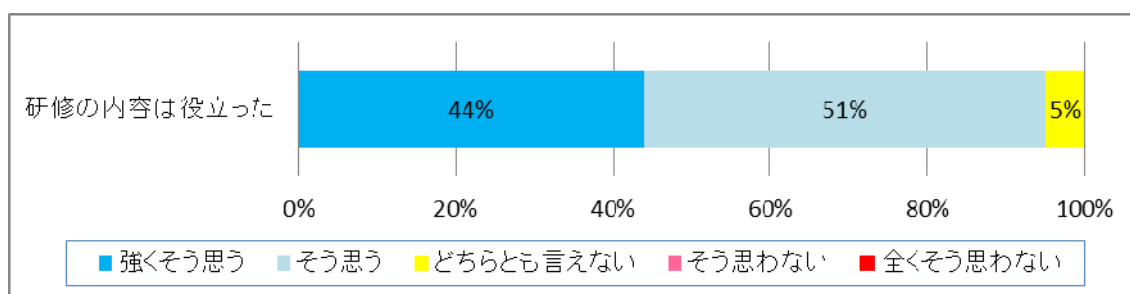
図Ⅱ－3 (b) 内容が重複する評価基準・観点の有無  
【対象校、評価担当者】（第2サイクル）

## (2) 説明会・研修会について

第2サイクルにおいて対象校に対する「説明会の内容は役立った」か(機関4-③)、「研修会の内容は役立った」か(機関4-⑥)についてのアンケート結果を図Ⅱ-4(a)に、評価担当者に対する「研修の内容は役立った」か(評3-③)についてのアンケートを図Ⅱ-4(b)に示す。これより、肯定的な回答が80%~95%と多くを占めていることから、対象校、評価担当者ともに説明会や研修会の内容は役に立っていると見えよう。しかしながら、対象校に対しての「説明会の配付資料は理解しやすかった」か(機関4-①)については9%、「自己評価担当者等に対する研修会の配付資料は理解しやすかった」か(機関4-④)に対して6%がそれぞれ「そう思わない」と回答している。また、評価担当者に対する「研修に費やした時間の長さは適切であった」か(評3-⑤)に対しては、肯定的な回答の割合が7割程度となっており、他の設問項目に比べると小さくなっている。これらに関してさらなる工夫の余地があると言える。



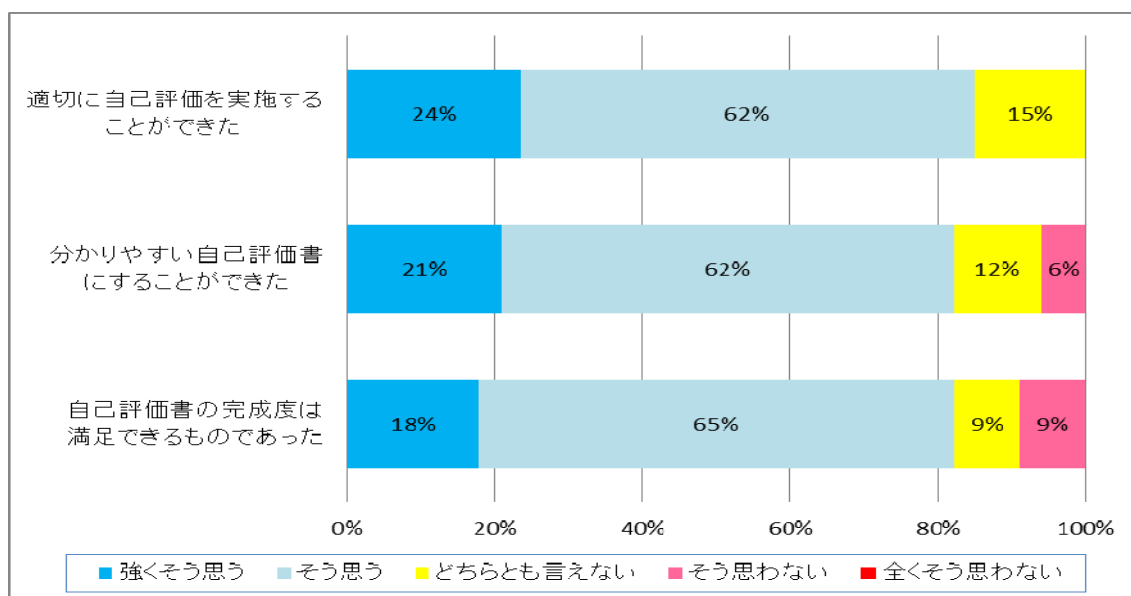
図Ⅱ-4(a) 認証評価説明会・自己評価担当者等研修会の有効性  
【対象校】(第2サイクル)



図Ⅱ-4(b) 評価担当者研修会の有効性  
【評価担当者】(第2サイクル)

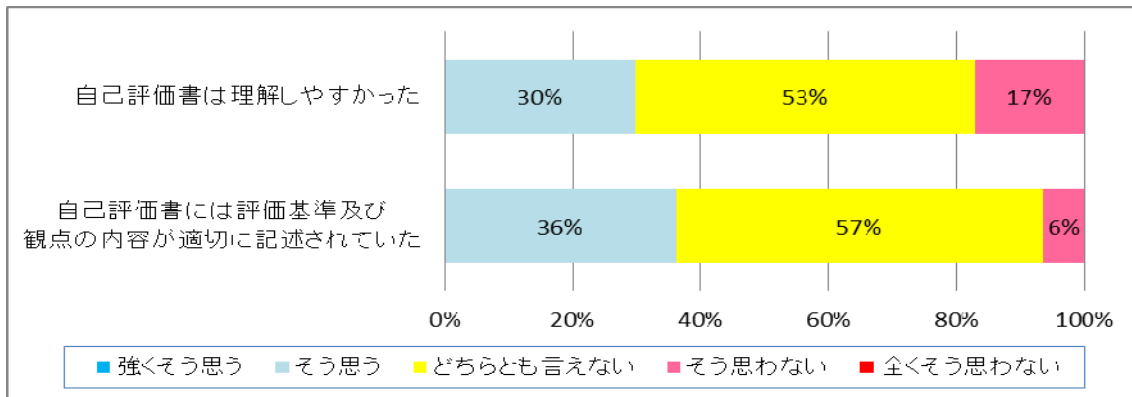
### (3) 自己評価書について

対象校に対し、自己評価書の作成、その分かりやすさ、完成度等に関する質問に対して「評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた」か（機関2－（1）－①）、「総合的な状況が広く社会等の理解を得るため、わかりやすい自己評価書にすることができた」か（機関2－（1）－④）、「自己評価書の完成度は満足できるものであった」か（機関2－（1）－⑤）についての回答を図Ⅱ－5(a)に示す。この図に示すように、肯定的な回答の割合が8割を超えている。これに対して、評価担当者に対し、「自己評価書は理解しやすかった」か（評2－（1）－①）、「自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた」か（評2－（1）－②）について質問した結果は、図Ⅱ－5(b)に示すように、前者において否定的な回答が20%近くあり、後者においては6%あることに加え、いずれの項目に関しても「強くそう思う」の回答が0となっているなど、対象校とは若干認識が異なっている。これらは第1・第2サイクルの間で大きくは変化していない。



図Ⅱ－5(a) 自己評価書の作成について  
【対象校】（第2サイクル）





図Ⅱ－5 (b) 自己評価書の作成について 【評価担当者】(第2サイクル)

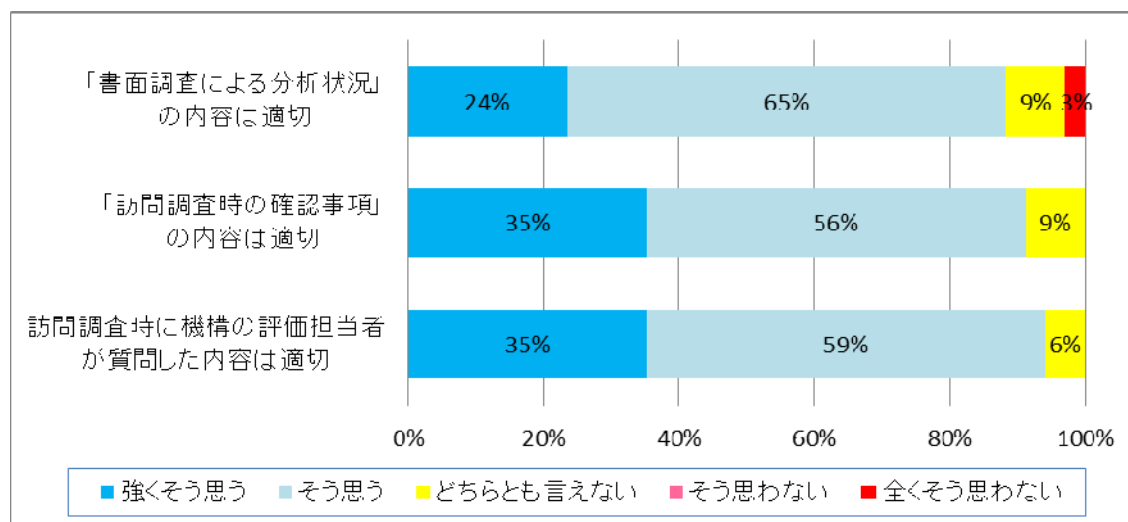
自己評価書の添付資料に関しては、対象校は「自己評価書の添付資料は既に蓄積していたもので十分対応することができた」(機関2-(1)-②)に対する否定的な回答の割合が2割近く、「自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った」(機関2-(1)-③)との回答が50%程度にも上っており、評価担当者においても、「自己評価書には必要な根拠資料が添付されていた」(評2-(1)-③)と思わない割合が1割強認められる。これに関しては、第1サイクルと比較すれば第2サイクルでは改善傾向にあるものの、さらに対象校に対する研修会などにおける説明の工夫が必要と考えられる。

なお、自己評価書作成上の文字数制約に関して、対象校に対し「文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった」か(機関2-(1)-⑥)について質問した結果については、否定的な回答の割合は、減少傾向にあるとはいえ、依然として15%程度となっている。機構としては文字数制約は目安であることを対象校研修会等において説明しているものの、対象校側では文字数に対する認識が強いと考えられるため、さらなる説明の徹底が必要である。また、「すでに機構の認証評価を受けた他高専の自己評価書を参考にした」(機関2-(1)-⑦)とする割合は第2サイクルにおいて、70%程度となっているものの、減少傾向にある。これについては、第1サイクルにおける対象校での経験に加え、研修会等での説明の成果であるとも考えられるものの、評価の結果が当該対象校のみでなく他校にも波及することは認証評価システムの効果を考える場合には重要であることから、他高専の評価結果を積極的に参考にするよう説明会や研修会で指示する必要があると言える。

#### (4) 書面調査・訪問調査について

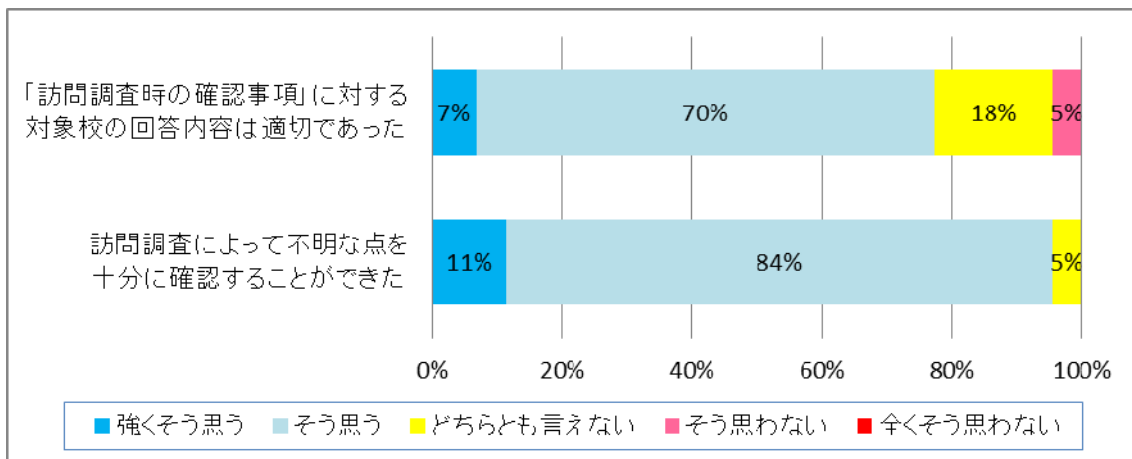
書面調査に関しては、「機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった」か（評2-(2)-①）に対する評価担当者の肯定的な回答は75%とおおむね適切なものとなっている。また、「書面調査を行うために対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった」か（評2-(2)-②）に対しては、否定的な回答、すなわち自己評価書と参考資料のみで十分とする回答が1割程度増加しており、平均値にも有意な差が見られることから、対象校側の用意する資料の質が向上してきていることが考えられる。

また、「書面調査による分析状況の内容」（機関2-(2)-①）、「訪問調査の確認事項の内容」（機関2-(2)-②）、及び「訪問調査時における評価担当者の質問の内容」（機関2-(2)-③）の適切性に関する回答については、図Ⅱ-6(a)に示すように対象校は9割程度が肯定的な回答をしており、サイクル間で有意差があるとは言えないものの、第1サイクルと比較すると第2サイクルにおいて平均値は上昇傾向にある。



図Ⅱ-6(a) 書面調査による分析状況、訪問調査時の確認事項等の適切性  
【対象校】(第2サイクル)

一方、「訪問調査時の確認事項」にする対象校の回答内容は適切であったか（評2-(3)-①）に対して肯定的に回答する評価担当者の割合は、図Ⅱ-6(b)に示すように、80%弱となっており、確認内容の適切性に対する対象校の認識（前述）と比べるとやや少ないが、「訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた」か（評2-(3)-②）については肯定的な回答が95%と、目的は達成できたと言えよう。

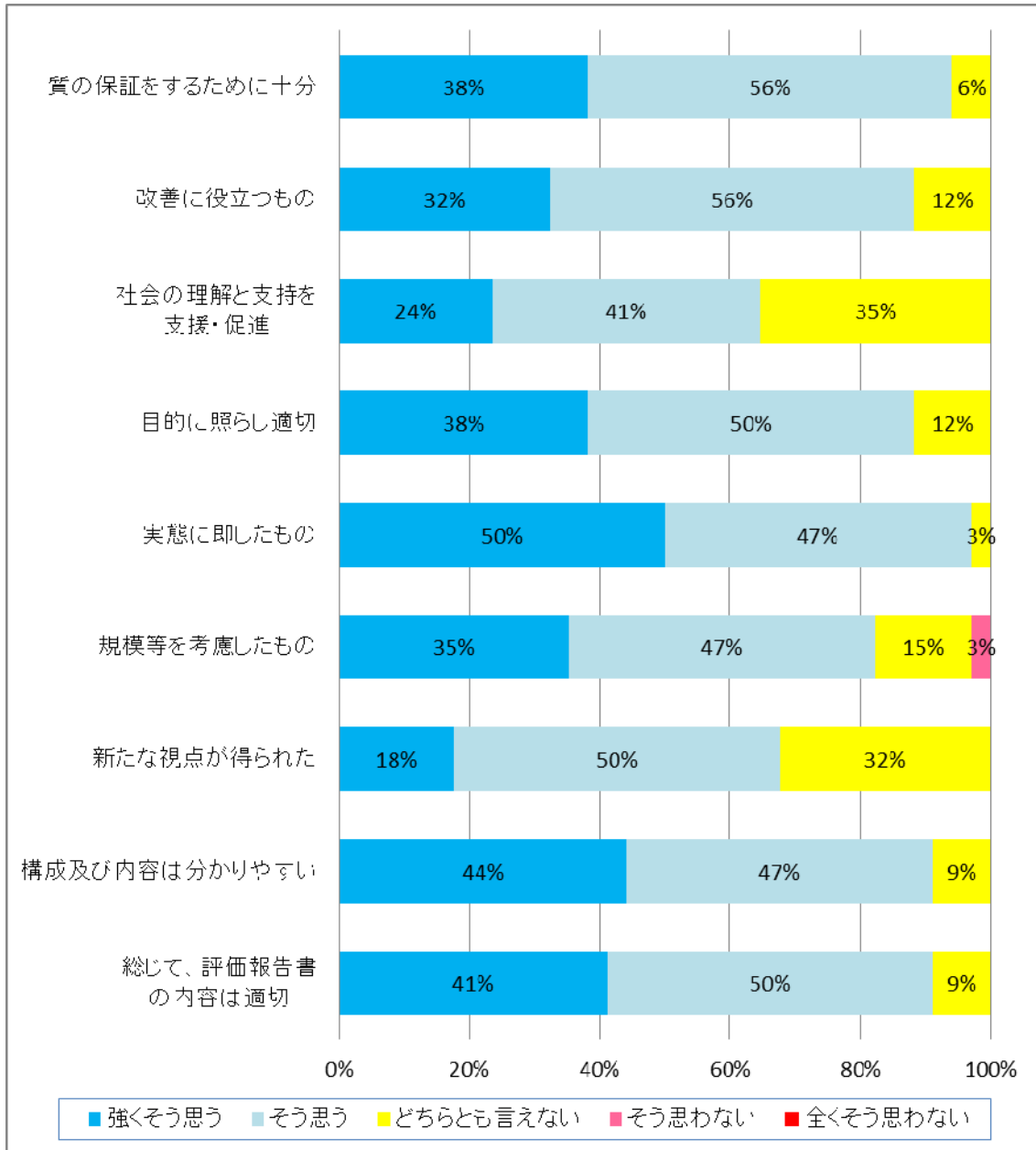


図Ⅱ－6(b) 訪問調査時の確認事項に対する対象校の回答内容の適切性等  
【評価担当者】(第2サイクル)

訪問調査の内容及び方法に関しては参考資料4・5よりおおむね適切と思われるが、「実施内容の時間配分は適切であった」か(機関2-(2)-⑥、評2-(3)-⑤)に対して「そう思わない」という回答が、対象校で6%、評価担当者で10%あった。また、対象校に対し「実施内容として面談を設けたことは適切だった」か(機関2-(2)-④)について質問した結果は、否定的な回答が6%となっており、これらの点について工夫の余地があると言える。

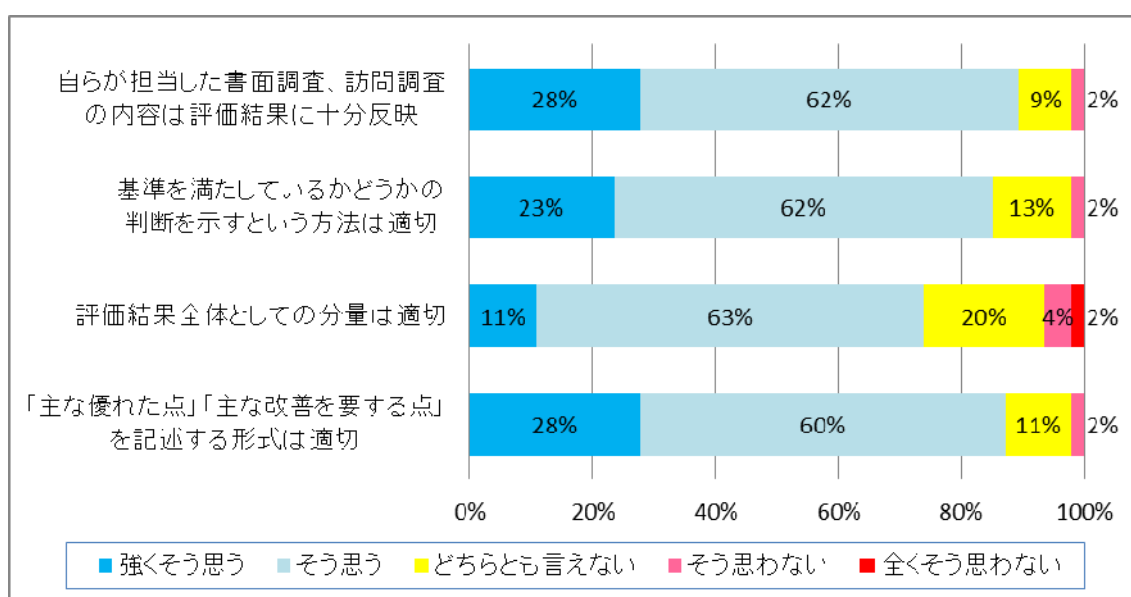
## (5) 評価結果（評価報告書）について

評価結果の内容等に関して、対象校側は、図Ⅱ－7(a)に示すように、「質を保証するために十分であった」か（機関5－（1）－①）及び「改善に役立つものであった」か（機関5－（1）－②）、「目的に照らし適切なものであった」か（機関5－（1）－④）、「実態に即したものであった」か（機関5－（1）－⑤）、「規模等を考慮したものであった」か（機関5－（1）－⑥）「構成及び内容は分かりやすいものであった」（機関5－（1）－⑧）かに対しては、肯定的な回答が80%以上という結果となっており、「総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった」（機関5－（1）－⑨）としている。しかし、「社会の理解と支持を得ることを支援・促進するものであった」（機関5－（1）－③）及び「教育研究活動等に関して新たな視点が得られた」（機関5－（1）－⑦）に対しては「どちらとも言えない」の割合が3割以上と多くなっており、認証評価をより効果的なものとするためには、これらについて改善が望まれる。



図Ⅱ－7(a) 評価報告書の内容の適切性【対象校】(第2サイクル)

一方、評価担当者側の評価結果に対する評価については、図Ⅱ－7 (b)に示すように、「自らの担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された」か（評2－(4)－①）及び「全体の評価結果と併せて「主な優れた点」・「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった」か（評2－(4)－④）、「基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった」か（評2－(4)－②）についてはいずれも肯定的な回答が多くなっているが、「評価結果全体としての分量は適切」か（評2－(4)－③）については、他に比べると肯定的な回答割合がやや少なく、「どちらとも言えない」の割合がやや多くなっている。判断方法に関しては、例えば評価尺度を用いた評価結果の提示など、評価方法に関しても何らかの改善策を検討することが望まれる。



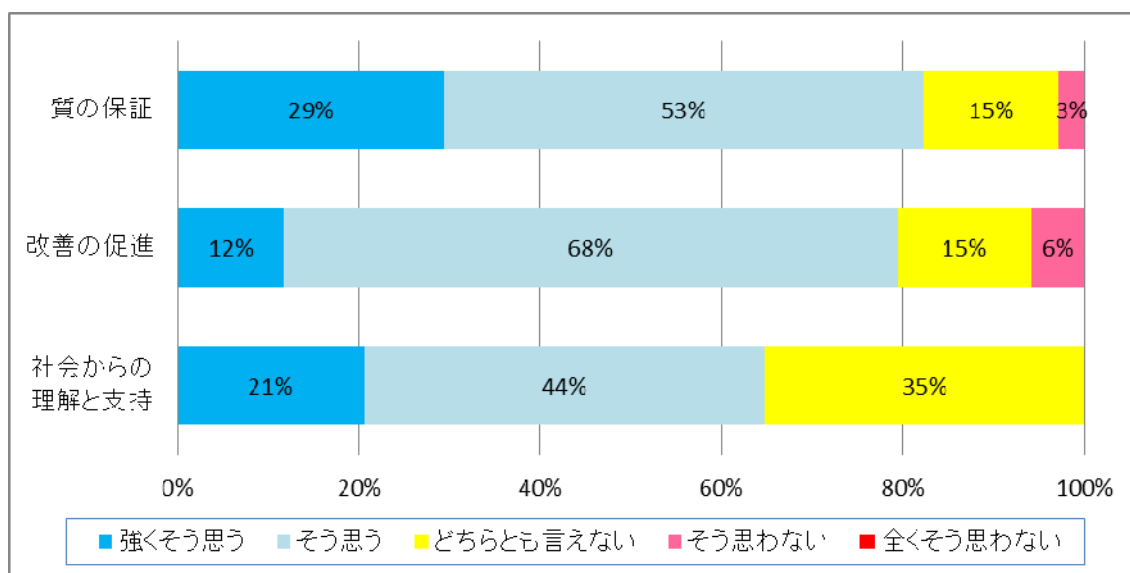
図Ⅱ－7 (b) 評価結果の妥当性【評価担当者】（第2サイクル）

「自己評価書をウェブサイトなどで公表している」か（機関5－(2)－①）及び「評価報告書をウェブサイトなどでの公表している」か（機関5－(2)－②）については、当機構ではいずれも公表しているものの、対象校においてはそれぞれ約30%、約20%の対象校が実施していないという状況となっている。また、「マスメディア等から適切な報道がなされた」か（機関5－(3)－①）という質問に対しては、否定的な回答は5%となっており、第1サイクルの約30%からは減少しているものの、肯定的な回答は第1サイクルと変わらず2割程度であり、依然として極めて少ない状況となっている。

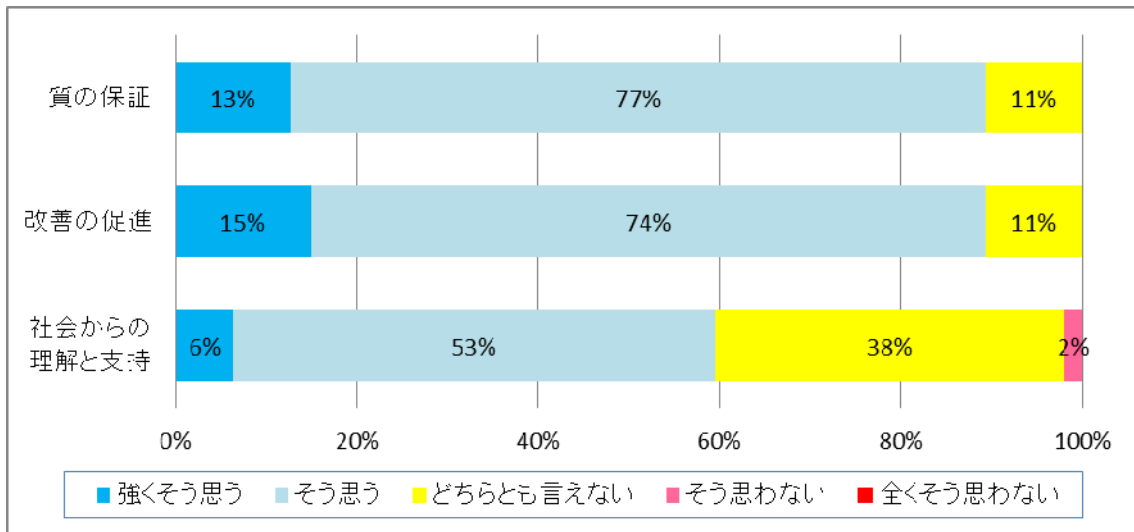
## (6) 評価の効果・影響について

### 0) 評価の目的の達成状況について

認証評価の効果・影響に関しては、対象校に対しては評価を受けたことによる効果・影響について、自己評価実施時点での効果・影響と評価結果を受けての効果・影響とに分け、それぞれ10項目及び15項目の質問を行っている。また、評価担当者に対しては評価を行ったことによる効果・影響など評価全般について6項目の質問を行っている。ここでは、まず当機構の掲げる認証評価の3つの目的の達成状況を検証するために、これらの質問項目の中から、第2サイクルにおける「質の保証」(機関6-(2)-⑫、評6-①)、「改善の促進」(機関6-(2)-⑤、評6-②)、「社会からの理解と支持」(機関6-(2)-⑭、評6-③)に関する集計結果を抜き出し、図Ⅱ-8(a)、(b)に示す。これらの図より、「質の保証」及び「改善の促進」については、対象校、評価担当者ともに、肯定的な回答が80%を超えているが、「社会からの理解と支持」については、ともに60%程度と前二者に比べ低い値となっている。これは、「質の保証」や「改善の促進」については、それらを意図して評価基準・観点が作成されているため、自己評価や認証評価の適切な実施により効果が表れやすいのに対し、「社会からの理解や支持」については、評価結果を適切に社会に伝えると同時に、その情報に対して社会の側が関心を有している必要があるためであると考えられる。したがって、「社会からの理解と支持」を高めるためには、マスメディアも含めた社会の関心を引くような評価結果の提示方法についても検討していくことも必要であると言えよう。



図Ⅱ-8(a) 認証評価の3つの目的の達成状況【対象校】(第2サイクル)

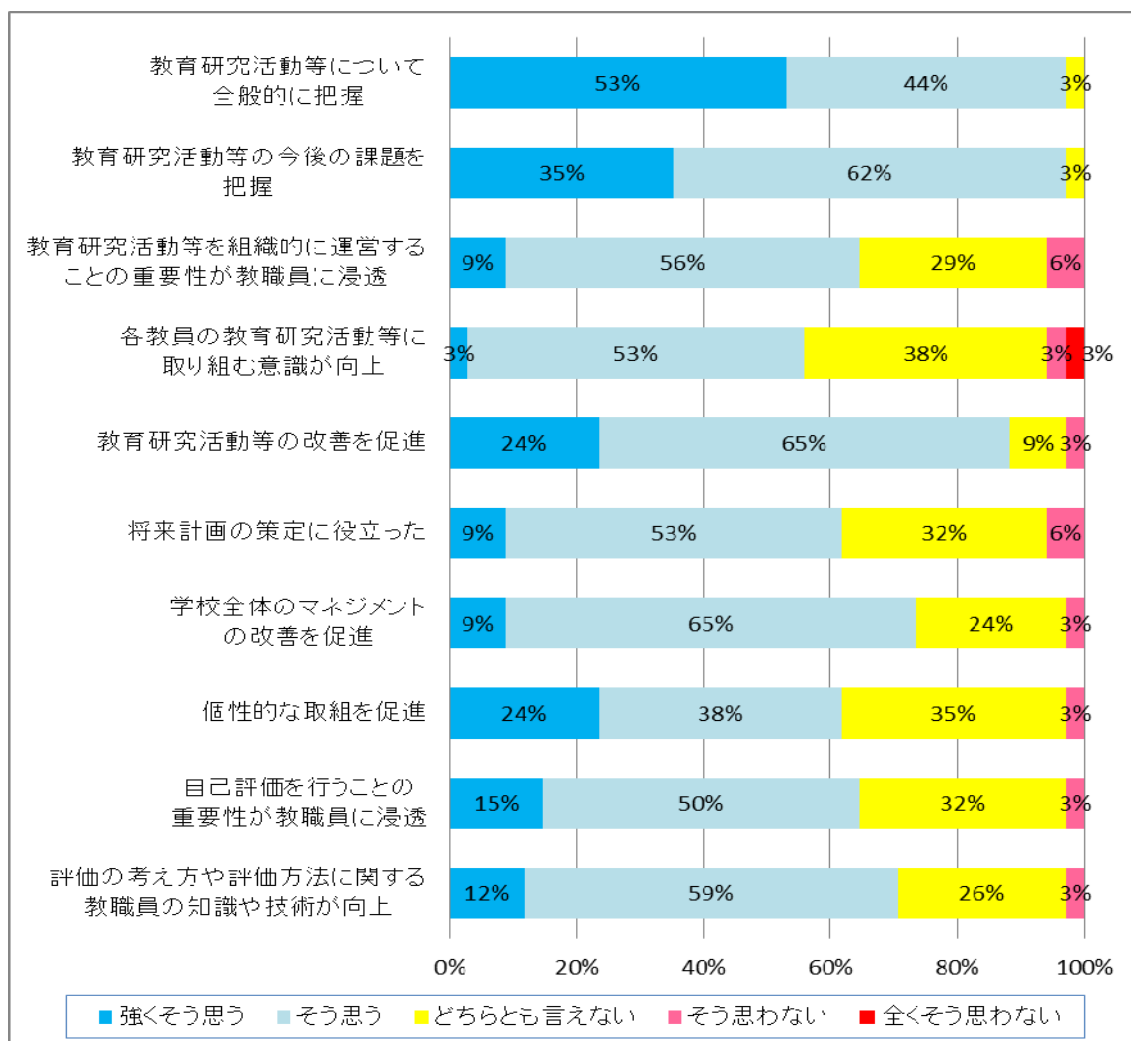


図Ⅱ－8 (b) 認証評価の3つの目的の達成状況【評価担当者】(第2サイクル)



### 1) 対象校が自己評価を行ったことによる効果・影響について

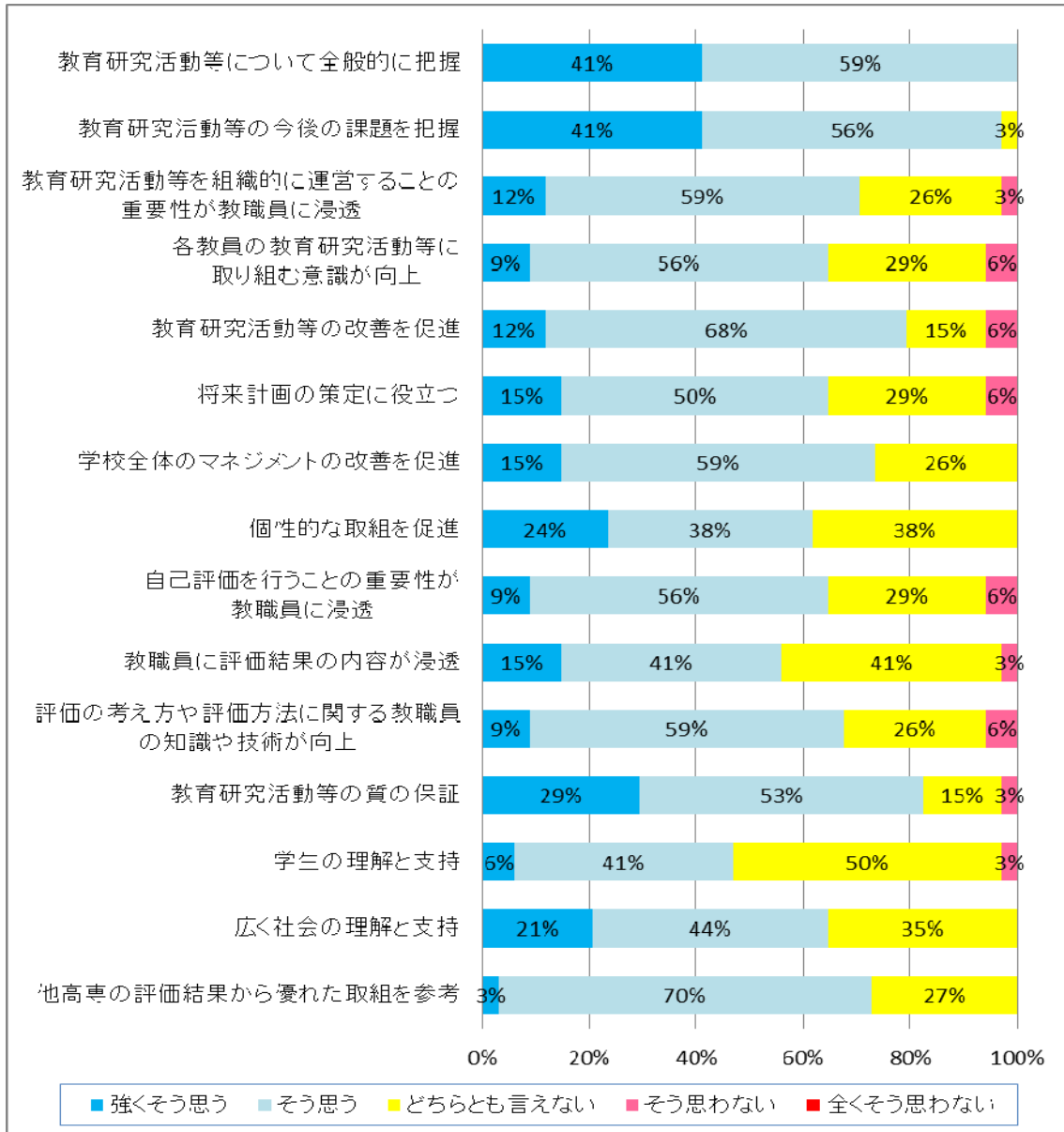
自己評価を行ったことによる効果・影響について対象校がどのように思っているかに関する第2サイクルの集計結果を図Ⅱ-9に示す。「教育研究活動等について全般的に把握することができた」か(機関6-(1)-①)、「教育研究活動等の今後の課題を把握することができた」か(機関6-(1)-②)、「教育研究活動等の改善を促進した」か(機関6-(1)-⑤)、「学校全体のマネジメントの改善を促進した」か(機関6-(1)-⑦)において肯定的な回答が多くなっている。これに対し、「教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した」か(機関6-(1)-③)、「各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した」か(機関6-(1)-④)、「将来計画の策定に役立った」か(機関6-(1)-⑥)、「個性的な取組を促進した」か(機関6-(1)-⑧)、「自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した」か(機関6-(1)-⑨)、「評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した」か(機関6-(1)-⑩)においては、否定的な回答はほとんどないものの、「どちらとも言えない」が30~40%と多くなっている。



図Ⅱ-9 自己評価を行ったことによる効果・影響 【対象校】(第2サイクル)

## 2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

評価結果を受けたことによる効果・影響について対象校がどのように捉えているかに関する第2サイクルの集計結果を図Ⅱ-10に示す。対象校が自己評価を行ったことによる効果・影響と同一の項目については、ほぼ同様の回答となっている(機関6-(2)-①~⑨、⑪参照)。また、「教育研究活動等の質が保証される」か(機関6-(2)-⑫)については、肯定的な回答が80%を超えているが、「教職員に評価結果の内容が浸透する」か(機関6-(2)-⑩)及び「学生の理解と支持が得られる」か(機関6-(2)-⑬)については、否定的な回答は多くないものの、「どちらとも言えない」との回答がそれぞれ41%、50%と多くなっている。なお、「他高専の評価結果から優れた取組を参考にする」か(機関6-(2)-⑮)に対して肯定的な回答は70%程度となっており、先に示した「他高専の自己評価書を参考にする」か(機関2-(1)-⑦)に対する回答結果にほぼ整合する結果となっている。



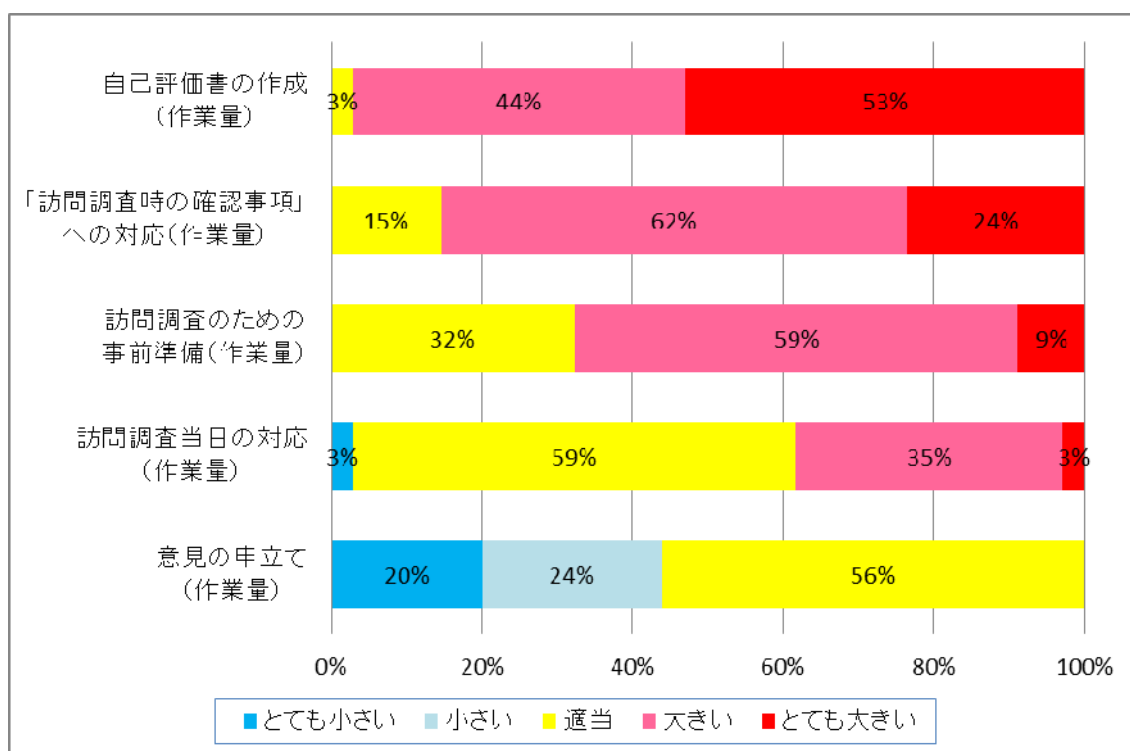
図Ⅱ-10 評価結果を受けたことによる効果・影響【対象校】(第2サイクル)

### 3) 評価の実施による効果・影響に関する評価担当者の意識

評価の実施によってどのような効果・影響が生じると評価担当者が考えているかに関しては、「本評価によって質が保証されると思う」、「本評価によって改善が促進されると思う」及び「本評価によって社会からの理解と支持が支援・促進されると思う」については、図Ⅱ－8 (b)で示した通りであるが、評価担当者は「自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができたか」(評6－④)及び「今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた」(評6－⑤)についても、第2サイクルでは80%程度が肯定的な回答をしている。これは、専門委員等の選出方法が適切であること、及び評価作業への従事の実験が波及的な効果を有することを示していると言えよう。

### (7) 評価の作業量、スケジュール等について

対象校が評価に費やした作業量に関しては、図Ⅱ-11(a)に示すように、「自己評価書の作成(作業量)」(機関3-(1)-①)に対してほとんどすべての対象校が大きい(「大きい」と「とても大きい」の合計で97%)と回答している。また、「訪問調査時の確認事項への対応(作業量)」(機関3-(1)-②)も大きいと回答する割合は80%を超えており、「訪問調査のための事前準備(作業量)」(機関3-(1)-③)も大きいとする割合が70%近くとなっている。これらは、いずれも第2サイクルにおいて大きく増加している。なお、「意見の申立(作業量)」(機関3-(1)-⑤)については第2サイクルにおいて平均値が有意に減少しており、改善傾向にあると考えられるものの、「訪問調査当日の対応(作業量)」(機関3-(1)-④)についても作業量は依然として小さいとは言えない状況となっている。

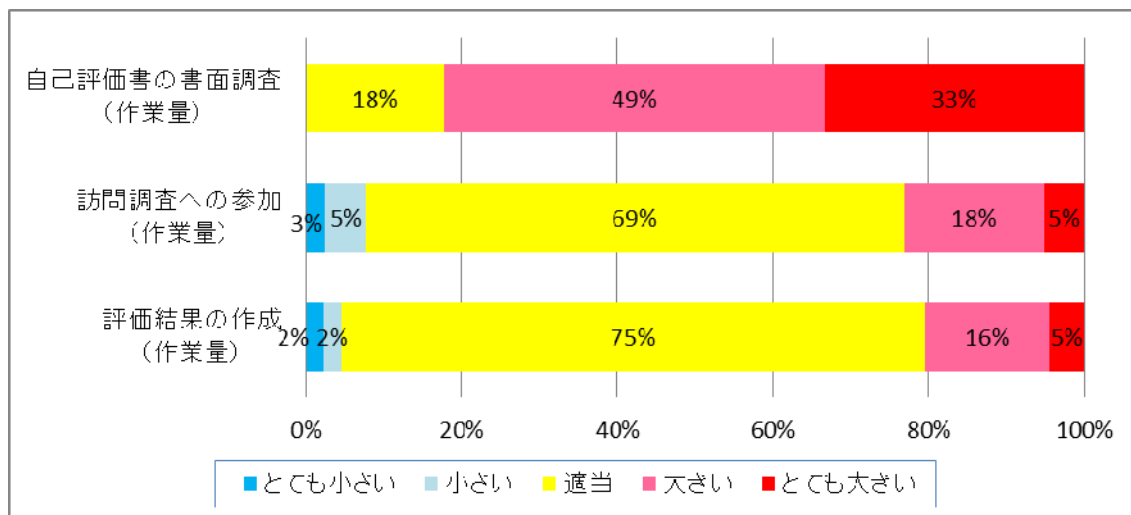


図Ⅱ-11(a) 評価に費やした作業量【対象校】(第2サイクル)

機構が設定した作業期間に対する対象校の評価に関しては、「自己評価書の作成(作業期間)」(機関旧3-(1)-①)は「長い(時間的余裕がある)」とする回答が半数程度で、「短い(時間的余裕がない)」とする回答はほとんどないが、「訪問調査時の確認事項への対応(作業期間)」(機関3-(2)-①)及び「訪問調査のための事前準備(作業期間)」(機関3-(2)-②(旧3-(1)-③))については、「短い」とする割合が第2サイクルにお

いて増加している。

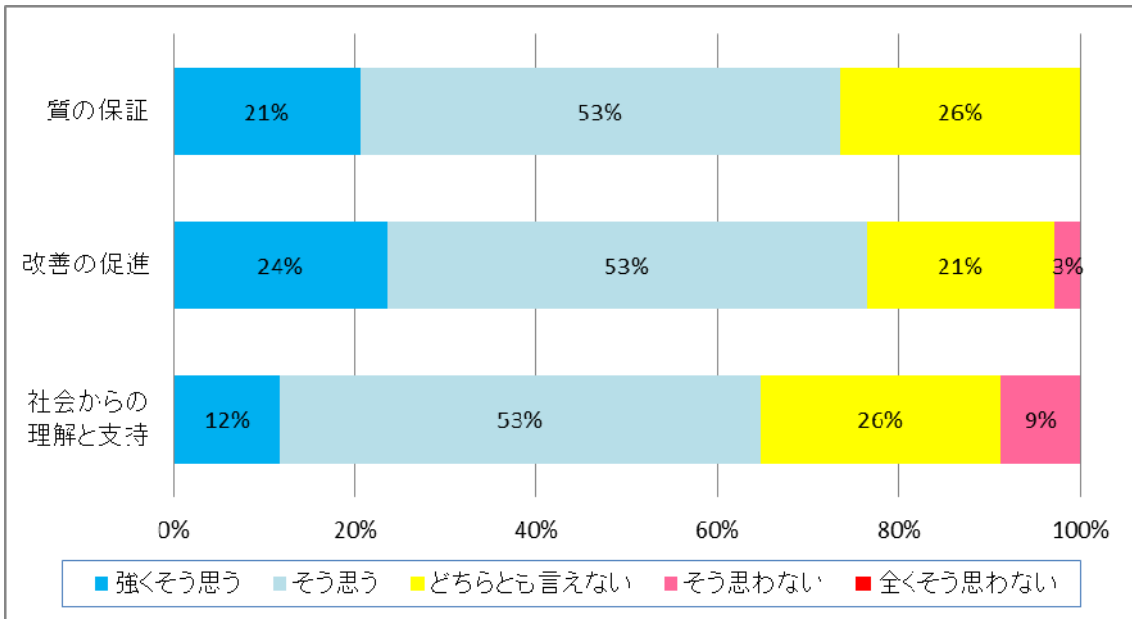
一方、評価担当者側の評価の作業量に関しては、図Ⅱ-11(b)に示すように、「訪問調査への参加（作業量）」（評4-（1）-②）及び「評価結果の作成（作業量）」（評4-（1）-③）が「大きい」とする回答はさほど多くなく、「適当」の割合が7割を超えているものの、「自己評価書の書面調査（作業量）」（評4-（1）-①）は大きいとする回答が8割を超えており、負担が極めて大きいことが分かる。



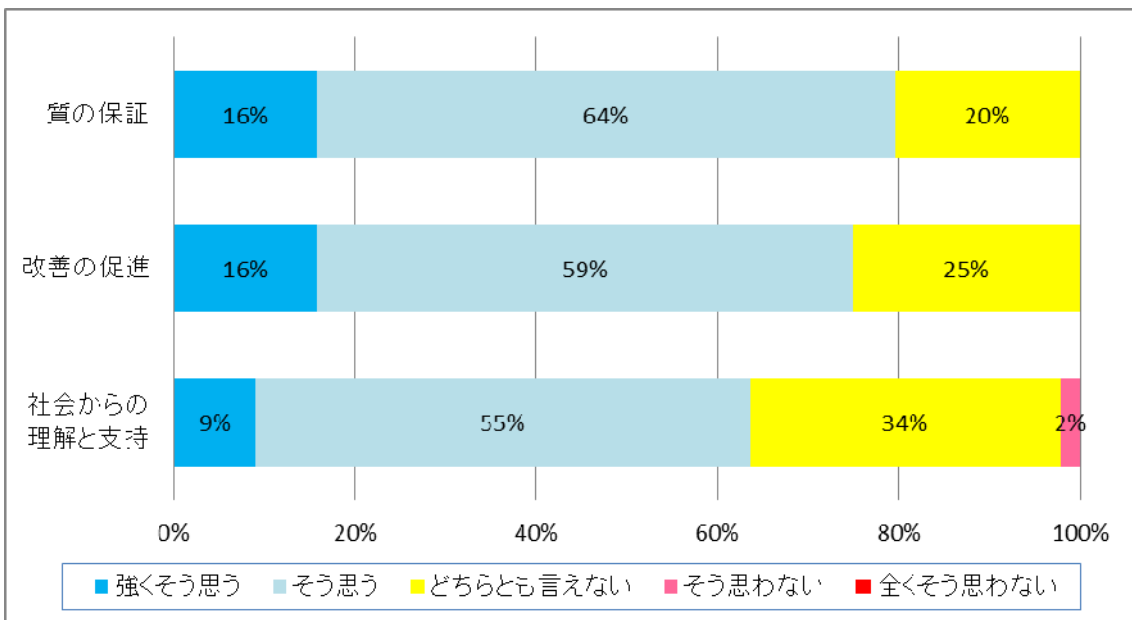
図Ⅱ-11(b) 評価に費やした作業量【評価担当者】（第2サイクル）

また、評価担当者にとっての作業期間に関しては、「自己評価書の書面審査」（評4-（2）-①）、「訪問調査への参加」（評4-（2）-②）、「評価結果の作成」（評4-（2）-③）のどの項目についても第2サイクルにおいて「長い」と回答する割合は、第1サイクルにおける14~41%から2~3%へと大きく減少している。特に書面調査及び訪問調査の作業期間の平均値は有意に小さくなっており、負担が増大する傾向となっている。

以上では、評価に費やす作業負担の大きさのみを見てきたが、「評価に費やした労力が評価目的にとって見合うものであったか」を見ると、図Ⅱ-12(a)、(b)に示すように、「質を保証するという目的に見合うものであったか」（評4-（3）-①）及び「改善を進めるという目的に見合うものであったか」（評4-（3）-②）に対して肯定的な回答の割合は、対象校、評価担当者ともに8割近くとなっており、「社会からの理解と支持を得るという目的に見合うものであった」（評4-（3）-③）とする回答も6割を超えている（機関3-（3）-①~③、評4-（3）-①~③）。これより、現在の認証評価に対しては、対象校、評価担当者ともに、作業負担のみを考えると問題があると認識しているものの、そのような負担に十分見合う効果が得られていると判断していると言えよう。



図Ⅱ—12(a) 評価に費やした労力は評価の目的に見合うか  
【対象校】(第2サイクル)



図Ⅱ—12(b) 評価に費やした労力は評価の目的に見合うか  
【評価担当者】(第2サイクル)

## (8) 前回の認証評価受審との比較について

前回の認証評価を受けたことによる効果・影響があったかに関しては、対象校の回答は「改善の促進に効果・影響があった」か（機関9-②）については肯定的な回答が70%、「質保証に効果・影響があった」か（機関9-①）については約60%となっているが、「社会からの理解と支持に効果・影響があった」か（機関9-③）は20%強となっている。これらの質問は7年前からの変化を問うものであり、回答者が当時の状況をどの程度理解しているかについて疑問があり、当然のことながら、「どちらとも言えない」が多い。

次に、前回と比較した当機構の認証評価プロセスについての回答結果を見ると、「評価結果に関するマスメディア等の報道はより適切なものとなった」か（機関10-⑨）、「評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間は、より適切なものとなった」か（機関10-④）などを問う質問項目において、肯定的な回答の割合は50%以下となっており、否定的な回答が6～9%となっている。これらの回答結果は、上述した（1）～（7）の分析内容にほぼ整合するものである。

## (9) 評価についての全般的な意見・感想について

参考文献〔7～9〕に示すように、評価全般について、対象校及び評価担当者から多くの意見が寄せられている。対象校からの意見・感想としては、「評価結果が期待通りだった」、「自分たちも意識していなかった「優れた点」の指摘を受け、取組を継続していきたい」、「改善を要する点」について改善に取り組み、学校の発展に繋げたい」というものが代表的であった。一方で、負担軽減のため、評価の内容及び方法について改善や工夫を望む意見も多く寄せられた。

評価担当者からの意見・感想としては、「勉強になった」、「貴重な経験ができた」、「今回の経験を自校の改善に活かしたい」という感想がある一方、認証評価の基準・観点等が画一化を導きはしないかと懸念する意見も見られた。



## Ⅱ－２ 選択的評価事項に係る評価

### 1. アンケート調査の実施方法

#### (1) アンケート調査の実施

認証評価に関するアンケート調査と同様、対象校及び評価担当者に対し、記名選択回答式（５段階・２段階）及び自由記述からなるアンケート調査を実施した。

#### (2) アンケート調査結果の分析

選択的評価事項に係る評価の検証に関するアンケート調査の集計結果を参考資料６及び参考資料７に示す。これらから主要な項目を整理・分類し、項目別に分析を行った。分析の項目は以下の通りである。

- (1) 評価を受けた理由について
- (2) 選択的評価事項及び観点について
- (3) 自己評価書について
- (4) 書面調査・訪問調査について
- (5) 評価結果（評価報告書）について
- (6) 評価についての全般的な意見・感想について

### 2. 項目別の検証

#### (1) 評価を受けた理由について

国立高等専門学校の場合、国立高等専門学校機構が各学校に対して評価を受けるよう指導しているとのことであるが、学校の個性や特色をアピールするため、客観性のある第三者の評価を受けることにより改善に繋げるためといった積極的な理由が多い〔7～9〕。

#### (2) 選択的評価事項及び観点について

「認証評価とは別に選択的評価事項を設けたことの適切性」（機関 選③）、選択的評価事項A（研究活動の状況）、B（正規課程の学生以外に対する教育サービス）それぞれに対する「選択的評価事項のテーマとして設定したことの適切性」（機関 選④）、「選択的評価事項の評価で、対象校の有する目的の達成状況の判断を示すという方法の適切性」（機関 選⑤）及び「基本的な観点の構成や内容の適切性」（機関 選⑥）については、いずれも対象校から肯定的な回答の割合がほぼ9割以上となっており、特に第2サイクルにおける「基本的な観点の構成や内容の適切性」に関する平均評価値は第1サイクルのそれに比べて有意に大きくなっている（平均評価値は選択的評価事項Aでは4.03から4.38に、選択的評価事項Bでは4.00から4.41にそれぞれ変化）。

選択的評価事項自体の設定、そのテーマ設定等に対する評価担当者からの回答（評 選②～⑤）の肯定的な回答の割合は対象校の場合に比べると若干小さいものの、ほぼ8割以上となっており、第1サイクルよりもその割合は増大傾向にある。

### （3）自己評価書について

選択的評価事項に係る「自己評価書に添付する資料についてどのようなものを用意すべきか迷った」（機関 選⑦）と回答する対象校の割合は、第2サイクルでは2割程度となっている。なお、この値は第1サイクルと比べると大きく減少しているが、第1サイクルでは途中で設問の選択肢が変わったため集計結果のサンプル数が少なくなっていることに注意する必要がある。

一方、自己評価書に対する評価担当者の第2サイクルにおける回答を見ると、「自己評価書は理解しやすかった」か（評 選⑥）に対する肯定的な回答は半数程度であり、10%程度が「そう思わない」としている。「自己評価書には必要な根拠資料が示されていた」か（評 選⑦）に対する肯定的な回答は選択A、Bともに8割弱であり、「機構が示した書面調査票の様式は記入しやすかった」か（評 選⑧）に対してもともに9割弱と第1サイクルに比べその割合が増大している。「書面調査を行うために、対象校の提出物以外の情報があればよかった」か（評 選⑨）に対しては、選択A、Bともに、「どちらとも言えない」が60%程度であり、否定的な回答が25%程度となっている。

### （4）書面調査・訪問調査について

選択A、選択Bそれぞれに対する「「書面調査による分析状況」の内容は適切であった」か（機関 選⑧）及び「訪問調査前に提示された「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった」か（機関 選⑨）、さらに選択的評価事項全体について「総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった」かに対する第2サイクルにおける対象校の肯定的な回答の割合はいずれも94%となっている。

一方、「訪問調査時の確認事項に対する対象校の回答の適切性」（評 選⑩）及び「自ら担当した調査の内容が評価結果に十分反映された」（評 選⑪）に対する第2サイクルにおける評価担当者の肯定的な回答の割合は76%と85%であり、おおむね肯定的なものとなっている。

#### (5) 評価結果（評価報告書）について

評価結果（評価報告書）に関して、「今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している」か（機関 選⑪）及び「評価報告書をウェブサイトなどで公表している」か（機関 選⑫）については、第2サイクルにおいて実施している割合はそれぞれ63%、75%にとどまっており、認証評価の場合の結果と同様、実施していない対象校が一定程度存在している。

#### (6) 評価についての全般的な意見・感想について

選択的評価事項に係る評価に関連して、対象校、評価担当者のそれぞれから様々な意見・感想が寄せられている〔7～9〕。例えば、対象校からは、「選択的評価事項Bは高い評価を受けたので、今後とも学校として地域への教育サービスを積極的に取り組んでいきたい」、評価担当者からは、「目標を掲げて、その目標に対して自己評価するというスタイルに、まだ対応できていない対象校がありました」、「教育、研究、地域貢献は国立高専の使命として定められており、国立高専機構の業務の範囲として明示されている。これらの基準は「選択的」である必要はなく、通常の基準に組み入れてよいのではないか」といった意見が寄せられた。

## Ⅱ－３ まとめ

ここでは、アンケート調査の結果のうち、いくつかの事項について整理・分類し、分析・評価した結果をまとめた。高等専門学校機関別認証評価に関しては、第2サイクルにおいて、実施面で様々な工夫や配慮を行っているものの、評価の基準や方法等で大きな変更を行っていないこともあって、全般的にサイクル間で集計結果に大きな差はなかった。当機構の掲げる認証評価の3つの目的、「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」のうち、前二者については、おおむねその目的を達成できたものと考えられるが、第三の目的である「社会からの理解と支持」については、第1サイクルの場合と同様、必ずしも十分に達成できたとは言えず、対象校及び当機構の双方において、より効果的な認証評価の実施に向けてのさらなる工夫や努力が必要である。また、評価対象校及び評価担当者の作業負担は依然として大きいと認識されており、負担に見合った効果が得られているとの評価はあるものの、作業量の大幅な削減を図る必要があると考えられる。今後は、これらの結果及び次のⅢに示す認証評価報告書分析結果を踏まえ、Ⅳにおいて第3サイクルに向けての課題を整理するものとする。

### Ⅲ 高等専門学校評価結果の分析

当機構の高等専門学校機関別認証評価においては、認証評価の第2の目的、すなわち、評価結果をフィードバックすることにより、各高等専門学校の教育研究活動等の改善に役立てるため、評価結果において「優れた点」及び「改善を要する点」を指摘している〔11～13〕。ここでは、これらの状況について分析し、それらの指摘から垣間見られる我が国の高等専門学校の教育の現状・課題について考察するとともに、特に現時点における高等専門学校における教育の国際化の状況について分析する。また、これらの分析を通じて当機構の高等専門学校機関別認証評価の特徴を明らかにし、第3サイクルに向けての改善のための情報とする。

#### 1. 「優れた点」及び「改善を要する点」の概要

第2サイクルにおいて指摘された「優れた点」及び「改善を要する点」の個数を基準別に集計したものを図Ⅲ－1に示す。なお、以下に示す図における基準1～11及び選択的評価事項A、Bの内容は次の通りである。

基準1：高等専門学校の目的

基準2：教育組織（実施体制）

基準3：教員及び教育支援者等

基準4：学生の受入

基準5：教育の内容及び方法

○準学士課程

○専攻科課程

基準6：教育の成果

基準7：学生支援等

基準8：施設・設備

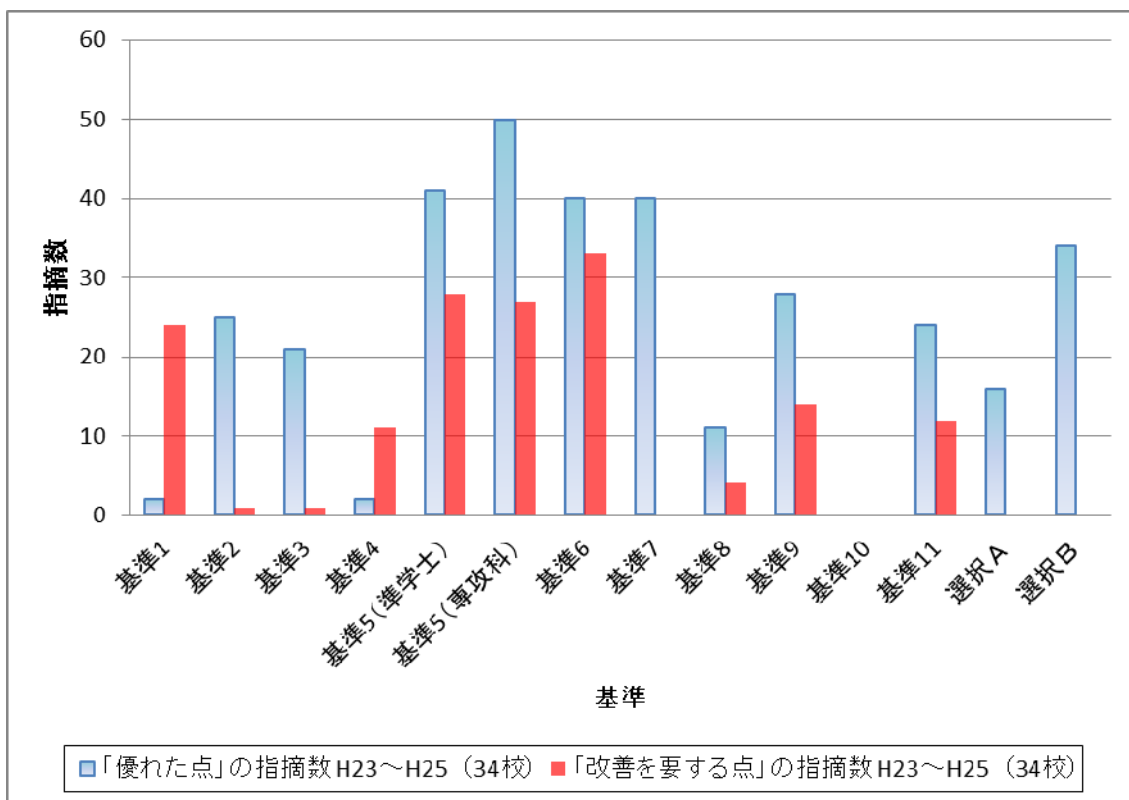
基準9：教育の質の向上及び改善のためのシステム

基準10：財務

基準11：管理運営

選択的評価事項A：研究活動の状況

選択的評価事項B：正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況



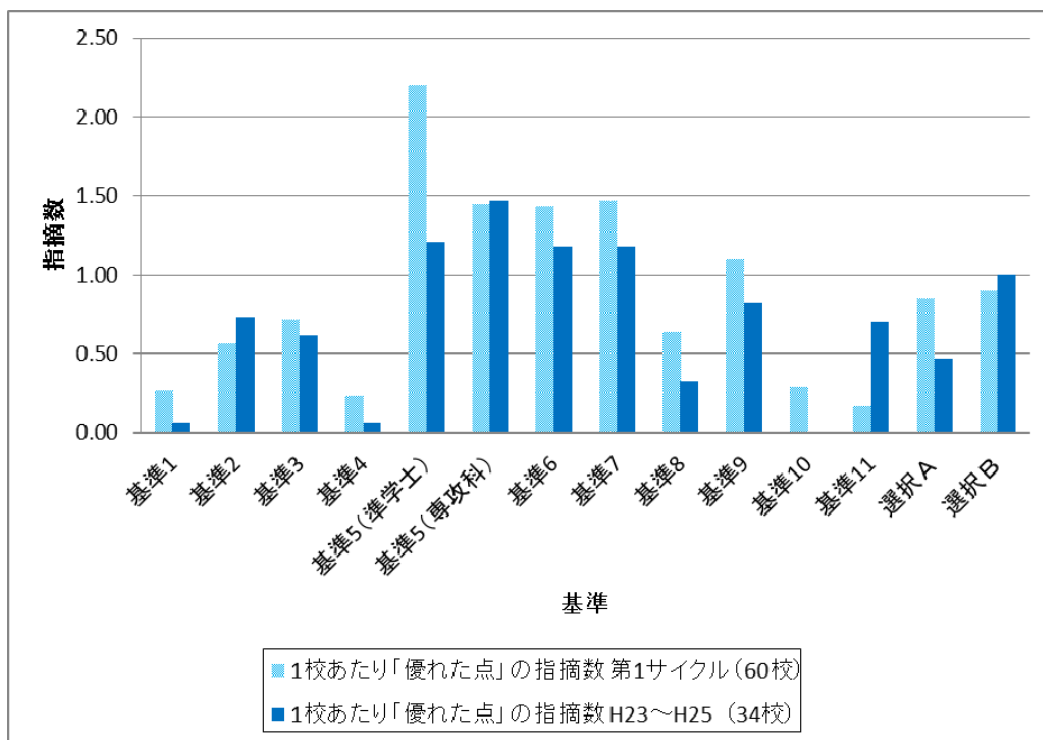
図Ⅲ－１ 基準別の「優れた点」及び「改善を要する点」の指摘数（第２サイクル）

図Ⅲ－１より、以下のことが分かる。

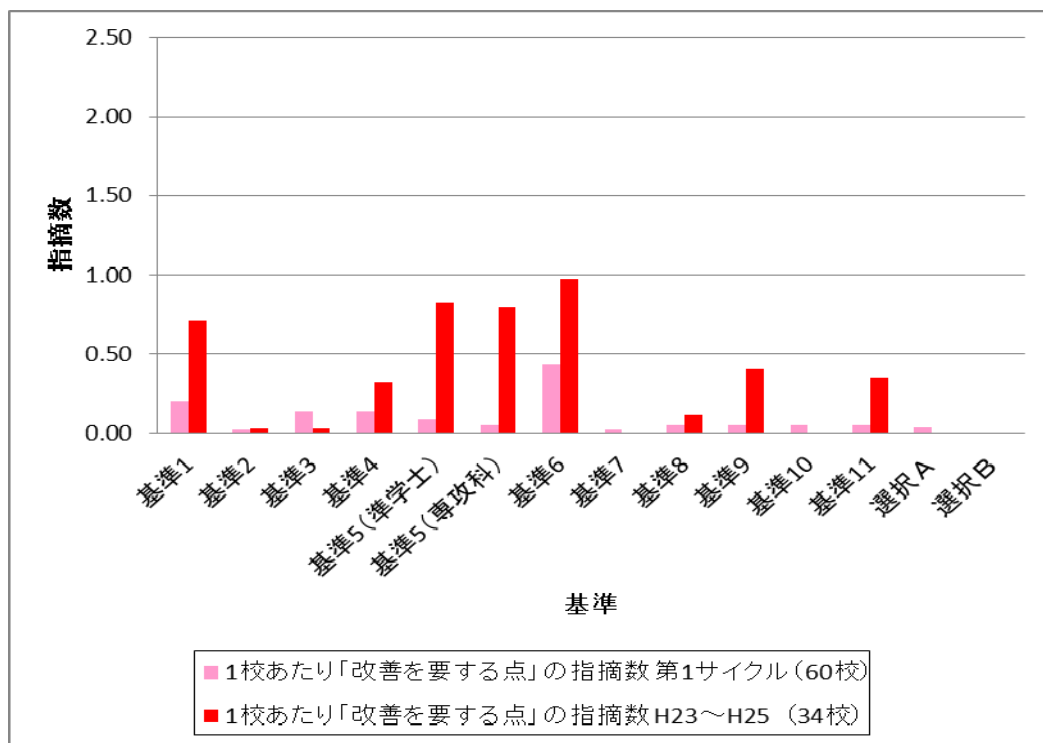
- ・「優れた点」の指摘は基準５「教育の内容及び方法（専攻科課程）」、基準５「教育の内容及び方法（準学士課程）」、基準６「教育の成果」、基準７「学生支援等」、選択的評価事項Ｂ「正規課程以外の学生以外に対する教育サービスの状況」において多く、基準１「学校の目的」、基準４「学生の受入」、基準１０「財務」において少ない。

- ・「改善を要する点」の指摘は、基準６「教育の成果」、基準５「教育の内容及び方法（準学士課程）」、基準５「教育の内容及び方法（専攻科課程）」、基準１「高等専門学校の目的」において多く、基準２「教育組織（実施体制）」、基準３「教員及び教育支援者」、基準７「学生支援等」、基準８「施設・設備」において少ない。

次に、第１サイクルにおける指摘状況と比較するため、対象校１校あたりの指摘数を計算したものを図Ⅲ－２、３に示す。



図Ⅲ-2 1校あたりの基準別の「優れた点」の指摘数のサイクル間比較



図Ⅲ-3 1校あたりの基準別の「改善を要する点」の指摘数のサイクル間比較

図Ⅲ－２、３より、以下のことが分かる。

・ 1校あたり「優れた点」の指摘数は、第2サイクルにおいて全体的に減少しているが、基準11「管理運営」、基準5「教育の内容及び方法（専攻科課程）」、基準2「教育組織（実施体制）」、選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」においては第1サイクルに比べ増加している。また、基準5「教育の内容及び方法（準学士課程）」、基準6「教育の成果」、基準9「教育の質の向上及び改善のためのシステム」においては第1サイクルにおいても指摘数が比較的多かったが、第2サイクルにおいてもその傾向が続いている。

・ 1校あたり「改善を要する点」の指摘数は、第2サイクルにおいて全体的に増加しているが、特に基準5「教育の内容及び方法（専攻科課程）」、基準5「教育の内容及び方法（準学士課程）」、基準9「教育の質の向上及び改善のためのシステム」、基準11「管理運営」、基準1「高等専門学校」における指摘数の増加割合が大きい。また、基準4「学生の受入」、基準6「教育の成果」においても1校あたりの指摘数は増加している。



## 2. 基準ごとの分析

### (1) 基準1：高等専門学校の目的

表Ⅲ－1に示すように、第1サイクルでは、全60校中10校において計12件の「改善を要する点」を指摘している。第2サイクルでは、平成25年度までの全34校のうち21校において、計25件の「改善を要する点」を指摘している。

当該基準の評価のポイントとしては、目的が明確に定められていること、学校の構成員に周知されていること、公表されていること、以上3点である。

目的が明確に定められていることについては、第1サイクル、第2サイクルともに、学校全体の目的、教育方針とともに、準学士課程、専攻科課程それぞれに、卒業時、修了時に身に付ける学力、資質・能力を明確に定めていることを評価しており、この点について、これら卒業時、修了時に身に付ける学力、資質・能力に関して、定めているものの不明瞭な点が見られる、あるいは刊行物への記載が不十分など改善すべきと評価したものは、第1サイクルで9校となっている。第2サイクルでは、途中段階ではあるが4校となっている。第1サイクルで指摘され第2サイクルでも指摘された高等専門学校は1校であり、改善を図ったものの、なお不明瞭な点が残っていたことによる。第2サイクルで指摘された他の3校は、卒業時、修了時に身に付ける学力、資質・能力について第1サイクルでは不明瞭な点が認められなかったものの、修正を行うなどの経緯の中で不明瞭が生じ、第2サイクルにおいて「改善を要する点」に指摘を受けているなどの結果による。この点については、すでに改善が図られている状況にあることが事後の対象校アンケートにおいて確認されている。

周知や公表については、第1サイクルで9校、第2サイクルで17校において改善を要する点を指摘している。これらは一見、状況が悪化したかのように見えるが、第1サイクルでは周知状況を学校側で把握する取組が十分にはなされておらず、学生面談、教職員面談で確認したケースが多かったため、正確な状況把握が困難であったと言える。これに対して、第2サイクルでは、学生や教職員に対するアンケート調査を実施して周知状況を把握する取組がほとんどすべての高等専門学校で実施され、その結果から、周知状況を図る取組をしているものの学生や教職員の認知度が低く表れている結果が明確になり、改善を要する点として指摘数が増加したことによっている。すなわち、第1サイクルに比べ、周知状況を高等専門学校自身で把握する取組が行われるようになり、問題点が把握できるようになってきている。

基準1の状況から、認証評価の目的である「高等専門学校の教育研究活動等の改善に役立てる」ことについて、その目的を果たしつつあると言えよう。

表Ⅲ－１ 基準１の「改善を要する点」の指摘内容

基準１の改善を要する点の内容	「卒業時、修了時に身に付ける学力、資質・能力」関連	周知・公表状況関連	その他	指摘した学校数計 (注)
第１サイクル	９校	９校	０校	１０校
第２サイクル	４校	１７校	３校	２１校

(注) 指摘した学校数計と内容別の合計が合わないのは、同一の学校に対して複数の内容を指摘しているためである。

### (２) 基準２：教育組織（実施体制）

基準２では、基本的な組織構成と必要な運営体制が評価のポイントであるが、第１サイクル 60 校、第２サイクル 34 校、共に組織構成は適切であると評価している。必要な運営体制に関しては、表Ⅲ－２に示すように、適切な状況にある中で、一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携について、「教員間の連携は見られるが、関連する科目間調整がなされているかどうかについて不十分」として、改善を要する点に第１サイクルで 1 校、第２サイクルで 1 校を指摘している。

以上の通り、基準２に関しては、第１サイクル、第２サイクルともに、大きな問題はない状況である。

表Ⅲ－２ 基準２の「改善を要する点」の指摘内容

基準１の改善を要する点の内容	教員間連携関連	その他	計
第１サイクル	１校	０校	１校
第２サイクル	１校	０校	１校

### (３) 基準３：教員及び教育支援者

基準３は、必要な教員配置、教員の教育活動評価、教員の採用・昇格、教育支援者の配置の４点が評価のポイントであるが、表Ⅲ－３に示すように、基準３は全体的には適切な状況にあった。第１サイクルでは 8 校において改善を要する点の指摘をしている。指摘内容では、教員配置に関連して 3 校、教員の教育活動評価に関連して 2 校、教員の採用・昇格に関して 2 校、教育支援者の配置に関連して 1 校においてそれぞれ指摘をしている。途中段階ではあるが、第２サイクルでは、第１サイクルで指摘した学校については改善が図られており、指摘は特になかったが、新たに 2 校で教員の採用・昇格の基準や規定が明文

化されていない点を指摘している。基準3の状況から、認証評価の目的である「高等専門学校の研究活動等の改善に役立てる」ことについて、その目的を果たしつつあると捉えられる。

表Ⅲ－3 基準3の「改善を要する点」の指摘内容

基準3の改善を要する点の内容	教員配置 関連	教育活動 評価関連	採用・昇 格関連	教育支援 者関連	計
第1サイクル	3校	2校	2校	1校	8校
第2サイクル	0校	0校	2校	0校	2校

#### (4) 基準4：学生の受入

基準4は、入学者受入方針が定められ、公表・周知されていること、入学者の選抜の適切な実施と検証、入学者数が適正であることの3点が評価のポイントである。

表Ⅲ－4に示すように、「改善を要する点」の指摘は、第1サイクルで7校、第2サイクルで9校である。第1サイクルでは、入学者受入方針に関連して2校で明文化されていない点を指摘している。また、6校において入学者数が適正であることに関して、入学定員を下回る状況を「改善を要する点」として指摘している。

第2サイクルでは、入学者受入方針に関して、入学者選抜の基本方針の内容に踏み込んで精緻に評価をするよう心掛けた。その結果、入学者選抜の基本方針に関して4校で明文化されていない点を「改善を要する点」として指摘している。また、入学者の選抜方法の検証と改善に結びつける取組に関して、改善に結びつけているかを精緻に評価し、新たに3校で改善を要する点として指摘している。これらは第1サイクルに比べ増加しているが、より精緻に評価したことによるものである。

また、3校において入学者数が適正であることに関して、入学定員を下回る状況を「改善を要する点」として指摘している。更にその他、入学者受入方針の周知状況が把握されていない点を1校で指摘している。

表Ⅲ－４ 基準４の「改善を要する点」の指摘内容

基準４の改善を要する点の内容	入学者受入方針関連	検証と改善関連	入学者数の適正関連	その他(入学者受入方針の周知)	計 (注)
第1サイクル	2校	0校	6校	0校	7校
第2サイクル	4校	3校	3校	1校	9校

(注) 指摘した学校数計と内容別の合計が合わないのは、同一に学校に対して複数の内容を指摘しているためである。

#### (5) 基準５：教育内容及び方法

表Ⅲ－５に示すように、準学士課程、専攻科課程ともに、第２サイクルになって改善を要する点の指摘数が大きく増加している。指摘の内容を見ると、「教育課程の編成、内容等」に関する指摘は第１サイクルでは全くなかったのに対し、第２サイクルでは８校に対してなされている。また、「授業形態、学習指導法、シラバス等」や「成績評価、単位認定等」に関する指摘は第１サイクルでも若干されていたが、第２サイクルになって大きく増加している。これは、第２サイクルの認証評価においては学習成果を重視するようになったことに伴い、それに関係する教育課程の編成・内容や成績評価等をより厳格に評価しようという傾向が強くなったことによると考えられる。なお、「成績評価、単位認定等」に関する指摘内容としては、「複数年度にわたり同一の試験問題が出題されている」というものが多い。「豊かな人間性の涵養の取組」や「教養教育や研究指導」に関する指摘は２つのサイクルともなされていない。

表Ⅲ－５ 基準５の「改善を要する点」の指摘内容

基準５の改善を要する点の内容	準学士課程				専攻科課程				計
	教育課程の編成、内容等	授業形態、学習指導法、シラバス等	豊かな人間性の涵養の取組	成績評価、単位認定等	教育課程の編成、内容等	授業形態、学習指導法、シラバス等	教養教育や研究指導の適切性	成績評価、単位認定等	
第1サイクル	0校	4校	0校	1校	0校	2校	0校	1校	8校
第2サイクル	8校	8校	0校	11校	8校	10校	0校	9校	54校

(注) 指摘した学校数計と内容別の合計が合わないのは、同一の学校に対して複数の内容を指摘しているためである。

## (6) 基準6：教育の成果

学生が行う学習達成度評価等、学生からの意見聴取の結果から判断しての教育の成果や効果の分析に関しては、表Ⅲ－6に示すように、第1サイクルでは、改善を要するとの指摘が60校中22校と極めて多かったが、第2サイクルでも対象校34校中11校であり、その指摘数の多さにそれほど大きな変化は見られない。

一方、学校としての学習目標達成状況の把握・評価の取組に関しては、第1サイクルではほとんどして指摘がなかったが、第2サイクルでは指摘数が増加している。これについては、成果重視の評価にしようという評価部会の姿勢の変化によるところが大きいと考えられる。また、卒業・修了生や進路先関係者からの意見聴取結果から判断しての教育の成果・効果の分析についても第2サイクルにおいて増加している。これについては、達成度評価アンケート等の項目が対象校の学習・教育目標の項目と一致していないとする指摘が多い。

なお、進路状況等から判断しての教育の成果・効果の分析に関しては、ほとんどすべての対象校において優れた点として取り上げられており、改善を要する点としての指摘は全くなされていない。このことは高等専門学校全体の大きな特色であると言える。

表Ⅲ－6 基準6の「改善を要する点」の指摘内容

基準6の改善を要する点の内容	学校としての学習目標達成状況の把握・評価の取組	学校としての学習目標達成状況の評価結果から判断しての教育の成果・効果の分析	進路状況等から判断しての教育の成果・効果の分析	学生からの意見聴取結果から判断しての教育の成果・効果の分析	卒業・修了生や進路先関係者からの意見聴取結果から判断しての教育の成果・効果の分析	計
第1サイクル	1校	1校	0校	22校	3校	23校
第2サイクル	11校	3校	0校	11校	8校	20校

(注) 指摘した学校数計と内容別の合計が合わないのは、同一の学校に対して複数の内容を指摘しているためである。

(7) 基準7：学生支援等

表Ⅲ－7に示すように、基準7に関しては、第1サイクルにおいて学生寮の遮音性の低さに関して、改善を要する点の指摘が1件あったのみで、第2サイクルにおける改善を要する点の指摘は全くなされていない。

表Ⅲ－7 基準7の「改善を要する点」の指摘内容

基準7の改善を要する点の内容	ガイダンス、自主的学の相談・助言	キャンパス生活環境等の整備、その効果的利用	学習支援に関する学生ニーズの把握、各種試験や外交留学のための支援体制等	特別な支援が必要な学生に対する学習支援体制等	部活動、サークル活動、課外活動等に対する支援体制等	生活や経済面及び就職に関する指導・相談・助言、支援体制等	計
第1サイクル	0校	0校	0校	0校	0校	1校	1校
第2サイクル	0校	0校	0校	0校	0校	0校	0校

(8) 基準8：施設・設備

表Ⅲ－8に示すように、基準8に関しては、第1サイクルにおいて施設・設備の老朽化に関する事項が2校指摘されていたが、第2サイクルにおいてはその指摘がなくなり、代わりに一部施設のバリアフリー化の取組の遅れを3校において指摘している。

表Ⅲ－8 基準8の「改善を要する点」の指摘内容

基準8の改善を要する点の内容	施設・設備の整備、その有効活用	ICT環境の整備、その有効活用	図書、学術雑誌、等	計
第1サイクル	2校	0校	1校	2校
第2サイクル	4校	0校	0校	4校

(9) 基準9：教育の質の向上及び改善のためのシステム

表Ⅲ－9に示すように、基準9に関しては、第1サイクルでは「個々の教員による授業改善を学校として把握していない」の指摘が2校、また「評価結果を教育の改善に結び付けるシステムが十分機能していない」の指摘が1校あっただけであり、その他に事項に対する指摘はなかった。これに対し、第2サイクルでは「教育の状況に関する自己点検・評価が学校として策定した評価基準・評価項目に基づいて実施されていない」の指摘が12校と急激に増加している。しかも、その増加は第2サイクルの開始2年目から生じている。これは、1年遅れでスタートした大学の機関別認証評価の第2サイクルにおいて内部質保証システムの確立を重視するようになったことの影響を受けたものと考えられる。すなわち、高等専門学校認証評価においても大学の場合と同様に、自己点検・評価とそれに基づく改善のシステムが確立されているかを的確に評価するようになったことによると考えられる。

表Ⅲ－9 基準9の「改善を要する点」の指摘内容

基準9の改善を要する点の内容	教育の状況に関する自己点検・評価の実施体制の整備、学校として策定した評価基準に基づく評価の実施	評価結果を教育の改善に結び付けるシステムの整備、教育課程の見直し等の方策の検討等	個々の教員による授業内容等の継続的改善、その状況の学校としての把握	研究活動が教育の質の改善に結び付いているか。	FD、SD等の適切な実施	計
第1サイクル	0校	1校	2校	0校	0校	3校
第2サイクル	12校	2校	0校	0校	0校	14校

(10) 基準10：財務

表Ⅲ－10に示すように、基準10に関しては、第1サイクルにおいて2校の公立高等専門学校に対し、3点の指摘があったが、第2サイクルにおける指摘数は0校となっている。なお、第1サイクルにおける2校は第2サイクルの中間検証の対象にはなっていない。

表Ⅲ－10 基準10の「改善を要する点」の指摘内容

基準10の改善を要する点の内容	財務基盤の適切性	収支に係る計画等の適切性	財務に係る監査等の適正実施	計
第1サイクル	1校	1校	1校	2校
第2サイクル	0校	0校	0校	0校

(注) 指摘した学校数計と内容別の合計が合わないのは、同一の学校に対して複数の内容を指摘しているためである。

### (11) 基準 11：管理運営

表Ⅲ－11 に示すように、基準 11 に関しては、第 1 サイクルにおける「改善を要する点」の指摘は多くなく、「活動の総合的な状況に対する自己点検評価の実施」に関する指摘が 3 校においてなされていたにすぎないが、基準 9 の場合と同様の理由から、第 2 サイクルにおいてはこれに関連する指摘が 11 校と急増している。ここで、基準 9 の「教育の状況に関する自己点検・評価」と「学校の活動の総合的な状況に関する自己点検・評価」は類似した内容であり、8 校が両者において改善を要する点の指摘されている。こうした重複を考慮すると第 2 サイクルにおいては全対象校 34 校の半数近くの 15 校が自己点検・評価のシステムに関して「改善を要する点」の指摘を受けていることになる。なお、自己点検・評価以外に関連する事項に対する指摘は第 2 サイクルにおいてもほとんどない。

表Ⅲ－11 基準 11 の「改善を要する点」の指摘内容

基準11の改善を要する点の内容	管理運営体制及び事務組織の整備等の適切性	学校として策定した基準に基づく学校の活動の総合的な状況に対する自己点検・評価の実施、その結果の外部組織による検証等	評価結果に基づく改善システムの整備、運営状況等	外部の意見等の管理運営への反映、外部の教育資源の活用状況	教育研究活動等の状況やその活動成果の情報の公表	計
第 1 サイクル	0 校	3 校	0 校	0 校	0 校	3 校
第 2 サイクル	0 校	11 校	1 校	0 校	0 校	12 校

### (12) 選択的評価事項 A：研究活動の状況

選択的評価事項 A に対する「改善を要する点」の指摘は、第 1 サイクルにおいては「研究活動の実施状況や問題点を把握し改善するシステムが機能していない」との指摘が 2 校に対してなされたが、第 2 サイクルにおける指摘は全くない。なお、「優れた点」（特色のある点を含む）の指摘件数は、同一校に対する重複指摘を含むと、第 1 サイクルにおいては 60 校で 51 件、第 2 サイクルにおいては 34 校で 16 件となっており、優れた点として取り上げられる取組の数はやや減少傾向にある。

### (13) 選択的評価事項 B：正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

選択的評価事項 B に対する「改善を要する点」の指摘は、第 1 サイクル、第 2 サイクルともに全くなされていない。なお、「優れた点」（特色のある点を含む）の指摘件数は、



第1サイクルにおいては60校で54件、第2サイクルにおいては34校で34件となっており、優れた点として取り上げられる取組の数は増加し、ほとんどすべての学校に対して指摘される状況となっている。これは、ほとんどの学校が地域貢献活動に力を入れ様々な工夫を重ねていることの結果であると考えられる。

以上、基準別に「改善を要する点」の指摘状況を分析したが、第2サイクルにおける評価基準・観点別の「優れた点」及び「改善を要する点」の指摘状況は参考資料10に示す通りである。

### 3. 教育の国際化の状況に関する分析

ここでは、現時点における高等専門学校教育面での国際化の取組状況を分析するとともに、その分析を通じて、国際化の状況の把握における現行の評価基準・観点の有効性について検証し、第3サイクルに向けての改善検討のための基礎情報とする。そのため、平成23～25年度の3年間の高等専門学校認証評価実施結果報告書[11～13]から、教育の国際化に関わる活動項目別の各高等専門学校の実施状況を抽出し、その集計を行った。このとき、活動項目としては、大学機関別選択評価の『自己評価実施要項』[14]において示されている選択評価事項C「教育の国際化の状況」に関する留意点（『選択的評価事項C 水準判定のガイドライン』[15]）を参考にして設定した。具体的には、まず「国際的な教育環境の構築」、「外国人学生の受入」、「国内学生の海外派遣」の3つの視点に分け、高等専門学校の実情を考慮しつつ、それぞれの視点をいくつかに分け、さらにそれぞれの区分に対して、複数個の具体的な取組状況を設定するものとし、合計31項目を設定した。

平成23～25年度の3年間の対象校34校における項目別の取組実施状況は表Ⅲ-12に示すとおりである。これより、「国際的な教育環境の構築」に関しては「国際委員会等の設置」、「海外の大学等との交流協定等の締結」、「学校の教育目的・目標等における「国際化」関連項目の設定」、「実践的な英語能力育成のためのTOEIC等の活用」などの活動項目において、また「外国人学生の受入」に関しては、「留学生に対する特別教育課程の編成」、「就学・生活支援のための指導教員・学生チューターの配置」、「宿舎の提供・斡旋」などの活動項目において、また「国内学生の海外派遣」に関しては「語学研修等への派遣の実施」において、取組を実施している学校の割合が約8割以上となっており、これらの項目については、現時点で高等専門学校のほぼ標準的な取組であることが分かる。

一方、「常勤の外国語ができる職員の採用・配置」、「教育の国際化を意識したFD・SDの実施」、「HPの多言語化、学生向け通知や学内規程等の多言語化」など、いくつかの項目については取組実施校の割合が0%となっており、これらの項目については現時点では高等専門学校として取り組むにはやや無理があると言える。

また、「学校独自の海外インターンシップの実施」、「海外で修得した単位の認定等」、「ネイティブスピーカー教員による英語授業の実施」、それに関連した「非常勤外国人教員の積極的採用」などの項目については、半数程度の学校において実施されていることが分かる。

以上の結果より、全活動項目についての実施校数の平均を求めると12.6校となり、実施割合の全活動項目平均では37%となっている。

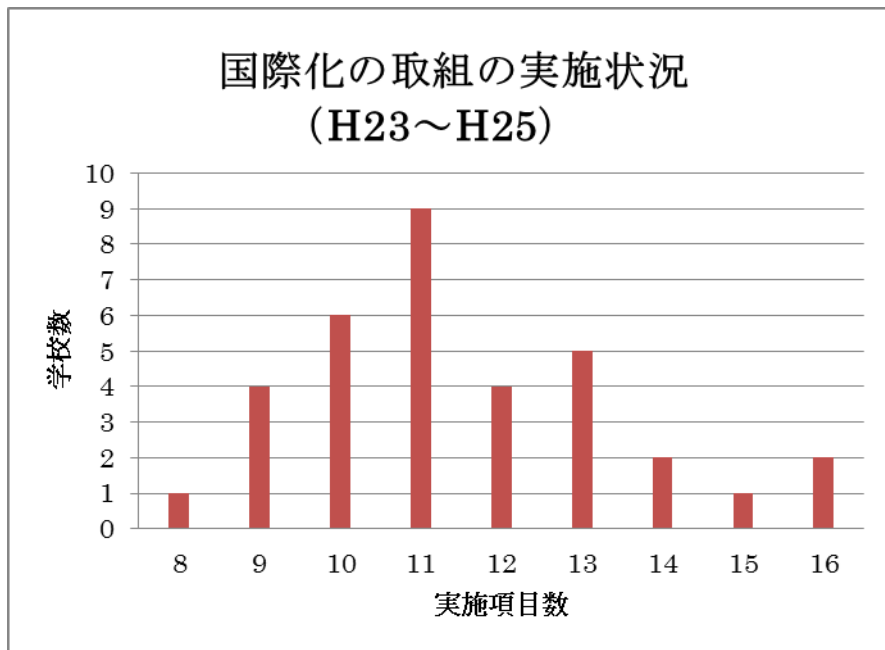
次に、学校別に国際化の取組状況を見ると、図Ⅲ-4に示す通り、各学校の取組項目数は8～16に分布しており、1校あたりの平均取組項目数を求めると11.5項目となる。今回設定した項目数は31であり、これらの項目が独立で、かつ、高等専門学校として取り組むべき国際化の状況を網羅していると仮定すれば、国際化に関する現時点での高等専門学校全体の平均的な取組状況は理想的な水準の約3分の1強にあるとすることができよう。

ただし、今回調べた国際化の取組状況に関する資料は、あくまで一般的な教育の状況に

ついて分析・評価された自己評価書の中から得られたものであることに注意する必要がある。これは、現行の多くの基本的観点は国際化の状況についての記述を直接に求める内容とはなっていないため、実際に取組が行われていても、自己評価書に記載されていない可能性があるからである。このため、国際化の取組状況をよりの確に把握するためには、観点の文章を見直すこと、あるいは国際化の状況を選択的評価事項の一つに追加することについて検討する必要があると言えよう。

表Ⅲ-12 国際化の取組項目別の実施状況

視点	区分	教育の国際化に向けた取組	具体的な取組状況	実施 学校 数*	実施 割合	大学の 平均実施 状況 **
国際的な教育環境の構築	国際化に対応可能な組織体制の整備等	教育の国際化に関する業務を専門に実施する組織の設置	国際交流委員会、留学生支援委員会、国際課等の設置	26	76%	30%
		外国人教員の配置	常勤外国人教員の積極的採用	5	15%	60%
			非常勤外国人教員の積極的採用	20	59%	60%
		海外での教育研究活動実績を有する常勤日本人教員の配置	海外での活動実績を有する常勤日本人教員の積極的採用	2	6%	45%
		常勤の外国語ができる職員の配置	常勤の外国語ができる職員の採用・配置	0	0%	60%
		教育の国際化を意識したFD・SDの実施	教育の国際化を意識したFD・SDの実施	0	0%	25%
		海外の大学等との交流協定の締結	海外の大学等との交流協定等の充実	28	82%	85%
	教育の目標等における国際化	教育目的・目標等における「国際化」関連項目の設定	30	88%	—	
		入学者受入方針における「国際化」関連項目の設定	14	41%	—	
	教育内容・方法の国際化	外国人教員による専門科目授業・指導の実施	英語で実施する専門授業科目の実施	6	18%	50%
		実践的な英語能力育成の取組	ネイティブスピーカー教員による英語関連授業の実施等	22	65%	—
			TOEIC等の活用	29	85%	—
		外国人学生との学生交流イベントの開催	留学生との交流を行うイベントやプログラムの実施	12	35%	75%
	教育情報の公表	教育情報の外国語での公表	HPの多言語化、学生向け通知や学内規定等の多言語化	0	0%	60%
外国人学生の受入	教育課程編成・実施上の工夫	短期・超短期プログラム等（受入）	短期・超短期プログラム等（受入）	3	9%	70%
		長期留学生に対する特別教育課程	留学生に対する特別教育課程の編成	28	82%	—
			日本語教育、日本文化の教育・研修	15	44%	—
	外国人学生に対する各種支援	就学・生活支援	指導教員・チューターの配置	32	94%	—
		外国人学生宿舎の整備及び斡旋	宿舎の提供・斡旋	26	76%	75%
		経済的支援	経済的支援	1	3%	80%
		就職の支援	就職の支援	1	3%	65%
	外国人学生受入促進の取組	外国人学生のための入学試験の実施	留学生向けの入学試験	1	3%	80%
		留学生向け入学案内や外国人学生支援状況の公表	ウェブサイトへの留学生向け入学案内の掲載	0	0%	50%
	国内学生の海外派遣	教育課程編成・実施上の工夫	留学の事前教育としての外国語・異文化教育	事前教育としての外国語教育、異文化教育	2	6%
留学規定の制定、海外での修得単位等の認定基準の設定			海外で修得した単位等の換算方法の設定	16	47%	40%
短期・超短期プログラムの実施			語学研修等への派遣の実施	25	74%	85%
国際的な場での訓練等の実施			専攻科学生の国際会議発表、国際的な協同研究に参加等	2	6%	—
			高専機構の海外インターンシップへの参加	12	35%	—
		学校独自の海外インターンシップの実施	17	50%	—	
派遣学生の支援等		留学前・留学中の個別相談等の実施	留学前の生活指導・相談	9	26%	85%
	経済的支援	海外留学等に際しての経済的支援	7	21%	75%	
		平均	12.6	37%	63%	
			*:実際には実施していても評価結果報告書に記載がない場合を除外。			
			**:参考文献15の別表による。			



図Ⅲ-4 教育の国際化の取組状況

#### 4. まとめ

評価結果において指摘している「優れた点」及び「改善を要する点」の状況に関して分析し、高等専門学校教育の現状を明らかにするとともに、当機構の高等専門学校認証評価及び選択的評価事項に係る評価の特徴を明らかにした。また、特に教育の国際化に関する取組を対象として分析し、現在の高等専門学校の国際化への対応状況を明らかにするとともに、今後の認証評価において国際化の状況を把握評価する上でこれまで通りの基準・観点をを用いることで十分なのか、それとも「国際化の状況」を選択的評価事項として設定する必要があるかどうかに関して一つの判断材料を提供した。これらに関しては、いずれもさらなる分析の追加の余地が残されており、今後の課題であると言えよう。

#### IV 考察—第3サイクルに向けて

平成30年度から始まる高等専門学校機関別認証評価の第3サイクルにおいては、Ⅰ～Ⅲで述べた第2サイクルまでの経験やその検証結果に加え、中央教育審議会等における答申や提言等、高等専門学校の教育の現状や今後目指すべき方向、各高等専門学校の個性の伸長に資する評価のあり方等を踏まえて、評価基準・観点や評価方法等の改定を行う必要がある。以下では、いくつかの事項について、今後の検討課題に関して考察を加える。

##### (1) 学習成果及び教育の内部質保証システムの重視

既に、当機構の大学機関別認証評価の第2サイクルにおいては、高等教育評価の国際的な動向も踏まえて学習成果及び教育の内部質保証を重視した基準により評価を実施している。高等専門学校機関別認証評価においても第3サイクルから同様の考え方に立つべきであると考えられる。ただし、高等専門学校においては低学年学生に対する教育の状況の評価も重要であることから、学習成果とするのではなく、学習・教育成果とするのが適切であると言える。教育の内部質保証に関しては、多くの高等専門学校では本来の意味での自己点検・評価とそれに基づく改善のシステムを十分に構築するに至っておらず、Ⅲで見たように、第2サイクルにおいても、これに関連した「改善を要する点」を多く指摘している状況にあることから、第3サイクルにおける重点的な評価項目として高等専門学校において内部質保証システムの構築を促すことが望まれる。

##### (2) フォローアップの仕組みの導入

これまでの当機構の機関別認証評価においては、基準を満たしているかどうかの判断を行うとともに、「優れた点」及び「改善を要する点」を指摘するにとどめ、実際に改善を実行するかどうかは対象校の判断に任されてきた。そのため、第1サイクルで改善を要する点として指摘された事項がほとんどそのまま放置されているという状況も第2サイクルの評価段階において多く確認された。よって、認証評価の実効性を上げるためには、「改善を要する点」として指摘した事項についての改善状況を一定年限内に報告することを義務づけるなど、何らかのフォローアップの仕組みを導入することも必要であると考えられる。

##### (3) 評価尺度を用いた評価結果の提示

教育の改善により実効性のある評価とするためには、これまでのような基準を満たしているか否かといった評価結果の提示のみではなく、取組状況の程度を適正に評価することも必要であると考えられる。このためは、評価尺度（例えば、S、A、B、C）を用いた評価結果の提示方法を導入することについて検討が必要である。この評価尺度による評価の導入は、対象校の取組に対して効果を及ぼすのみでなく、認証評価結果に対する社会の関心を高めるといった効果をもたらすと考えられることから、高等専門学校の存在やその活動に対する社会からの理解と支持が得られるように支援するという認証評価の第3の目的

の達成につながる可能性があると言える。

#### (4) 対象校の負担軽減策

Ⅱのアンケートによる検証で見たように、自己評価書の作成や訪問調査時における確認事項への対応等における作業面での負担は極めて大きいため、第3サイクルに向けては、評価基準・観点の整理・統合や内容の明確化を積極的に行うとともに、自己評価書の作成に際して既存資料をできるだけ活用できるよう、チェックリスト方式の一部導入など評価方法の工夫について検討することが必要である。

#### (5) 専攻科の取り扱い

専攻科課程に関しては、設置基準がないものの、現行の認証評価においては準学士課程に準じた評価基準・観点を設定している。これに対して高等専門学校側からは、J A B E E 審査や学位授与関連の認定専攻科審査との重複感が寄せられている。よって、対象校の負担軽減の観点からは専攻科課程を評価の対象としないことが考えられる。一方で、現在、多くの高等専門学校は専攻科課程を中心にして学校の個性や特色を発揮していこうとしており、そのことを認証評価においても評価して欲しいという声もある。このため、第3サイクルにおいては、現行の取り扱いを見直し、例えば評価基準とは別に「特別評価基準：専攻科課程」を設定し、その中で個性や特色をアピールしてもらうことも考えられよう。

#### (6) 教育の国際化の状況の取り扱い

当機構の大学機関別選択評価においては、「A：研究活動の状況」、「B：地域貢献活動の状況」に加え、「C：教育の国際化の状況」の3つの評価事項を設定し、各大学の個性を伸ばし、特色を明確にするための評価を行っている。一方、高等専門学校の選択的評価事項に係る評価においては、前二者については大学の場合と同様、評価対象としているが、教育の国際化の状況については評価事項とはしていない。実際、現在の高等専門学校における教育の国際化の取組については、Ⅲにおいて分析した通りの状況となっている。このため、現時点での高等専門学校におけるこれを評価対象とするかどうかについては、意見が分かれるところであろう。すなわち、これについては、「国際化の取組に関する内容は他の多くの基準に含まれているからあえて国際化の状況として取り出す必要はない」、あるいは「評価事項として設定すれば選択的評価事項といえども選択せざるを得ない状況となり負担増につながりかねない」といった否定的なものから、「国際化は個性や特色の一つであるからその取組を後押しする意味でも新たに選択的評価事項とすべきである」という積極的な意見までが考えられる。これらを踏まえて、教育の国際化の状況については、負担増とならない範囲で各学校の個性や特色をアピールできるような取り扱いとすること（例えば、特別な選択的評価事項として評価対象とすることなど）も考えられよう。

## おわりに

本報告書では、平成 23 年度から平成 25 年度までの第 2 サイクルの最初の 3 年間に機構が実施した高等専門学校機関別認証評価及び選択的評価事項に係る評価について、評価結果を含めその概要を述べるとともに、その中間検証を行った。検証に際しては、評価対象校及び評価担当者に対して毎年度実施してきたアンケート調査の結果及び高等専門学校認証評価の評価結果について、第 1 サイクルにおける結果との比較を含め、分析を行った。

アンケート調査の分析結果から、当機構の掲げる認証評価の 3 つの目的、「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」のうち、前二者については、おおむねその目的を達成できたものと考えられるものの、第三の目的である「社会からの理解と支持」については、第 1 サイクルの場合と同様、必ずしも達成できたとは言えず、対象校及び機構の双方において、より効果的な認証評価の実施に向けてのさらなる工夫や努力が必要であると言える。また、評価対象校の作業負担は依然として大きいと認識されており、負担に見合った効果が得られているとの評価はあるものの、今後は作業量の大幅な軽減を図る必要がある。

認証評価の評価結果において指摘された「優れた点」及び「改善を要する点」についての分析からは、第 2 サイクルにおける「優れた点」の指摘数は基準全体で 1 校あたり 9.8 件であり、第 1 サイクルの 12.3 件からやや減少しているものの、多くの高等専門学校が教育の質の向上のために、その個性や特色を発揮しつつ継続的に様々な取組を行っており、評価担当者もそれらを積極的に評価していることが分かる。一方、第 2 サイクルにおける「改善を要する」の指摘数は 1 校あたり 4.6 件であり、第 1 サイクルの 1.3 件に比べて大幅に増加している。これに関しては高等専門学校の教育の状況が以前よりも悪化しているというよりは、対象校の教育の状況の向上・改善のためには小さな問題点であっても積極的に指摘すべきであるという認証評価委員会及び評価部会の評価姿勢の変化の結果であると考えられる。

現在、当機構では平成 30 年度からの第 3 サイクルに向けて、第 2 サイクルの中間検証結果及び中央教育審議会答申等における提言等を踏まえ、評価基準・観点の見直し、評価実施大綱や自己評価実施要項の見直し・充実など、改善に努めているところである。しかし、未解決の課題も少なくなく、当機構としては、関係機関等と連携・協力しながら、引き続き課題解決に向けて努力していくこととしている。

最後に、本報告書をまとめるにあたり、認証評価にご参加いただき、貴重なご意見をお寄せいただいた高等専門学校の関係者、評価担当者並びに認証評価委員会等各種委員会の方々に感謝を申し上げます。



## 参考文献

- 1) 大学評価・学位授与機構 (平成 27 年度)『高等専門学校機関別認証評価 実施大綱』
- 2) 大学評価・学位授与機構 (平成 27 年度)『高等専門学校機関別認証評価 高等専門学校評価基準 付 選択的評価事項』
- 3) 大学評価・学位授与機構 (平成 27 年度)『高等専門学校機関別認証評価 自己評価実施要項』
- 4) 大学評価・学位授与機構 (平成 27 年度)『高等専門学校機関別認証評価 評価実施手引書』
- 5) 大学評価・学位授与機構 (平成 27 年度)『高等専門学校機関別認証評価 訪問調査実施要項』
- 6) 野澤庸則、田中弥生 (平成 24 年)「第 2 サイクルにおける高等専門学校認証評価基準—第 1 サイクルの検証結果の基準・観点の見直しへの反映—」『大学評価・学位研究』第 13 号 pp. 57-77
- 7) 大学評価・学位授与機構 (平成 25 年)『平成 23 年度に実施した高等専門学校認証評価に関する検証結果報告書』
- 8) 大学評価・学位授与機構 (平成 26 年)『平成 24 年度に実施した高等専門学校認証評価に関する検証結果報告書』
- 9) 大学評価・学位授与機構 (平成 27 年)『平成 25 年度に実施した高等専門学校認証評価に関する検証結果報告書』
- 10) 大学評価・学位授与機構 (平成 25 年)『進化する大学機関別認証評価—第 1 サイクルの検証と第 2 サイクルにおける改善—』
- 11) 大学評価・学位授与機構 『平成 23 年度高等専門学校機関別認証評価結果報告』
- 12) 大学評価・学位授与機構 『平成 24 年度高等専門学校機関別認証評価結果報告』
- 13) 大学評価・学位授与機構 『平成 25 年度高等専門学校機関別認証評価結果報告』
- 14) 大学評価・学位授与機構 (平成 27 年度)『大学機関別選択評価 自己評価実施要項』
- 15) 大学評価・学位授与機構 (平成 25 年)『選択的評価事項 C 水準判定のガイドライン (案)』: [http://www.niad.ac.jp/n\\_hyouka/daigaku/\\_icsFiles/afieldfile/2012/06/22/no6\\_1\\_1\\_daigaku9sentakucsuijin25.pdf](http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/daigaku/_icsFiles/afieldfile/2012/06/22/no6_1_1_daigaku9sentakucsuijin25.pdf)

# 参 考 资 料



## 年度別対象校一覧

(認証評価)

### 平成 23 年度

○ 国立高等専門学校 (6 高等専門学校)

旭川工業高等専門学校、八戸工業高等専門学校、沼津工業高等専門学校、  
明石工業高等専門学校、広島商船高等専門学校、阿南工業高等専門学校

### 平成 24 年度

○ 国立高等専門学校 (12 高等専門学校)

釧路工業高等専門学校、一関工業高等専門学校、茨城工業高等専門学校、  
福井工業高等専門学校、長野工業高等専門学校、鈴鹿工業高等専門学校、  
和歌山工業高等専門学校、徳山工業高等専門学校、高知工業高等専門学校、  
有明工業高等専門学校、都城工業高等専門学校、鹿児島工業高等専門学校

○ 公立高等専門学校 (1 高等専門学校)

東京都立産業技術高等専門学校

○ 私立高等専門学校 (1 高等専門学校)

金沢工業高等専門学校

### 平成 25 年度

○ 国立高等専門学校 (14 高等専門学校)

鶴岡工業高等専門学校、木更津工業高等専門学校、東京工業高等専門学校、  
岐阜工業高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、舞鶴工業高等専門学校、  
奈良工業高等専門学校、松江工業高等専門学校、呉工業高等専門学校、  
宇部工業高等専門学校、弓削商船高等専門学校、久留米工業高等専門学校、  
北九州工業高等専門学校、佐世保工業高等専門学校

## 年度別対象校一覧

(選択的評価事項に係る評価)

平成 23 年度

○ 国立高等専門学校 (6 高等専門学校)

旭川工業高等専門学校 (A・B)、八戸工業高等専門学校 (A・B)、  
沼津工業高等専門学校 (A・B)、明石工業高等専門学校 (A・B)、  
広島商船高等専門学校 (A・B)、阿南工業高等専門学校 (A・B)

平成 24 年度

○ 国立高等専門学校 (12 高等専門学校)

釧路工業高等専門学校 (A・B)、一関工業高等専門学校 (A・B)、  
茨城工業高等専門学校 (A・B)、福井工業高等専門学校 (A・B)、  
長野工業高等専門学校 (A・B)、鈴鹿工業高等専門学校 (A・B)、  
和歌山工業高等専門学校 (A・B)、徳山工業高等専門学校 (A・B)、  
高知工業高等専門学校 (A・B)、有明工業高等専門学校 (A・B)、  
都城工業高等専門学校 (A・B)、鹿児島工業高等専門学校 (A・B)

平成 25 年度

○ 国立高等専門学校 (14 高等専門学校)

鶴岡工業高等専門学校 (A・B)、木更津工業高等専門学校 (A・B)、  
東京工業高等専門学校 (A・B)、岐阜工業高等専門学校 (A・B)、  
鳥羽商船高等専門学校 (A・B)、舞鶴工業高等専門学校 (A・B)、  
奈良工業高等専門学校 (A・B)、松江工業高等専門学校 (A・B)、  
呉工業高等専門学校 (A・B)、宇部工業高等専門学校 (A・B)、  
弓削商船高等専門学校 (A・B)、久留米工業高等専門学校 (A・B)、  
北九州工業高等専門学校 (A・B)、佐世保工業高等専門学校 (A・B)

**対 象 校**

(高等専門学校用)

## 平成25年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート

貴校名 \_\_\_\_\_

今回、当機構の評価を受けられて、どのように感じられたか、1～11の項目について、それぞれの質問にご回答くださるようお願いいたします。

回答様式には、選択式のものゝ記述式のものがあります。選択式の回答については、該当する番号に○を付けるか、右端の空欄に数字をご記入ください。なお、質問事項に該当する事例がなかった場合等、回答できない場合については、回答欄に「－」とご記入ください（下記参照）。また、記述式の回答について、枠内に書ききれない場合には、枠を広げたり、別の紙を使用したりするなどしてご記入ください。特にご意見・ご感想がない場合には空欄のまま結構です。

いただいた回答は、選択式のものについては、原則として統計的に処理した上で、また、記述式のものについては、学校名を伏せた上で、公表することといたします。

### 【回答例】

	強く      どちらとも      全くそう そう思う ← 言えない → 思わない (5)            (3)            (1)						
回答例① .....は、適切であった -----	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"><tr><td style="width: 12.5%; border: 1px solid black;">5</td><td style="width: 12.5%; border: 1px solid black;">4</td><td style="width: 12.5%; border: 1px solid black;">3</td><td style="width: 12.5%; border: 1px solid black;">2</td><td style="width: 12.5%; border: 1px solid black;">1</td><td style="width: 12.5%; border: 1px solid black;">3</td></tr></table>	5	4	3	2	1	3
5	4	3	2	1	3		
回答例② .....は、適切であった -----	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"><tr><td style="width: 12.5%; border: 1px solid black;">5</td><td style="width: 12.5%; border: 1px solid black;">4</td><td style="width: 12.5%; border: 1px solid black;">③</td><td style="width: 12.5%; border: 1px solid black;">2</td><td style="width: 12.5%; border: 1px solid black;">1</td><td style="width: 12.5%; border: 1px solid black;"></td></tr></table>	5	4	③	2	1	
5	4	③	2	1			

### (回答できない場合)

	強く      どちらとも      全くそう そう思う ← 言えない → 思わない (5)            (3)            (1)						
.....は、適切であった -----	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"><tr><td style="width: 12.5%; border: 1px solid black;">5</td><td style="width: 12.5%; border: 1px solid black;">4</td><td style="width: 12.5%; border: 1px solid black;">3</td><td style="width: 12.5%; border: 1px solid black;">2</td><td style="width: 12.5%; border: 1px solid black;">1</td><td style="width: 12.5%; border: 1px solid black;">－</td></tr></table>	5	4	3	2	1	－
5	4	3	2	1	－		

# 1. 評価基準及び観点について

当機構が設定した評価基準及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
① 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
② 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった -----	5	4	3	2	1	
	ある		ない			
⑤ 自己評価しにくい評価基準又は観点があった -----	2		1			

→※⑤について、2 とご回答いただいた場合、どの評価基準又は観点が自己評価しにくかったかをご記入ください。

	ある	ない	
⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった -----	2	1	

→※⑥について、2 とご回答いただいた場合、重複していると思われる評価基準又は観点についてご記入ください。

・評価基準及び観点についてご意見、ご感想等をご記入ください。



## 2. 評価の方法及び内容について

評価の方法及び内容について、(1) 自己評価、(2) 訪問調査等、(3) 意見の申立ての3項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

### (1) 自己評価について

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 自己評価書に添付する資料は、既に蓄積していたもので十分対応することができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

③ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った

迷った	迷っていない	
2	1	

→※③について、2とご回答いただいた場合、どのような点で迷ったのかをご記入ください。

④ 貴校の総合的な状況が広く社会等の理解を得るために、わかりやすい自己評価書を作成することができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑤ 自己評価書の完成度は満足できるものであった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑥ 自己評価書には文字数制限を設けているが、文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どのくらいの文字数であればよいと思うかをご記入ください。

⑦ 自己評価書の作成に当たって、既に機構の認証評価を受けた他高等専門学校の自己評価書を参考にした -----

参考にした	参考にしなかった	
2	1	

・自己評価についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(2) 訪問調査等について

強く    どちらとも    全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5)            (3)            (1)

① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

③ 訪問調査時に機構の評価担当者（事務担当者を除く。以下同様。）が質問した内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

④ 訪問調査の実施内容として、高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※④について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容を設けたことがどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

⑤ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）の方法は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容の方法がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

--

⑥ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）に係る時間配分は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容の時間配分がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

--

⑦ 訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑧ 訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑧について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような人数や構成が適切であると思うかをご記入ください。

--

⑨ 訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・訪問調査等についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(3) 意見の申立てについて

強く どちらとも 全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5) (3) (1)

① 意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

--

② 「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載するとしたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

以下は、意見の申立てを行った対象校のみお答えください。

③ 貴校からの意見の申立てに対する機構の対応は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

--

### 3. 評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業に関して、(1) 評価に費やした作業量、(2) 機構が設定した作業期間、(3) 評価作業に費やした労力、(4) 評価のスケジュールの4項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

#### (1) 評価に費やした作業量について

	＜作業量＞					
	とても 大きい (5)	← 適当	→ 小さい (1)			
	5	4	3	2	1	
① 自己評価書の作成 .....	5	4	3	2	1	
② 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応 .....	5	4	3	2	1	
③ 訪問調査のための事前準備 .....	5	4	3	2	1	
④ 訪問調査当日の対応 .....	5	4	3	2	1	
⑤ 意見の申立て .....	5	4	3	2	1	

・評価に費やした作業量についてご意見、ご感想等をご記入ください。

①～⑤について、5とご回答いただいた場合、具体的にどのような作業において作業量が大きかったかをご記入ください。

(2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

		＜作業期間＞					
		とても 長い (5)	← 適当 (3)	→ 短い (1)			
①	訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応 -----	5	4	3	2	1	
②	訪問調査のための事前準備 -----	5	4	3	2	1	
③	訪問調査当日の対応 -----	5	4	3	2	1	
④	意見の申立て -----	5	4	3	2	1	

・ 機構が設定した作業期間についてご意見、ご感想等をご記入ください。



(3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった -----	5	4	3	2	1	
② 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るといった目的に見合うものであった -----	5	4	3	2	1	

・評価作業に費やした労力についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(4) 評価のスケジュールについて

- ① 自己評価書の提出時期（6月末）は適当であった  
（適当でないと回答された場合、どの時期が適当か自由記述欄にお書きください。） ----
- ② 訪問調査の実施時期（10月上旬～12月中旬）は適当であった  
（適当でないと回答された場合、どの時期が適当か自由記述欄にお書きください。） ----

適当	適当でない	
2	1	
2	1	

・評価のスケジュールについてご意見、ご感想等をご記入ください。

#### 4. 説明会・研修会等について

認証評価に関する説明会、自己評価担当者等に対する研修会、その他機構が実施する各種説明等について以下の質問にお答えください。(⑧について、訪問説明を受けなかった対象校は回答欄に「-」をご記入ください。)

	強く そう思う (5)	どちらとも ← 言えない → (3)	全くそう 思わない (1)		
① 説明会の配付資料は理解しやすかった -----	5	4	3	2 1	
② 説明会の内容は理解しやすかった -----	5	4	3	2 1	
③ 説明会の内容は役立った -----	5	4	3	2 1	
④ 自己評価担当者等に対する研修会の配付資料は理解しやすかった -----	5	4	3	2 1	
⑤ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった -----	5	4	3	2 1	
⑥ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立った -----	5	4	3	2 1	
⑦ 機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った -----	5	4	3	2 1	
⑧ 機構が行った訪問説明は役立った -----	5	4	3	2 1	
⑨ 説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応（質問等に対する対応） は適切であった -----	5	4	3	2 1	

・説明会・研修会等についてご意見、ご感想等をご記入ください。

## 5. 評価結果（評価報告書）について

評価結果（評価報告書）について、（1）評価報告書の内容等、（2）自己評価書及び評価報告書の公表、（3）評価結果に関するマスメディア等の報道の3項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

### （1）評価報告書の内容等について

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
① 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった -----	5	4	3	2	1	
② 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の改善に役立つものであった	5	4	3	2	1	
③ 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得ることを支援・促進するものであった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価報告書の内容は、貴校の目的に照らし適切なものであった -----	5	4	3	2	1	
⑤ 評価報告書の内容は、貴校の実態に即したものであった -----	5	4	3	2	1	
⑥ 評価報告書の内容は、貴校の規模等（資源・制度等）を考慮したものであった -----	5	4	3	2	1	
⑦ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた ---	5	4	3	2	1	
⑧ 評価報告書の構成及び内容はわかりやすいものであった -----	5	4	3	2	1	

→※⑧について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点がわかりにくかったかをご記入ください。

⑨ 総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった -----	5	4	3	2	1	
----------------------------------	---	---	---	---	---	--

(2) 自己評価書及び評価報告書の公表について

① 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイト等で公表している

している	していない	
2	1	

② 評価報告書をウェブサイト等で公表している

2	1	
---	---	--

(3) 評価結果に関するマスメディア等の報道について

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 評価結果に関して、マスメディア等から適切な報道がなされた

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・評価結果（評価報告書）についてご意見、ご感想等をご記入ください。

## 6. 評価を受けたことによる効果・影響について

評価を受けたことによる効果・影響について、自己評価実施時点での効果・影響と機構の評価結果を受けての効果・影響とに分けて質問しますので、それぞれお答えください。(具体の活用例、改善例については、別途「7. 評価結果の活用について」で質問します。)

### (1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)		
① 貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができた -----	5	4	3	2 1	
② 貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができた -----	5	4	3	2 1	
③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した -----	5	4	3	2 1	
④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した -----	5	4	3	2 1	
⑤ 貴校の教育研究活動等の改善を促進した -----	5	4	3	2 1	
⑥ 貴校の将来計画の策定に役立った -----	5	4	3	2 1	
⑦ 貴校のマネジメントの改善を促進した -----	5	4	3	2 1	
⑧ 貴校の個性的な取組を促進した -----	5	4	3	2 1	
⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した -----	5	4	3	2 1	
⑩ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した -----	5	4	3	2 1	

・自己評価を行ったことによる効果・影響に関連して、ご意見、ご感想等がありましたらご記入ください。

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
① 貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができる -----	5	4	3	2	1	
② 貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができる -----	5	4	3	2	1	
③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する -----	5	4	3	2	1	
④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する -----	5	4	3	2	1	
⑤ 貴校の教育研究活動等の改善を促進する -----	5	4	3	2	1	
⑥ 貴校の将来計画の策定に役立つ -----	5	4	3	2	1	
⑦ 貴校のマネジメントの改善を促進する -----	5	4	3	2	1	
⑧ 貴校の個性的な取組を促進する -----	5	4	3	2	1	
⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する -----	5	4	3	2	1	
⑩ 教職員に評価結果の内容が浸透する -----	5	4	3	2	1	
⑪ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する -----	5	4	3	2	1	
⑫ 貴校の教育研究活動等の質が保証される -----	5	4	3	2	1	
⑬ 学生（今後入学する学生を含む）の理解と支持が得られる -----	5	4	3	2	1	
⑭ 広く社会の理解と支持が得られる -----	5	4	3	2	1	
⑮ 他高等専門学校の評価結果から優れた取組を参考にする -----	5	4	3	2	1	

・機構の評価結果を受けたことによる効果・影響に関連して、ご意見、ご感想等がありましたらご記入ください。

## 7. 評価結果の活用について

① 今回の評価（機構の評価結果だけでなく、貴校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。）を契機として、課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項（または実施済みの事項）がありましたら、その主要な事項について、簡潔にご記述ください。

また、その変更・改善の際に、今回の評価はどの程度参考になったかを5段階でお答えください。

特に、評価結果において「改善を要する点」として指摘を受けた事項について、変更・改善を予定しているもの（または実施済みのもの）がありましたら、必ずご記述ください。

**注：本質問は、機構の評価がどの程度対象校の改善に活用されているかを把握することにより、評価方法の改善を図ろうとするものです。貴校の変更・改善の取組状況自体を評価することを目的とするものではありません。**

非常に 参考に あまり参考に  
参考になった ← なった → ならなかった  
(5) (3) (1)

課題	(記入例) 【基準6】卒業生のアンケート結果からみて、「外国語の能力」の達成度が十分ではない。	5	4	3	2	1	3
変更・改善	「外国語の能力」の達成度を向上させるため、来年度から、カリキュラムの充実、学習環境の整備を行うこととしている。						
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							

※必要に応じて、枠の数を増やしたり、縦幅を大きくしてください。

② 貴校では、今後、次のような事柄に評価結果を用いる予定がありますか。以下の該当する番号に○を付けるか、下の回答欄に番号を記入してください。（複数回答可）

- |                                |                        |
|--------------------------------|------------------------|
| 1 貴校の広報誌に評価結果を掲載する。            | 2 貴校のウェブサイトで評価結果を公表する。 |
| 3 資金獲得のための申請書に記載する。            | 4 学生募集の際に用いる。          |
| 5 共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。 |                        |
| 6 その他（具体的に）                    |                        |

[

]

回答欄



## 8. 評価の実施体制について

貴校の評価の実施体制についてお教えてください。今後の当機構の評価を、より効果的なものとするために参考とさせていただきます。

・評価（自己点検・評価、認証評価等）を行うための実施体制について、その組織名称、役割、設置形態（常設・臨時）、人数構成等をお教えてください。「例」を適宜参考にし、わかりやすくご記入ください。（以下の「例」は削除して結構です。）既存の資料がありましたら、それを添付していただいで結構です。

(記入例)

```
graph TD; A[自己点検・評価委員会] --- B[ワーキンググループ]; A --- C[評価推進室]; B --- D[〇〇学部作業チーム]; B --- E[〇〇〇〇];
```

自己点検・評価委員会  
(役割)：評価結果についての最終決定  
(形態)：常設  
(構成)：学長、理事、・・・  
(人数)：〇人

ワーキンググループ  
(役割)：評価結果の審議  
(形態)：常設  
(構成)：理事、各学部長・・・  
(人数)：〇人

評価推進室  
(役割)：評価に関する事務  
(形態)：常設  
(構成)：室長、係長・・・  
(人数)：〇人

〇〇学部作業チーム  
(役割)：データ等の収集・整理  
(形態)：臨時  
(構成)：〇〇学部長、・・・  
(人数)：〇人

〇〇〇〇

---

他に具体的な説明等がありましたら以下にご記入ください。

・評価の実施体制について、貴校が行っている方策・工夫等がありましたらお教えてください。また、その方策・工夫等について良かった点、悪かった点等、その他ご感想についても併せてお教えてください。

Blank area for additional comments.

## 9. 前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について

前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について、評価の目的である、教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

- ① 前回の認証評価を受けたことにより、貴校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、5又は4とご回答いただいた場合、質の保証にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

- ② 前回の認証評価を受けたことにより、貴校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、5又は4とご回答いただいた場合、改善の促進にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

- ③ 前回の認証評価を受けたことにより、貴校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、5又は4とご回答いただいた場合、社会からの理解と支持にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

## 10. 前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて

前回の認証評価を受けた時と比較して、当機構の認証評価プロセスが改善されたかどうかについて、以下の質問に可能な範囲でお答えください。

	非常に良く なっている (5)	どちらとも ← 言えない → (3)	非常に悪く なっている (1)			
① 評価基準及び観点の構成や内容は、認証評価の目的を達成するためにより適切なものとなった -----	5	4	3	2	1	
② 評価基準及び観点に基づき、より適切な自己評価書を作成できるようになった-----	5	4	3	2	1	
③ 訪問調査は、より適切な実施内容・実施体制で行われるようになった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間は、より適当なものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑤ 評価作業に費やした労力は、認証評価の目的により見合うものとなった ----	5	4	3	2	1	
⑥ 説明会・研修会等は、より理解しやすいもの、役立つものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑦ 評価報告書の内容等は、認証評価の目的により見合うものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑧ 貴校が自己評価書及び評価報告書を積極的に公表するようになった -----	5	4	3	2	1	
⑨ 評価結果に関するマスメディア等の報道は、より適切なものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑩ 自己評価を行ったことによる効果・影響は、より大きなものとなった-----	5	4	3	2	1	
⑪ 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響は、より大きなものとなった	5	4	3	2	1	

・前頁の項目以外で良くなっていると思う事項がありましたら、ご記入ください。

・前頁の項目以外で悪くなっていると思う事項がありましたら、ご記入ください。

## 11. その他

- ・実際に評価を受けて期待どおりであったかについてご記入ください。

- ・その他、当機構の行う評価についてご意見等がありましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

平成25年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート

ご氏名 \_\_\_\_\_

今回、当機構の評価に携わっていただき、どのように感じられたか、以下の1～7の項目について、それぞれの質問にご回答くださるようお願いいたします。

回答様式には、選択式のものゝ記述式のものがあります。選択式の回答については、該当する番号に○を付けるか、右端の空欄に数字をご記入ください。なお、質問事項に該当する事例がなかった場合等、回答できない場合については、回答欄に「－」とご記入ください（下記参照）。また、記述式の回答について、枠内に書ききれない場合には、枠を広げたり、別の紙を使用したりするなどしてご記入ください。特にご意見・ご感想がない場合には空欄のままです。

いただいた回答は、選択式のものについては、原則として統計的に処理した上で、また記述式のものについては、ご氏名を伏せた上で、公表することといたします。

【回答例】

強く      どちらとも      全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5)            (3)            (1)

回答例① .....は、適切であった -----

5	4	3	2	1		3
5	4	③	2	1		

回答例② .....は、適切であった -----

(回答できない場合)

強く      どちらとも      全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5)            (3)            (1)

.....は、適切であった -----

5	4	3	2	1	－
---	---	---	---	---	---

# 1. 評価基準及び観点について

当機構が設定した評価基準及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	どちらとも ← 言えない → (3)	全くそう 思わない (1)			
① 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
② 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった -----	5	4	3	2	1	
	ある		ない			
⑤ 評価しにくい評価基準又は観点があった -----	2		1			

→※⑤について、2とご回答いただいた場合、どの評価基準又は観点が評価しにくかったかをご記入ください。

	ある	ない	
⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった -----	2	1	

→※⑥について、2とご回答いただいた場合、重複していると思われる評価基準又は観点についてご記入ください。

・評価基準及び観点についてご意見、ご感想等をご記入ください。



## 2. 評価の方法及び内容・結果について

評価の方法及び内容・結果について（1）自己評価書、（2）書面調査、（3）訪問調査、（4）評価結果の4項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

### （1）自己評価書について

強く    どちらとも    全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5)                      (3)                      (1)

① 対象校の自己評価書は理解しやすかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が理解しにくかったかをご記入ください。

② 自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

③ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかをご記入ください。

・自己評価書の様式についてご意見、ご感想等をご記入ください（特に対象校に事前に伝えたい点、様式上の事項として不足のあった点等があればお聞かせください）。

(2) 書面調査について

強く どちらとも 全くそう  
そう思う ← 言えない → 思わない  
(5) (3) (1)

① 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が記入しにくかったかをご記入ください。

--

② 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、5又は4とご回答いただいた場合、どのような情報（客観的データ等）があればよかったかをご記入ください。

--

・書面調査についてご意見、ご感想等をご記入ください。

--

(3) 訪問調査について

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が確認できなかったかをご記入ください。

③ 訪問調査の実施内容として、高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容を設けたことがどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

④ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）の方法は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※④について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容の方法がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

⑤ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）に係る時間配分は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容の時間配分がどのような理由で適切でなかったかをご記入ください。

--

⑥ 訪問調査では、対象校と、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑦ 訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の人数や構成は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑦について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような人数や構成が適切であるかをご記入ください。

--

⑧ 訪問調査における機構の事務担当者の対応は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・訪問調査についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(4) 評価結果について

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された -	5	4	3	2	1	
② 基準1から基準11の評価で、基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価結果全体としての分量は適切であった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価報告書の最初に、全体の評価結果と併せて対象校の「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった -----	5	4	3	2	1	

・評価結果についてご意見、ご感想等をご記入ください。

### 3. 研修について

機構が実施する研修について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 研修の配付資料は理解しやすかった -----	5	4	3	2	1	
② 研修の説明内容は理解しやすかった -----	5	4	3	2	1	
③ 研修の内容は役立った -----	5	4	3	2	1	
④ 自己評価書のサンプルの提示は役立った -----	5	4	3	2	1	
⑤ 研修に費やした時間の長さは適切であった -----	5	4	3	2	1	

・ 研修についてご意見、ご感想等をご記入ください。

#### 4. 評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業に関して、(1) 評価に費やした作業量、(2) 機構が設定した作業期間、(3) 評価作業に費やした労力、(4) 評価作業にかかった時間数の4項目に分けて質問しますのでそれぞれお答えください。

##### (1) 評価に費やした作業量について

		＜作業量＞					
		とても 大きい (5)	← 適当 (3)	→ 小さい (1)			
①	自己評価書の書面調査 .....	5	4	3	2	1	
②	訪問調査への参加 .....	5	4	3	2	1	
③	評価結果(原案)の作成 .....	5	4	3	2	1	

・評価に費やした作業量についてご意見、ご感想等をご記入ください。

①～③について、5とご回答いただいた場合、具体的にどのような作業において作業量が大きかったかをご記入ください。



(2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

<作業期間>

とても とも  
長い ← 適当 → 短い  
(5) (3) (1)

- ① 自己評価書の書面調査 -----
- ② 訪問調査への参加 -----
- ③ 評価結果（原案）の作成 -----

	5	4	3	2	1	
① 自己評価書の書面調査 -----	5	4	3	2	1	
② 訪問調査への参加 -----	5	4	3	2	1	
③ 評価結果（原案）の作成 -----	5	4	3	2	1	

・機構が設定した作業期間についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった -----	5	4	3	2	1	
② 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するという目的に見合うものであった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るといった目的に見合うものであった -----	5	4	3	2	1	

・評価作業に費やした労力についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(4) 評価作業にかかった時間数について

評価作業にかかったのべ時間数（部会、訪問調査への出席を除く）について、以下の項目ごとに概数でお答えください。

※1校あたりではなく、全体でかかった時間をご回答ください。

① 自己評価書の書面調査	およそ		時間
② 訪問調査の準備	およそ		時間
③ 評価結果（原案）の作成	およそ		時間

・評価作業にかかった時間数についてご意見、ご感想等をご記入ください。

## 5. 評価部会等の運営について

評価部会、専門部会の人数や構成、運営について以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

① 評価部会、あるいは専門部会の委員の人数や構成は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 部会運営は円滑であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・評価部会等の運営についてご意見、ご感想等をご記入ください。

## 6. 評価全般について

評価を行ったことによる効果・影響等、評価全般について以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	どちらとも ←言えない (3)	全くそう →思わない (1)			
① 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の質が保証されると思う -----	5	4	3	2	1	
② 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う ----	5	4	3	2	1	
③ 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う -----	5	4	3	2	1	
④ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた -----	5	4	3	2	1	
⑤ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた	5	4	3	2	1	
⑥ 総じて機構の認証評価を経験できてよかった -----	5	4	3	2	1	

・評価全般（評価に携わっていただいて感じたことも含め）についてご意見、ご感想等をご記入ください。

## 7. 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について、評価の目的である、教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、以下の質問に可能な範囲でお答えください。

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

- ① 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、5又は4とご回答いただいた場合、質の保証にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

- ② 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、5又は4とご回答いただいた場合、改善の促進にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

- ③ 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった --

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、5又は4とご回答いただいた場合、社会からの理解と支持にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

## 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果 【対象校】

### 【1. 評価基準及び観点について】

※平均欄の赤字はサイクル間で有意差があることを示す

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		サイクル						合計	平均		
		5	4	3	2	1	合計			平均	
機関1-	① 教育研究活動等の質を保证するために適切であった	第1サイクル	25%	70%	5%	0%	0%	60	4.20	<b>教育研究活動等の質を保证するために適切であった</b> 	
		第2サイクル	32%	59%	9%	0%	0%	34	4.24		
機関1-	② 教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	第1サイクル	27%	60%	13%	0%	0%	60	4.13	<b>教育研究活動等の改善を促進するために適切であった</b> 	
		第2サイクル	41%	53%	6%	0%	0%	34	4.35		
機関1-	③ 教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	第1サイクル	20%	57%	22%	2%	0%	60	3.95	<b>教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった</b> 	
		第2サイクル	21%	56%	24%	0%	0%	34	3.97		
機関1-	④ 教育活動を中心に設定していることは適切であった	第1サイクル	37%	58%	3%	2%	0%	60	4.30	<b>教育活動を中心に設定していることは適切であった</b> 	
		第2サイクル	50%	44%	6%	0%	0%	34	4.44		
機関1-	⑤ 自己評価しにくい評価基準又は観点があった <small>※平成17～18年度は5段階評価となっているため、除外して合計を算出</small>	第1サイクル				33%	67%	24	1.33	<b>自己評価しにくい評価基準又は観点があった</b> 	
		第2サイクル				29%	71%	34	1.29		
機関1-	⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった	第1サイクル				21%	79%	42	1.21	<b>内容が重複する評価基準又は観点があった</b> 	
		第2サイクル				12%	88%	33	1.12		

[H19～]2: あり～1: ない

### 【2. 評価の方法及び内容について】

#### 【(1) 自己評価について】

		サイクル						合計	平均		
		5	4	3	2	1	合計			平均	
機関2-(1)-	① 評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた	第1サイクル	27%	65%	8%	0%	0%	60	4.18	<b>評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた</b> 	
		第2サイクル	24%	62%	15%	0%	0%	34	4.09		
機関2-(1)-	② 自己評価書の添付資料は既に蓄積していたもので十分対応することができた	第1サイクル	3%	42%	30%	20%	5%	60	3.18	<b>自己評価書の添付資料は既に蓄積していたもので十分対応することができた</b> 	
		第2サイクル	9%	44%	26%	21%	0%	34	3.41		
機関2-(1)-	③ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った	第1サイクル				50%	50%	4	1.50	<b>自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った</b> 	
		第2サイクル				47%	53%	34	1.47		
機関2-(1)-	④ 総合的な状況が広く社会等の理解を得るため、わかりやすい自己評価書にすることができた	第1サイクル	13%	55%	28%	3%	0%	60	3.78	<b>総合的な状況が広く社会等の理解を得るため、わかりやすい自己評価書にすることができた</b> 	
		第2サイクル	21%	62%	12%	6%	0%	34	3.97		
機関2-(1)-	⑤ 自己評価書の完成度は満足できるものであった	第1サイクル	13%	53%	33%	0%	0%	60	3.80	<b>自己評価書の完成度は満足できるものであった</b> 	
		第2サイクル	18%	65%	9%	9%	0%	34	3.91		
機関2-(1)-	⑥ 文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった	第1サイクル	12%	35%	30%	17%	7%	60	3.28	<b>文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった</b> 	
		第2サイクル	21%	38%	26%	15%	0%	34	3.65		
機関2-(1)-	⑦ すでに機構の認証評価を受けた他高専の自己評価書を参考にした	第1サイクル				83%	17%	41	1.83	<b>すでに機構の認証評価を受けた他高専の自己評価書を参考にした</b> 	
		第2サイクル				71%	29%	34	1.71		

2: 迷った～1: 迷っていない

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

[H18より新設]2: 参考にした～1: 参考にしなかった

【(2)訪問調査等について】

		5	4	3	2	1	合計	平均		
機関2-(2)-①	「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	第1サイクル	25%	50%	23%	2%	0%	60	3.98	<p>5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない</p> <p>「書面調査による分析状況」の内容は適切であった</p>
		第2サイクル	24%	65%	9%	0%	3%	34	4.06	
機関2-(2)-②	「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	第1サイクル	23%	53%	22%	0%	2%	60	3.97	<p>「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった</p>
		第2サイクル	35%	56%	9%	0%	0%	34	4.26	
機関2-(2)-③	訪問調査時に機構の評価担当者が質問した内容は適切であった	第1サイクル	22%	70%	8%	0%	0%	60	4.13	<p>訪問調査時に機構の評価担当者が質問した内容は適切であった</p>
		第2サイクル	35%	59%	6%	0%	0%	34	4.29	
旧設問 機関2-(2)-	④ 訪問調査時の実施内容は適切であった <small>※H22年度までの設問</small>	第1サイクル	32%	62%	7%	0%	0%	60	4.25	<p>訪問調査時に機構の評価担当者が質問した内容は適切であった</p>
機関2-(2)-④	実施内容として面談等を設けたことは適切であった	第2サイクル	53%	38%	3%	6%	0%	34	4.38	<p>H23より新設 5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない</p> <p>実施内容として面談等を設けたことは適切であった</p>
		第2サイクル	32%	59%	9%	0%	0%	34	4.24	<p>実施内容の方法は適切であった</p>
機関2-(2)-⑤	実施内容の方法は適切であった	第2サイクル	26%	47%	21%	6%	0%	34	3.94	<p>実施内容に係る時間配分は適切であった</p>
		第2サイクル	28%	47%	21%	6%	0%	34	3.94	<p>訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた</p>
機関2-(2)-⑦	訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた	第1サイクル	33%	53%	13%	0%	0%	60	4.20	<p>訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成は適切であった</p>
		第2サイクル	41%	50%	6%	3%	0%	34	4.29	
機関2-(2)- ※旧 機関2-(2)- ⑥	⑧ 訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成は適切であった	第1サイクル	35%	45%	20%	0%	0%	60	4.15	<p>訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う</p>
第2サイクル	41%	53%	6%	0%	0%	34	4.35			
機関2-(2)- ※旧 機関2-(2)- ⑦	⑨ 訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う	第1サイクル	34%	48%	17%	0%	0%	58	4.17	<p>意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった</p>
第2サイクル	44%	41%	15%	0%	0%	34	4.29			

【(3)意見の申立てについて】

		5	4	3	2	1	合計	平均		
機関2-(3)-①	意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった	第1サイクル	36%	41%	22%	0%	0%	58	4.14	<p>5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない</p> <p>意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった</p>
		第2サイクル	48%	36%	15%	0%	0%	33	4.33	
機関2-(3)-②	「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載することとしたことは適切であった	第1サイクル	27%	39%	35%	0%	0%	49	3.92	<p>「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載することとしたことは適切であった</p>
		第2サイクル	41%	28%	28%	3%	0%	29	4.07	
機関2-(3)-③	意見の申立てに対する機構の対応は適切であった(意見の申立てを行った対象校のみ)	第1サイクル	10%	25%	60%	5%	0%	20	3.40	<p>意見の申立てに対する機構の対応は適切であった(意見の申立てを行った対象校のみ)</p>
		第2サイクル	100%	0%	0%	0%	0%	1	5.00	

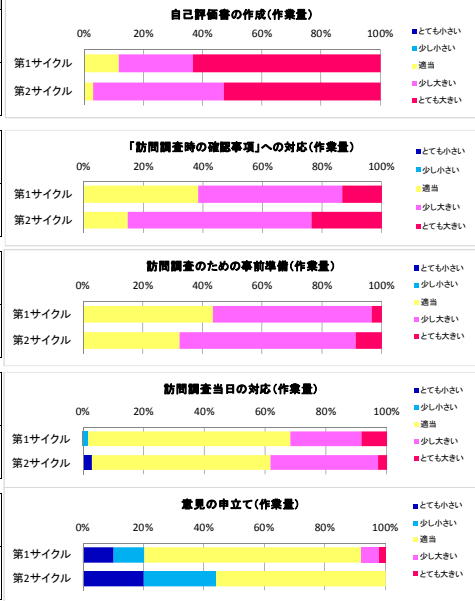


【3. 評価の作業量、スケジュール等について】  
 【(1) 評価に費やした作業量について】

※このアンケート項目では平均点が高くなるほど評価が低い

機関	項目	第1サイクル	第2サイクル	評価					合計	平均
				1	2	3	4	5		
機関3-(1)-	① 自己評価書の作成(作業量)	第1サイクル	0%	0%	12%	25%	63%	60	4.52	
		第2サイクル	0%	0%	3%	44%	53%	34	4.50	
機関3-(1)-	② 「訪問調査時の確認事項」への対応(作業量)	第1サイクル	0%	0%	38%	48%	13%	60	3.75*	
		第2サイクル	0%	0%	15%	62%	24%	34	4.09*	
機関3-(1)-	③ 訪問調査のための事前準備(作業量)	第1サイクル	0%	0%	43%	53%	3%	60	3.60	
		第2サイクル	0%	0%	32%	59%	9%	34	3.76	
機関3-(1)-	④ 訪問調査当日の対応(作業量)	第1サイクル	0%	2%	67%	23%	8%	60	3.38	
		第2サイクル	3%	0%	59%	35%	3%	34	3.35	
機関3-(1)-	⑤ 意見の申立て(作業量)	第1サイクル	10%	10%	71%	6%	2%	49	2.80*	
		第2サイクル	20%	24%	56%	0%	0%	25	2.36*	

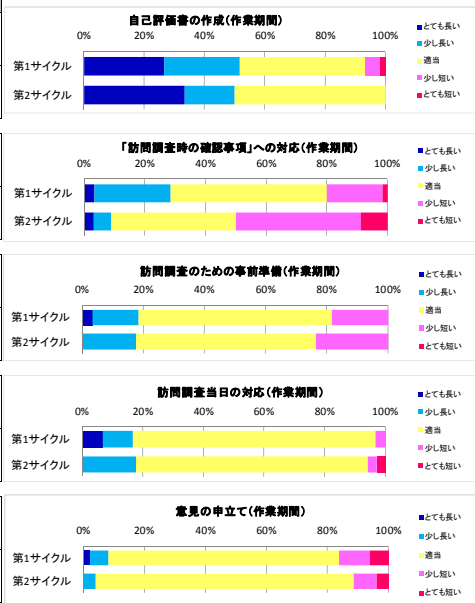
5:とても大きい~3:適当~1:とても小さい



【(2) 機構が設定した作業期間について】

機関	項目	第1サイクル	第2サイクル	評価					合計	平均
				5	4	3	2	1		
旧3-(1)-	① 自己評価書の作成(作業期間) ※平成23年度までの設問	第1サイクル	27%	25%	42%	5%	2%	60	3.70	
		第2サイクル	33%	17%	50%	0%	0%	6	3.83	
機関3-(2)-	① 「訪問調査時の確認事項」への対応(作業期間)	第1サイクル	3%	25%	52%	18%	2%	60	3.10*	
		第2サイクル	3%	6%	41%	41%	9%	34	2.53*	
機関3-(2)- ※旧3-(1)- ③	② 訪問調査のための事前準備(作業期間)	第1サイクル	3%	15%	63%	18%	0%	60	3.03	
		第2サイクル	0%	18%	59%	24%	0%	34	2.94	
機関3-(2)- ※旧3-(1)- ④	③ 訪問調査当日の対応(作業期間)	第1サイクル	7%	10%	80%	3%	0%	60	3.20	
		第2サイクル	0%	18%	76%	3%	3%	34	3.09	
機関3-(2)- ※旧3-(1)- ⑤	④ 意見の申立て(作業期間)	第1サイクル	2%	6%	76%	10%	6%	49	2.88	
		第2サイクル	0%	4%	85%	8%	4%	26	2.88	

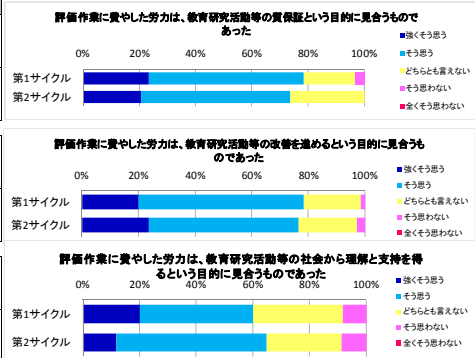
5:とても長い~3:適当~1:とても短い



【(3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて】

機関	項目	第1サイクル	第2サイクル	評価					合計	平均
				5	4	3	2	1		
機関3-(3)- ※旧3-(2)- ①	① 評価作業に費やした労力は、教育研究活動等の質保証という目的に見合うものであった	第1サイクル	23%	55%	18%	3%	0%	60	3.98	
		第2サイクル	21%	53%	26%	0%	0%	34	3.94	
機関3-(3)- ※旧3-(2)- ②	② 評価作業に費やした労力は、教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった	第1サイクル	20%	58%	20%	2%	0%	60	3.97	
		第2サイクル	24%	53%	21%	3%	0%	34	3.97	
機関3-(3)- ※旧3-(2)- ③	③ 評価作業に費やした労力は、教育研究活動等の社会から理解と支持を得るとい目的に見合うものであった	第1サイクル	20%	40%	32%	8%	0%	60	3.72	
		第2サイクル	12%	53%	26%	9%	0%	34	3.68	

5:強く思う~3:どちらとも言えない~1:全く思わない



【(4)評価のスケジュールについて】

		2	1	合計	平均			
機関3-(4)- ※旧3-(3)- ①	① 自己評価書の提出時期は適当であった	第1サイクル	90%	10%	60	1.90	<b>自己評価書の提出時期は適当であった</b> 	
		第2サイクル	91%	9%	34	1.91		
機関3-(4)- ※旧3-(3)- ②	② 訪問調査の実施時期は適当であった	第1サイクル	100%	0%	60	2.00*	<b>訪問調査の実施時期は適当であった</b> 	
		第2サイクル	91%	9%	34	1.91*		

2: 適当～1: 適当でない

【4. 説明会・研修会等について】

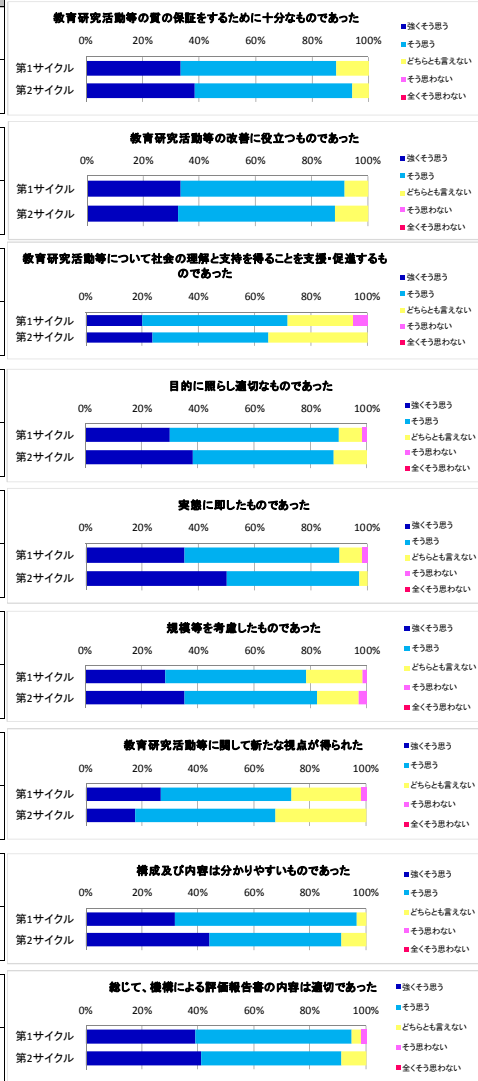
		5	4	3	2	1	合計	平均			
機関4-	① 説明会の配付資料は理解しやすかった	第1サイクル	18%	65%	17%	0%	0%	60	4.02	<b>説明会の配付資料は理解しやすかった</b> 	
		第2サイクル	29%	47%	15%	9%	0%	34	3.97		
機関4-	② 説明会の内容は理解しやすかった	第1サイクル	23%	60%	15%	2%	0%	60	4.05	<b>説明会の内容は理解しやすかった</b> 	
		第2サイクル	32%	44%	21%	3%	0%	34	4.06		
機関4-	③ 説明会の内容は役立った	第1サイクル	37%	55%	7%	2%	0%	60	4.27	<b>説明会の内容は役立った</b> 	
		第2サイクル	44%	44%	12%	0%	0%	34	4.32		
機関4-	④ 自己評価担当者等に対する研修会の配付資料は理解しやすかった	第1サイクル	22%	62%	17%	0%	0%	60	4.05	<b>自己評価担当者等に対する研修会の配付資料は理解しやすかった</b> 	
		第2サイクル	38%	41%	15%	6%	0%	34	4.12		
機関4-	⑤ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった	第1サイクル	27%	58%	14%	2%	0%	59	4.10	<b>自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった</b> 	
		第2サイクル	32%	44%	21%	3%	0%	34	4.06		
機関4-	⑥ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立った	第1サイクル	42%	42%	17%	0%	0%	60	4.25	<b>自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立った</b> 	
		第2サイクル	50%	29%	18%	3%	0%	34	4.26		
機関4-	⑦ 機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った	第1サイクル	45%	47%	8%	0%	0%	60	4.37	<b>機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った</b> 	
		第2サイクル	38%	53%	9%	0%	0%	34	4.29		
機関4-	⑧ 機構が行った訪問説明は役立った	第1サイクル	47%	46%	7%	0%	0%	59	4.41	<b>機構が行った訪問説明は役立った</b> 	
		第2サイクル	43%	43%	14%	0%	0%	14	4.29		
機関4-	⑨ 説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応(質問等に対する対応)は適切であった	第1サイクル	45%	48%	7%	0%	0%	60	4.38	<b>説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応(質問等に対する対応)は適切であった</b> 	
		第2サイクル	36%	45%	18%	0%	0%	33	4.18		

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

【5. 評価結果(評価報告書)について】  
【(1) 評価報告書の内容等について】

		5	4	3	2	1	合計	平均	
機関5-(1)-①	① 教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった	第1サイクル	33%	55%	12%	0%	0%	60	4.22
		第2サイクル	38%	56%	6%	0%	0%	34	4.32
機関5-(1)-②	② 教育研究活動等の改善に役立つものであった	第1サイクル	33%	58%	8%	0%	0%	60	4.25
		第2サイクル	32%	56%	12%	0%	0%	34	4.21
機関5-(1)-③	③ 教育研究活動等について社会の理解と支持を得ることを支援・促進するものであった	第1サイクル	20%	52%	23%	5%	0%	60	3.87
		第2サイクル	24%	41%	35%	0%	0%	34	3.88
機関5-(1)-④	④ 目的に照らし適切なものであった	第1サイクル	30%	60%	8%	2%	0%	60	4.18
		第2サイクル	38%	50%	12%	0%	0%	34	4.26
機関5-(1)-⑤	⑤ 実態に即したものであった	第1サイクル	35%	55%	8%	2%	0%	60	4.23
		第2サイクル	50%	47%	3%	0%	0%	34	4.47
機関5-(1)-⑥	⑥ 規模等を考慮したものであった	第1サイクル	28%	50%	20%	2%	0%	60	4.05
		第2サイクル	35%	47%	15%	3%	0%	34	4.15
機関5-(1)-⑦	⑦ 教育研究活動等に関して新たな視点が得られた	第1サイクル	27%	47%	25%	2%	0%	60	3.98
		第2サイクル	18%	50%	32%	0%	0%	34	3.85
機関5-(1)-⑧	⑧ 構成及び内容は分かりやすいものであった	第1サイクル	32%	65%	3%	0%	0%	60	4.28
		第2サイクル	44%	47%	9%	0%	0%	34	4.35
機関5-(1)-⑨	⑨ 総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった	第1サイクル	39%	56%	3%	2%	0%	59	4.32
		第2サイクル	41%	50%	9%	0%	0%	34	4.32

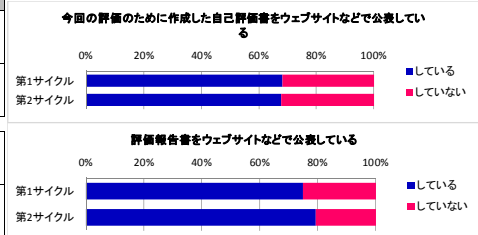
5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない



【(2) 自己評価書及び評価報告書の公表について】

		2	1	合計	平均	
機関5-(2)-①	① 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している <small>※平成17～18年度は5段階評価となっているため、除外して合計を算出</small>	第1サイクル	68%	32%	25	1.68
		第2サイクル	68%	32%	34	1.68
機関5-(2)-②	② 評価報告書をウェブサイトなどで公表している <small>※平成17～18年度は5段階評価となっているため、除外して合計を算出</small>	第1サイクル	75%	25%	24	1.75
		第2サイクル	79%	21%	34	1.79

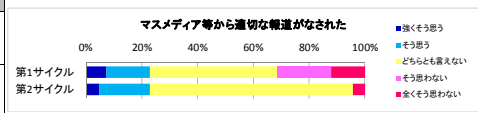
[H19～]2: している～1: していない



【(3) 評価結果に関するマスメディア等の報道について】

		5	4	3	2	1	合計	平均	
機関5-(3)-①	① マスメディア等から適切な報道がなされた	第1サイクル	7%	16%	46%	19%	12%	57	2.86
		第2サイクル	5%	18%	73%	0%	5%	22	3.18

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない



【6. 評価を行ったことによる効果・影響】

【(1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について】

		5	4	3	2	1	合計	平均			
機関6-(1)-①	① 教育研究活動等について全般的に把握することができた	第1サイクル	38%	53%	8%	0%	0%	60	4.30	<b>教育研究活動等について全般的に把握することができた</b> 	
		第2サイクル	53%	44%	3%	0%	0%	34	4.50		
機関6-(1)-②	② 教育研究活動等の今後の課題を把握することができた	第1サイクル	37%	62%	0%	2%	0%	60	4.33	<b>教育研究活動等の今後の課題を把握することができた</b> 	
		第2サイクル	35%	62%	3%	0%	0%	34	4.32		
機関6-(1)-③	③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した	第1サイクル	12%	57%	30%	2%	0%	60	3.78	<b>教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した</b> 	
		第2サイクル	9%	56%	29%	6%	0%	34	3.68		
機関6-(1)-④	④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した	第1サイクル	8%	50%	42%	0%	0%	60	3.67	<b>各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した</b> 	
		第2サイクル	3%	53%	38%	3%	3%	34	3.50		
機関6-(1)-⑤	⑤ 教育研究活動等の改善を促進した	第1サイクル	22%	60%	18%	0%	0%	60	4.03	<b>教育研究活動等の改善を促進した</b> 	
		第2サイクル	24%	65%	9%	3%	0%	34	4.09		
機関6-(1)-⑥	⑥ 将来計画の策定に役立った	第1サイクル	13%	54%	33%	0%	0%	24	3.79	<b>将来計画の策定に役立った</b> 	
		第2サイクル	9%	53%	32%	6%	0%	34	3.65		
機関6-(1)-⑦	⑦ 学校全体のマネジメントの改善を促進した	第1サイクル	10%	70%	20%	0%	0%	60	3.90	<b>学校全体のマネジメントの改善を促進した</b> 	
		第2サイクル	9%	65%	24%	3%	0%	34	3.79		
機関6-(1)-⑧	⑧ 個性的な取組を促進した	第1サイクル	15%	43%	40%	2%	0%	60	3.72	<b>個性的な取組を促進した</b> 	
		第2サイクル	24%	38%	35%	3%	0%	34	3.82		
機関6-(1)-⑨	⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した	第1サイクル	12%	53%	35%	0%	0%	60	3.77	<b>自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した</b> 	
		第2サイクル	15%	50%	32%	3%	0%	34	3.76		
機関6-(1)-⑩	⑩ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した	第1サイクル	13%	54%	33%	0%	0%	24	3.79	<b>評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した</b> 	
		第2サイクル	12%	59%	26%	3%	0%	34	3.79		

【(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について】

		5	4	3	2	1	合計	平均			
機関6-(2)-①	① 教育研究活動等について全般的に把握することができる	第1サイクル	28%	62%	10%	0%	0%	60	4.18	<b>教育研究活動等について全般的に把握することができる</b> 	
		第2サイクル	41%	59%	0%	0%	0%	34	4.41		
機関6-(2)-②	② 教育研究活動等の今後の課題を把握することができる	第1サイクル	28%	67%	5%	0%	0%	60	4.23	<b>教育研究活動等の今後の課題を把握することができる</b> 	
		第2サイクル	41%	56%	3%	0%	0%	34	4.38		
機関6-(2)-③	③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する	第1サイクル	18%	55%	25%	2%	0%	60	3.90	<b>教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する</b> 	
		第2サイクル	12%	59%	26%	3%	0%	34	3.79		
機関6-(2)-④	④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する	第1サイクル	12%	53%	33%	2%	0%	60	3.75	<b>各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する</b> 	
		第2サイクル	9%	56%	29%	6%	0%	34	3.68		

		5	4	3	2	1	合計	平均		
機関6-(2)-⑤	教育研究活動等の改善を促進する	第1サイクル	25%	62%	13%	0%	0%	60	4.12	5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない <b>教育研究活動等の改善を促進する</b> 第1サイクル 第2サイクル
		第2サイクル	12%	68%	15%	6%	0%	34	3.85	
機関6-(2)-⑥	将来計画の策定に役立つ	第1サイクル	17%	54%	29%	0%	0%	24	3.88	【H19より新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない <b>将来計画の策定に役立つ</b> 第1サイクル 第2サイクル
		第2サイクル	15%	50%	29%	6%	0%	34	3.74	
機関6-(2)-⑦	学校全体のマネジメントの改善を促進する	第1サイクル	22%	65%	13%	0%	0%	60	4.08	<b>学校全体のマネジメントの改善を促進する</b> 第1サイクル 第2サイクル
		第2サイクル	15%	59%	26%	0%	0%	34	3.88	
機関6-(2)-⑧	個性的な取組を促進する	第1サイクル	23%	45%	28%	3%	0%	60	3.88	<b>個性的な取組を促進する</b> 第1サイクル 第2サイクル
		第2サイクル	24%	38%	38%	0%	0%	34	3.85	
機関6-(2)-⑨	自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する	第1サイクル	18%	53%	27%	2%	0%	60	3.88	<b>自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する</b> 第1サイクル 第2サイクル
		第2サイクル	9%	56%	29%	6%	0%	34	3.68	
機関6-(2)-⑩	教職員に評価結果の内容が浸透する	第1サイクル	17%	53%	28%	2%	0%	60	3.85	<b>教職員に評価結果の内容が浸透する</b> 第1サイクル 第2サイクル
		第2サイクル	15%	41%	41%	3%	0%	34	3.68	
機関6-(2)-⑪	評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する	第1サイクル	13%	50%	38%	0%	0%	24	3.75	【H19より新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない <b>評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する</b> 第1サイクル 第2サイクル
		第2サイクル	9%	59%	26%	6%	0%	34	3.71	
機関6-(2)-⑫	教育研究活動等の質が保証される	第1サイクル	30%	58%	12%	0%	0%	60	4.18	<b>教育研究活動等の質が保証される</b> 第1サイクル 第2サイクル
		第2サイクル	29%	53%	15%	3%	0%	34	4.09	
機関6-(2)-⑬	学生の理解と支持が得られる	第1サイクル	7%	52%	42%	0%	0%	60	3.65	<b>学生の理解と支持が得られる</b> 第1サイクル 第2サイクル
		第2サイクル	6%	41%	50%	3%	0%	34	3.50	
機関6-(2)-⑭	広く社会の理解と支持が得られる	第1サイクル	13%	48%	33%	5%	0%	60	3.70	<b>広く社会の理解と支持が得られる</b> 第1サイクル 第2サイクル
		第2サイクル	21%	44%	35%	0%	0%	34	3.85	
機関6-(2)-⑮	他高等の評価結果から優れた取組を参考にする	第1サイクル	17%	58%	22%	3%	0%	60	3.88	<b>他高等の評価結果から優れた取組を参考にする</b> 第1サイクル 第2サイクル
		第2サイクル	3%	70%	27%	0%	0%	33	3.76	

※7、8は記述式回答のため、省略

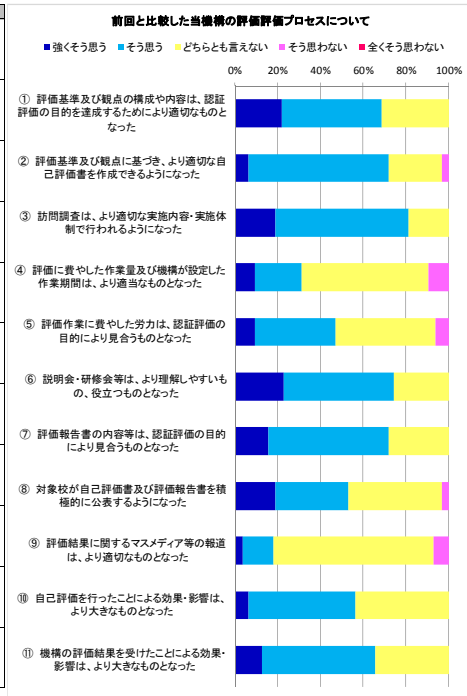
【9. 前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について】

		5	4	3	2	1	合計	平均		
機関9-	① 前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった	第2サイクル	6%	52%	42%	0%	0%	33	3.64	【H23より新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない <b>前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった</b> 第2サイクル
機関9-	② 前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった	第2サイクル	9%	61%	30%	0%	0%	33	3.79	<b>前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった</b> 第2サイクル
機関9-	③ 前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった	第2サイクル	3%	19%	78%	0%	0%	32	3.25	<b>前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった</b> 第2サイクル

【10. 前回と比較した当機構の評価評価プロセスについて】

【H23より新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

			5	4	3	2	1	合計	平均
機関10-	① 評価基準及び観点の構成や内容は、認証評価の目的を達成するために適切なものとなった	第2サイクル	22%	47%	31%	0%	0%	32	3.91
機関10-	② 評価基準及び観点に基づき、より適切な自己評価書を作成できるようになった	第2サイクル	6%	66%	25%	3%	0%	32	3.75
機関10-	③ 訪問調査は、より適切な実施内容・実施体制で行われるようになった	第2サイクル	19%	63%	19%	0%	0%	32	4.00
機関10-	④ 評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間は、より適なものとなった	第2サイクル	9%	22%	59%	9%	0%	32	3.31
機関10-	⑤ 評価作業に費やした労力は、認証評価の目的により見合うものとなった	第2サイクル	9%	38%	47%	6%	0%	32	3.50
機関10-	⑥ 説明会・研修会等は、より理解しやすいもの、役立つものとなった	第2サイクル	23%	52%	26%	0%	0%	31	3.97
機関10-	⑦ 評価報告書の内容等は、認証評価の目的により見合うものとなった	第2サイクル	16%	56%	28%	0%	0%	32	3.88
機関10-	⑧ 対象校が自己評価書及び評価報告書を積極的に公表するようになった	第2サイクル	19%	34%	44%	3%	0%	32	3.69
機関10-	⑨ 評価結果に関するマスメディア等の報道は、より適切なものとなった	第2サイクル	4%	14%	75%	7%	0%	28	3.14
機関10-	⑩ 自己評価を行ったことによる効果・影響は、より大きなものとなった	第2サイクル	6%	50%	44%	0%	0%	32	3.63
機関10-	⑪ 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響は、より大きなものとなった	第2サイクル	13%	53%	34%	0%	0%	32	3.78



# 認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果【評価担当者】

## 【1. 評価基準及び観点について】

※平均欄の赤字はサイクル間で有意差があることを示す

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない

		5	4	3	2	1	合計	平均			
評1-	① 教育研究活動等の質を保证するために適切であった	第1サイクル	23%	68%	9%	0%	0%	149	4.14	<b>教育研究活動等の質を保证するために適切であった</b> 0% 20% 40% 60% 80% 100% ■ 強く思う ■ そう思う ■ どちらとも言えない ■ そう思わない ■ 全く思わない	
		第2サイクル	17%	81%	2%	0%	0%	47	4.15		
評1-	② 教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	第1サイクル	24%	66%	9%	0%	0%	149	4.15	<b>教育研究活動等の改善を促進するために適切であった</b> 0% 20% 40% 60% 80% 100% ■ 強く思う ■ そう思う ■ どちらとも言えない ■ そう思わない ■ 全く思わない	
		第2サイクル	28%	68%	4%	0%	0%	47	4.23		
評1-	③ 教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	第1サイクル	21%	62%	15%	1%	0%	149	4.03	<b>教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった</b> 0% 20% 40% 60% 80% 100% ■ 強く思う ■ そう思う ■ どちらとも言えない ■ そう思わない ■ 全く思わない	
		第2サイクル	17%	74%	9%	0%	0%	47	4.09		
評1-	④ 教育活動を中心に設定していることは適切であった	第1サイクル	45%	47%	7%	1%	0%	149	4.36	<b>教育活動を中心に設定していることは適切であった</b> 0% 20% 40% 60% 80% 100% ■ 強く思う ■ そう思う ■ どちらとも言えない ■ そう思わない ■ 全く思わない	
		第2サイクル	38%	60%	2%	0%	0%	45	4.36		
評1-	⑤ 評価しにくい評価基準又は観点があった	第1サイクル				2	1	合計	平均	[H19～22]2: ある～1: ない <b>評価しにくい評価基準又は観点があった</b> 0% 20% 40% 60% 80% 100% ■ ある ■ ない	
		第2サイクル				34%	66%	47	1.34		
評1-	⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった	第1サイクル				2	1	合計	平均	[H18より新設]2: ある～1: ない <b>内容が重複する評価基準又は観点があった</b> 0% 20% 40% 60% 80% 100% ■ ある ■ ない	
		第2サイクル				18%	82%	114	1.18		
評1-	⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった	第1サイクル				2	1	合計	平均	[H18より新設]2: ある～1: ない <b>内容が重複する評価基準又は観点があった</b> 0% 20% 40% 60% 80% 100% ■ ある ■ ない	
		第2サイクル				13%	87%	45	1.13		

## 【2. 評価の方法及び内容・結果について】

### 【(1) 自己評価書について】

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない

		5	4	3	2	1	合計	平均			
評2-(1)-	① 自己評価書は理解しやすかった	第1サイクル	3%	27%	52%	17%	1%	148	3.16	<b>自己評価書は理解しやすかった</b> 0% 20% 40% 60% 80% 100% ■ 強く思う ■ そう思う ■ どちらとも言えない ■ そう思わない ■ 全く思わない	
		第2サイクル	0%	30%	53%	17%	0%	47	3.13		
評2-(1)-	② 自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた	第1サイクル	5%	37%	45%	13%	0%	147	3.34	<b>自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた</b> 0% 20% 40% 60% 80% 100% ■ 強く思う ■ そう思う ■ どちらとも言えない ■ そう思わない ■ 全く思わない	
		第2サイクル	0%	36%	57%	6%	0%	47	3.30		
評2-(1)-	③ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた	第1サイクル	3%	34%	46%	16%	1%	148	3.22	<b>自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた</b> 0% 20% 40% 60% 80% 100% ■ 強く思う ■ そう思う ■ どちらとも言えない ■ そう思わない ■ 全く思わない	
		第2サイクル	0%	32%	55%	13%	0%	47	3.19		

### 【(2) 書面調査について】

		5	4	3	2	1	合計	平均			
評2-(2)-	① 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった	第1サイクル	16%	56%	26%	3%	0%	148	3.84	<b>機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった</b> 0% 20% 40% 60% 80% 100% ■ 強く思う ■ そう思う ■ どちらとも言えない ■ そう思わない ■ 全く思わない	
		第2サイクル	9%	66%	23%	2%	0%	47	3.81		
評2-(2)-	② 書面調査を行うために対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった	第1サイクル	6%	19%	56%	14%	4%	145	3.09*	<b>書面調査を行うために対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった</b> 0% 20% 40% 60% 80% 100% ■ 強く思う ■ そう思う ■ どちらとも言えない ■ そう思わない ■ 全く思わない	
		第2サイクル	2%	11%	57%	23%	6%	47	2.79*		

【(3) 訪問調査について】

		5	4	3	2	1	合計	平均		
評2-(3)-①	① 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった	第1サイクル	16%	67%	15%	2%	0%	146	3.97	<p>5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思うわない</p> <p>「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった</p>
		第2サイクル	7%	70%	18%	5%	0%	44	3.80	
評2-(3)-②	② 訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた	第1サイクル	33%	55%	10%	2%	0%	146	4.18	<p>訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた</p>
		第2サイクル	11%	84%	5%	0%	0%	44	4.07	
旧設問 評2-(3)-	③ 訪問調査の実施内容は適切であった <small>※平成22年度までの設問</small>	第1サイクル	33%	48%	17%	1%	1%	144	4.12	<p>訪問調査の実施内容は適切であった</p>
評2-(3)-③	③ 実施内容として面談等を設けたことは適切であった	第2サイクル	75%	23%	3%	0%	0%	40	4.73	<p>実施内容として面談等を設けたことは適切であった</p>
		第2サイクル	38%	55%	8%	0%	0%	40	4.30	
評2-(3)-④	④ 実施内容の方法は適切であった	第2サイクル	38%	55%	8%	0%	0%	40	4.30	<p>実施内容の方法は適切であった</p>
評2-(3)-⑤	⑤ 実施内容に係る時間配分は適切であった	第2サイクル	25%	48%	18%	10%	0%	40	3.88	<p>実施内容に係る時間配分は適切であった</p>
評2-(3)- ※旧設問 評2-(3)-④	⑥ 対象機関と教育研究活動等の共通理解を得ることができた	第1サイクル	26%	58%	13%	2%	0%	144	4.09	<p>対象機関と教育研究活動等の共通理解を得ることができた</p>
		第2サイクル	15%	68%	18%	0%	0%	40	3.98	
評2-(3)- ※旧設問 評2-(3)-⑤	⑦ 訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成は適切であった	第1サイクル	33%	56%	8%	3%	0%	144	4.19	<p>訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成は適切であった</p>
		第2サイクル	28%	44%	26%	2%	0%	50	3.98	
評2-(3)- ※旧設問 評2-(3)-⑥	⑧ 訪問調査における機構の事務担当者の対応は適切であった	第1サイクル	68%	30%	2%	0%	0%	145	4.66	<p>訪問調査における機構の事務担当者の対応は適切であった</p>
		第2サイクル	75%	23%	3%	0%	0%	40	4.73	

【(4) 評価結果について】

		5	4	3	2	1	合計	平均		
評2-(4)-①	① 自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された	第1サイクル	26%	64%	10%	0%	0%	147	4.16	<p>5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思うわない</p> <p>自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された</p>
		第2サイクル	28%	62%	9%	2%	0%	47	4.15	
評2-(4)-②	② 基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった	第1サイクル	27%	55%	16%	1%	0%	146	4.08	<p>基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった</p>
		第2サイクル	23%	62%	13%	2%	0%	47	4.06	
評2-(4)-③	③ 評価結果全体としての分量は適切であった	第1サイクル	17%	58%	21%	3%	1%	146	3.88	<p>評価結果全体としての分量は適切であった</p>
		第2サイクル	11%	63%	20%	4%	2%	46	3.76	
評2-(4)-④	④ 全体の評価結果と併せて「主な優れた点」「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった	第1サイクル	27%	62%	8%	2%	1%	146	4.14	<p>全体の評価結果と併せて「主な優れた点」「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった</p>
		第2サイクル	28%	60%	11%	2%	0%	47	4.13	



### 【3. 研修について】

		5	4	3	2	1	合計	平均	5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない		
評3-	① 研修の配付資料は理解しやすかった	第1サイクル	20%	69%	12%	0%	0%	137	4.08		
		第2サイクル	22%	63%	12%	2%	0%	41	4.05		
評3-	② 研修の説明内容は理解しやすかった	第1サイクル	23%	64%	12%	1%	0%	137	4.09		
		第2サイクル	24%	66%	7%	2%	0%	41	4.12		
評3-	③ 研修の内容は役立った	第1サイクル	37%	53%	8%	1%	0%	137	4.26		
		第2サイクル	44%	51%	5%	0%	0%	41	4.39		
評3-	④ 自己評価書のサンプルの提示は役立った <small>※平成20年度までは「書面調査のシミュレーションは役立った」</small>	第1サイクル	26%	45%	23%	6%	0%	137	3.91		
		第2サイクル	24%	54%	20%	2%	0%	41	4.00		
評3-	⑤ 研修に費やした時間の長さは適切であった	第1サイクル	15%	47%	31%	7%	0%	137	3.69		
		第2サイクル	12%	56%	27%	5%	0%	41	3.76		

### 【4. 評価の作業量、スケジュール等について】

#### 【(1) 評価に費やした作業量について】

		5	4	3	2	1	合計	平均	5: とても大きい～3: 適当～1: とても小さい		
評4-(1)-	① 自己評価書の書面調査(作業量)	第1サイクル	46%	40%	13%	1%	0%	146	4.30		
		第2サイクル	33%	49%	18%	0%	0%	45	4.16		
評4-(1)-	② 訪問調査への参加(作業量)	第1サイクル	6%	29%	63%	1%	0%	145	3.40		
		第2サイクル	5%	18%	69%	5%	3%	39	3.18		
評4-(1)-	③ 評価結果の作成(作業量)	第1サイクル	3%	17%	72%	7%	1%	144	3.14		
		第2サイクル	5%	16%	75%	2%	2%	44	3.18		

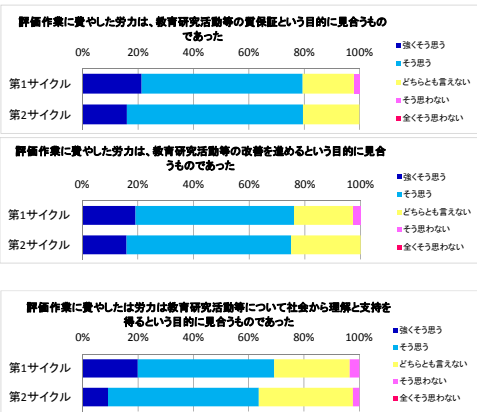
#### 【(2) 機構の設定した作業期間について】

		5	4	3	2	1	合計	平均	5: とても長い～3: 適当～1: とても短い		
評4-(2)- ※旧設問 4-(1)-①	① 自己評価書の書面調査(作業期間)	第1サイクル	23%	18%	29%	23%	5%	146	3.31*		
		第2サイクル	2%	0%	50%	43%	5%	44	2.52*		
評4-(2)- ※旧設問 4-(1)-②	② 訪問調査への参加(作業期間)	第1サイクル	7%	16%	74%	3%	0%	145	3.28*		
		第2サイクル	3%	0%	82%	13%	3%	38	2.87*		
評4-(2)- ※旧設問 4-(1)-③	③ 評価結果の作成(作業期間)	第1サイクル	4%	10%	78%	6%	1%	144	3.09		
		第2サイクル	2%	0%	95%	2%	0%	42	3.02		

【(3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて】

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない

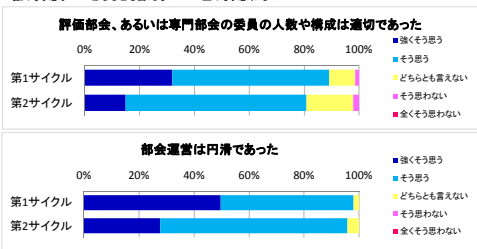
		5	4	3	2	1	合計	平均
評4-(3)- ※旧設問 4-(2)-①	① 評価作業に費やした労力は、教育研究活動等の質保証という目的に見合うものであった	21%	58%	18%	2%	0%	146	3.99
	第2サイクル	16%	64%	20%	0%	0%	44	3.95
評4-(3)- ※旧設問 4-(2)-②	② 評価作業に費やした労力は、教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった	19%	57%	21%	3%	0%	146	3.92
	第2サイクル	16%	59%	25%	0%	0%	44	3.91
評4-(3)- ※旧設問 4-(2)-③	③ 評価作業に費やした労力は教育研究活動等について社会から理解と支持を得るとい目的に見合うものであった	20%	49%	27%	3%	0%	146	3.86
	第2サイクル	9%	55%	34%	2%	0%	44	3.70



【5. 評価部会等の運営について】

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない

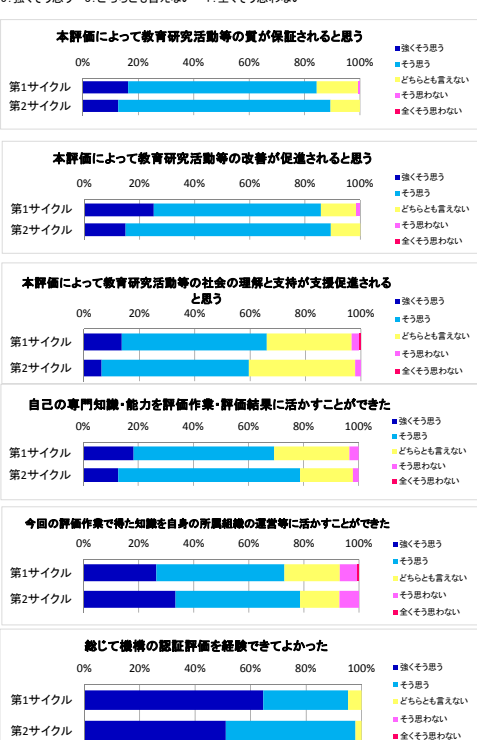
		5	4	3	2	1	合計	平均
評5-	① 評価部会、あるいは専門部会の委員の人数や構成は適切であった	32%	57%	10%	1%	0%	147	4.20*
	第2サイクル	15%	66%	17%	2%	0%	47	3.94*
評5-	② 部会運営は円滑であった	50%	48%	2%	0%	0%	147	4.48*
	第2サイクル	28%	68%	4%	0%	0%	47	4.23*



【6. 評価全般について】

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない

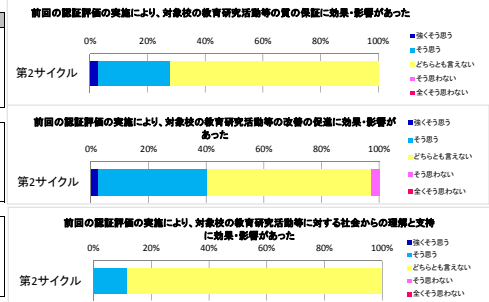
		5	4	3	2	1	合計	平均
評6-	① 本評価によって教育研究活動等の質が保証されると思う	16%	68%	15%	1%	0%	147	4.00
	第2サイクル	13%	77%	11%	0%	0%	47	4.02
評6-	② 本評価によって教育研究活動等の改善が促進されると思う	25%	61%	13%	1%	0%	147	4.10
	第2サイクル	15%	74%	11%	0%	0%	47	4.04
評6-	③ 本評価によって教育研究活動等の社会の理解と支持が支援促進されると思う	14%	52%	31%	3%	1%	147	3.76
	第2サイクル	6%	53%	38%	2%	0%	47	3.64
評6-	④ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた	18%	51%	27%	3%	0%	147	3.84
	第2サイクル	13%	66%	19%	2%	0%	47	3.89
評6-	⑤ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた	26%	47%	20%	6%	1%	144	3.92
	第2サイクル	33%	45%	14%	7%	0%	42	4.05
評6-	⑥ 総じて機構の認証評価を経験できてよかった	65%	31%	5%	0%	0%	147	4.60
	第2サイクル	51%	47%	2%	0%	0%	47	4.49



【7. 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について】

			5	4	3	2	1	合計	平均
評7-	① 前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった	第2サイクル	3%	25%	72%	0%	0%	36	3.31
評7-	② 前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった	第2サイクル	3%	38%	57%	3%	0%	37	3.41
評7-	③ 前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった	第2サイクル	0%	12%	88%	0%	0%	34	3.12

【H23より新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない



## 平成25年度実施選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート

**選択的評価事項に係る評価を受けた対象校のみお答えください。**

- ① 今回、受けた選択的評価事項について、該当するものに○をお付けください

・ 選択的評価事項 A 「研究活動の状況」	
・ 選択的評価事項 B 「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」	

- ② 選択的評価事項に係る評価を受けた理由をご記入ください

強く どちらとも 全くそう  
 そう思う ← 言えない → 思わない  
 (5) (3) (1)

- ③ 認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

- ④ 「研究活動の状況」や「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」  
 を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

- ⑤ 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

- ⑥ 基本的な観点の構成や内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

迷った	迷っていない	
2	1	

⑦ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った

→※⑦について、2とご回答いただいた場合、どのような点で迷ったのかをご記入ください。

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

⑧ 「書面調査による分析状況」の内容は適切であった -----

→※⑧について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

⑨ 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった -----

→※⑨について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑩ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった -----

⑪ 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイト等で公表している -----

⑫ 評価報告書をウェブサイト等で公表している -----

している	していない	
2	1	
2	1	

・選択的評価事項に係る評価についてのご意見、ご感想があればご記入ください。(選択的評価事項に係る評価を受けて何らかの変更・改善を予定しているもの(または実施済みのもの)があれば、それをご記入ください。)

ご協力ありがとうございました。

## 平成25年度実施選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート

**選択的評価事項に係る評価を担当された方のみお答えください。**

- ① 今回、評価を担当された選択的評価事項について、該当するものに○をお付けください

・選択的評価事項 A 「研究活動の状況」	
・選択的評価事項 B 「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」	

強く  
そう思う ← 言えない → 全くそう  
思わない  
(5) (3) (1)

- ② 認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

- ③ 「研究活動の状況」や「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」  
を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

- ④ 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示す  
という方法は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

- ⑤ 基本的な観点の構成や内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

- ⑥ 対象校の自己評価書は理解しやすかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が理解しにくかったかをご記入ください。

⑦ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑦について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかをご記入ください。

--

⑧ 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑧について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が記入しにくかったかをご記入ください。

--

⑨ 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑨について、5又は4とご回答いただいた場合、どのような情報（客観的データ等）があればよかったかをご記入ください。

--

⑩ 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

⑪ 自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--



- ・ 選択的評価事項に係る評価についてご意見、ご感想等をご記入ください。

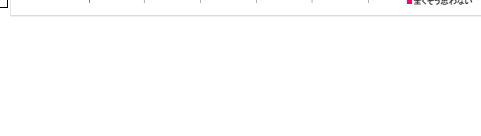
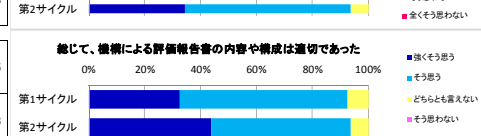
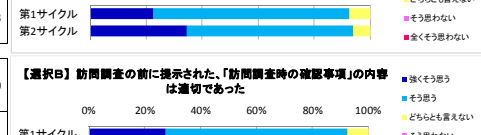
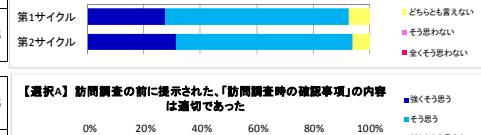
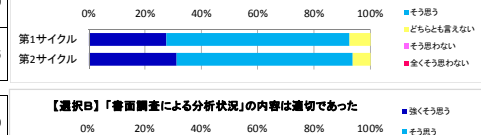
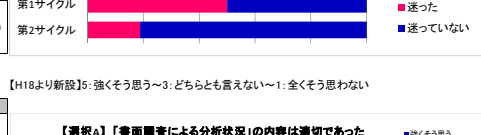
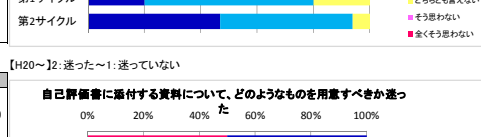
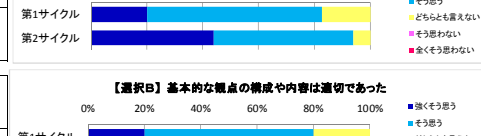
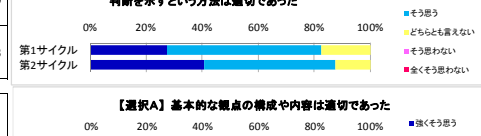
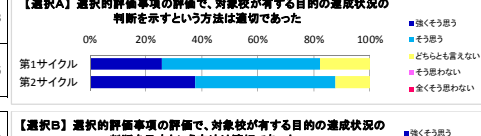
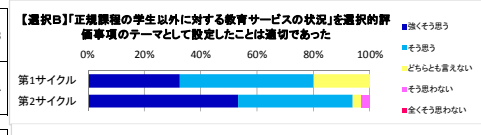
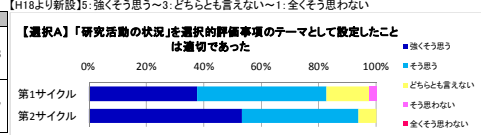
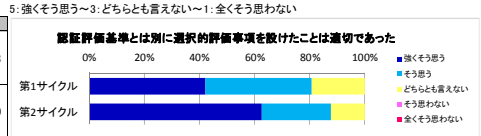
ご協力ありがとうございました。

## 選択的評価事項に係る評価の検証のための経年集計結果 【対象校】

※設問①、②は省略

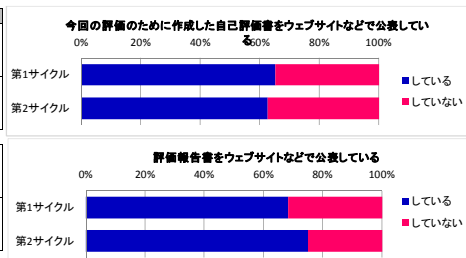
※平均欄の赤字はサイクル間で有意差があることを示す

機関	選③	内容	第1サイクル	第2サイクル	5	4	3	2	1	合計	平均
					5	4	3	2	1		
機関 選③	選③	認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であった	第1サイクル	42%	39%	19%	0%	0%	57	4.23	
			第2サイクル	63%	25%	13%	0%	0%	32	4.50	
機関 選④	選④	【選択A】「研究活動の状況」を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった	第1サイクル	38%	45%	15%	3%	0%	40	4.18	
			第2サイクル	53%	41%	6%	0%	0%	32	4.47	
機関 選⑤	選⑤	【選択B】「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった	第1サイクル	33%	48%	20%	0%	0%	40	4.13	
			第2サイクル	53%	41%	3%	3%	0%	32	4.44	
機関 選⑥	選⑥	【選択A】 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった	第1サイクル	26%	56%	18%	0%	0%	39	4.08	
			第2サイクル	38%	50%	13%	0%	0%	32	4.25	
機関 選⑦	選⑦	【選択B】 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった	第1サイクル	28%	55%	18%	0%	0%	40	4.10	
			第2サイクル	41%	47%	13%	0%	0%	32	4.28	
機関 選⑧	選⑧	【選択A】 基本的な観点の構成や内容は適切であった	第1サイクル	20%	63%	18%	0%	0%	40	4.03*	
			第2サイクル	44%	50%	6%	0%	0%	32	4.38*	
機関 選⑨	選⑨	【選択B】 基本的な観点の構成や内容は適切であった	第1サイクル	20%	60%	20%	0%	0%	40	4.00*	
			第2サイクル	47%	47%	6%	0%	0%	32	4.41*	
機関 選⑩	選⑩	自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った	第1サイクル				50%	50%	2	1.50	
			第2サイクル				19%	81%	32	1.19	
機関 選⑪	選⑪	【選択A】「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	第1サイクル	28%	65%	8%	0%	0%	40	4.20	
			第2サイクル	31%	63%	6%	0%	0%	32	4.25	
機関 選⑫	選⑫	【選択B】「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	第1サイクル	28%	65%	8%	0%	0%	40	4.20	
			第2サイクル	31%	63%	6%	0%	0%	32	4.25	
機関 選⑬	選⑬	【選択A】 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	第1サイクル	23%	70%	8%	0%	0%	40	4.15	
			第2サイクル	34%	59%	6%	0%	0%	32	4.28	
機関 選⑭	選⑭	【選択B】 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	第1サイクル	28%	65%	8%	0%	0%	40	4.20	
			第2サイクル	34%	59%	6%	0%	0%	32	4.28	
機関 選⑮	選⑮	総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった	第1サイクル	33%	60%	8%	0%	0%	40	4.25	
			第2サイクル	44%	50%	6%	0%	0%	32	4.38	



【H19～】2:している～1:していない

		2	1	合計	平均	
機関選①	今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している ※平成18年度は5段階評価となっているため、除外して合計を算出	第1サイクル	65%	35%	23	1.65
	第2サイクル	63%	38%	32	1.63	
機関選②	評価報告書をウェブサイトなどで公表している ※平成18年度は5段階評価となっているため、除外して合計を算出	第1サイクル	68%	32%	22	1.68
	第2サイクル	75%	25%	32	1.75	



## 選択的評価事項に係る評価検証結果経年分析【評価担当者】【高等専門学校】

※設問①は省略

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

※平均値の赤字はサイクル間で有意差があることを示す

評 選②	認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であった		5 4 3 2 1					合計	平均	【認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であった】
			5	4	3	2	1			
		第1サイクル	32%	43%	22%	3%	0%	102	4.05	
		第2サイクル	38%	44%	18%	0%	0%	34	4.21	

【H18より新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

評 選③	【選択A】「研究活動の状況」を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった		5 4 3 2 1					合計	平均	【選択A】「研究活動の状況」を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった
			5	4	3	2	1			
		第1サイクル	35%	46%	13%	6%	0%	69	4.10	
		第2サイクル	35%	50%	15%	0%	0%	34	4.21	
評 選③	【選択B】「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった		5 4 3 2 1					合計	平均	【選択B】「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった
			5	4	3	2	1			
		第1サイクル	34%	47%	15%	4%	0%	68	4.10	
		第2サイクル	32%	44%	21%	3%	0%	34	4.06	

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

評 選④	【選択A】 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった		5 4 3 2 1					合計	平均	【選択A】 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった
			5	4	3	2	1			
		第1サイクル	22%	49%	28%	1%	0%	69	3.91	
		第2サイクル	15%	62%	24%	0%	0%	34	3.91	
評 選④	【選択B】 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった		5 4 3 2 1					合計	平均	【選択B】 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった
			5	4	3	2	1			
		第1サイクル	21%	50%	26%	3%	0%	68	3.88	
		第2サイクル	15%	65%	21%	0%	0%	34	3.94	

【H18より新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

評 選⑤	【選択A】 基本的な観念の構成や内容は適切であった		5 4 3 2 1					合計	平均	【選択A】 基本的な観念の構成や内容は適切であった
			5	4	3	2	1			
		第1サイクル	16%	61%	23%	0%	0%	69	3.93	
		第2サイクル	12%	79%	9%	0%	0%	34	4.03	
評 選⑤	【選択B】 基本的な観念の構成や内容は適切であった		5 4 3 2 1					合計	平均	【選択B】 基本的な観念の構成や内容は適切であった
			5	4	3	2	1			
		第1サイクル	19%	59%	21%	1%	0%	68	3.96	
		第2サイクル	12%	79%	9%	0%	0%	34	4.03	

評 選⑥	対象校の自己評価書は理解しやすかった		5 4 3 2 1					合計	平均	対象校の自己評価書は理解しやすかった
			5	4	3	2	1			
		第1サイクル	8%	54%	35%	3%	0%	71	3.68	
		第2サイクル	9%	44%	38%	9%	0%	34	3.53	

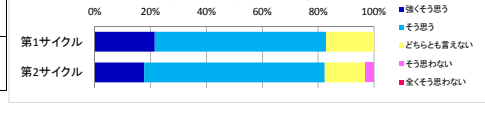
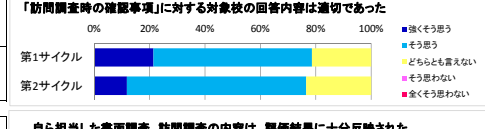
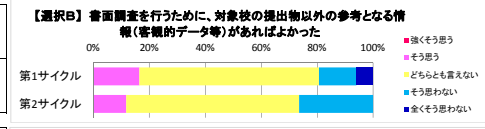
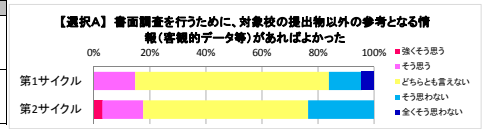
評 選⑦	【選択A】 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた		5 4 3 2 1					合計	平均	【選択A】 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた
			5	4	3	2	1			
		第1サイクル	9%	62%	29%	0%	0%	69	3.80	
		第2サイクル	6%	71%	24%	0%	0%	34	3.82	

評 選⑦	【選択B】 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた		5 4 3 2 1					合計	平均	【選択B】 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた
			5	4	3	2	1			
		第1サイクル	10%	61%	27%	1%	0%	67	3.81	
		第2サイクル	3%	71%	26%	0%	0%	34	3.76	

評 選⑧	【選択A】 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった		5 4 3 2 1					合計	平均	【選択A】 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった
			5	4	3	2	1			
		第1サイクル	20%	57%	23%	0%	0%	69	3.97	
		第2サイクル	9%	79%	12%	0%	0%	34	3.97	

評 選⑧	【選択B】 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった		5 4 3 2 1					合計	平均	【選択B】 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった
			5	4	3	2	1			
		第1サイクル	19%	54%	26%	0%	0%	68	3.93	
		第2サイクル	6%	82%	12%	0%	0%	34	3.94	

				5	4	3	2	1	合計	平均
評 選⑨	【選択A】 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった	第1サイクル	0%	15%	69%	12%	4%	68	2.94	
		第2サイクル	3%	15%	59%	24%	0%	34	2.97	
評 選⑩	【選択B】 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった	第1サイクル	0%	16%	64%	13%	6%	67	2.91	
		第2サイクル	0%	12%	62%	26%	0%	34	2.85	
評 選⑩	「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった	第1サイクル	21%	57%	21%	0%	0%	70	4.00	
		第2サイクル	12%	65%	24%	0%	0%	34	3.88	
評 選⑪	自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された	第1サイクル	21%	61%	17%	0%	0%	70	4.04	
		第2サイクル	18%	65%	15%	3%	0%	34	3.97	



高等専門学校機関別認証評価 基準・観点別の「優れた点」「改善すべき点」一覧

基準	観点番号	内容	主な優れた点	優れた点	主な改善を要する点	改善を要する点
基準1	1-1-①	高等専門学校の目的が、それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ、その内容が、学校教育法第115条に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また、学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。	0	2	3	5
	1-2-①	目的が、学校の構成員(教職員及び学生)に周知されているか。	0	0	0	19
	1-2-②	目的が、社会に広く公表されているか。	0	0	0	0
	小計		0	2	3	24
基準2	2-1-①	学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。	0	0	0	0
	2-1-②	専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。	0	0	0	0
	2-1-③	全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。	6	9	0	0
	2-2-①	教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。	0	0	0	0
	2-2-②	一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。	3	9	0	1
	2-2-③	教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。	0	7	0	0
	小計		9	25	0	1
基準3	3-1-①	教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。	0	2	0	0
	3-1-②	教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。	0	1	0	0
	3-1-③	専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。	0	1	0	0
	3-1-④	学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。	0	5	0	0
	3-2-①	全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等、適切な取組がなされているか。	3	10	0	0
	3-2-②	教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用がなされているか。	0	0	0	2
	3-3-①	学校における教育活動を展開するために必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。	1	2	0	0
	小計		4	21	0	2
基準4	4-1-①	教育の目的に沿って、求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。	0	0	1	4
	4-2-①	入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。	0	2	0	2
	4-2-②	入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。	0	0	0	2
	4-3-①	実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われる等、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。	0	0	1	3
	小計		0	2	2	11

基準	観点番号	内容	主な優れた点	優れた点	主な改善を要する点	改善を要する点
基準5	準学士課程					
	5-1-①	教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。	1	5	2	7
	5-1-②	教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に配慮しているか。	11	33	0	0
	5-2-①	教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。	3	7	0	0
	5-2-②	教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバス※)が作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示等、内容が適切に整備され、活用されているか。	1	2	1	8
	5-2-③	創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また、インターンシップの活用が図られているか。	18	36	0	0
	5-3-①	教育課程の編成において、一般教育の充実や特別活動の実施等、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。また、教育の目的に照らして、課外活動※)等において、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。	3	8	0	0
	5-4-①	成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。	0	3	0	13
	専攻科課程					
	5-5-①	教育の目的に照らして、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。	0	0	0	0
	5-5-②	教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。	0	2	2	6
	5-5-③	教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に配慮しているか。	1	8	0	0
	5-6-①	教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。	3	4	0	0
	5-6-②	教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示等、内容が適切に整備され、活用されているか。	1	4	2	6
	5-6-③	創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また、インターンシップの活用が図られているか。	25	34	0	3
5-7-①	教育の目的に照らして、教養教育や研究指導が適切に行われているか。	0	1	0	0	
5-8-①	成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。	0	2	1	11	
小計		67	149	8	54	

基準	観点番号	内容	主な優れた点	優れた点	主な改善を要する点	改善を要する点
基準6	6-1-①	高等専門学校として、その教育の目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業(修了)時に身に付ける学力や資質・能力、養成しようとする人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。	0	1	10	13
	6-1-②	各学年や卒業(修了)時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、学校としてその達成状況を評価した結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。	0	1	2	3
	6-1-③	教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業(修了)後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。	34	34	0	0
	6-1-④	学生が行う学習達成度評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。	0	1	3	11
	6-1-⑤	卒業(修了)生や進路先等の関係者から、卒業(修了)生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業(修了)後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。	0	3	2	11
	小計		34	40	17	38
基準7	7-1-①	学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。	1	4	0	0
	7-1-②	自主的学習環境及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。	0	5	0	0
	7-1-③	学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また、資格試験や検定試験の受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。	0	2	0	0
	7-1-④	特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。	0	5	0	0
	7-1-⑤	学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。	1	4	0	0
	7-2-①	学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。	1	6	0	0
	7-2-②	特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。	0	3	0	0
	7-2-③	学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。	1	5	0	1
	7-2-④	就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。	3	6	0	0
	小計		7	40	0	1
基準8	8-1-①	学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され、適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされているか。	1	5	1	4
	8-1-②	教育内容、方法や学生のニーズを満たすICT※)環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。	0	3	0	0
	8-2-①	図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。	0	3	0	0
	小計		1	11	1	4



基準	観点番号	内容	主な優れた点	優れた点	主な改善を要する点	改善を要する点
基準9	9-1-①	教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。	0	1	0	0
	9-1-②	学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価※が、学校として策定した基準に基づいて、適切に行われているか。	0	1	2	12
	9-1-③	各種の評価の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され、教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。	2	3	0	2
	9-1-④	個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。	2	6	0	0
	9-1-⑤	研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。	3	8	0	0
	9-2-①	ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。	5	7	0	0
	9-2-②	教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。	1	3	0	0
	小計		13	29	2	14
基準10	10-1-①	学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また、債務が過大ではないか。	0	0	0	0
	10-1-②	学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。	0	0	0	0
	10-1-③	学校の目的を達成するために、外部の財務資源の活用策を策定し、実行しているか。	0	0	0	0
	10-2-①	学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。	0	0	0	0
	10-2-②	収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。	0	0	0	0
	10-2-③	学校の目的を達成するため、教育研究活動(必要な施設・設備の整備を含む)に対し、適切な資源配分がなされているか。	0	0	0	0
	10-3-①	学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。	0	0	0	0
	10-3-②	財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。	0	0	0	0
小計		0	0	0	0	
基準11	11-1-①	学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。	2	3	0	0
	11-1-②	管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。また、危機管理に係る体制が整備されているか。	0	0	0	0
	11-2-①	自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、その結果が公表されているか。	1	1	10	10
	11-2-②	自己点検・評価の結果について、外部有識者等による検証が実施されているか。	0	0	0	0
	11-2-③	評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。	1	3	0	1
	11-3-①	外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されているか。	0	1	0	0
	11-3-②	学校の目的を達成するために、外部の教育資源を積極的に活用しているか。	5	15	0	0
	11-4-①	高等専門学校における教育研究活動等の状況や、その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信しているか。	0	1	1	1
小計		9	24	11	12	
合計			144	343	44	161